

科目名	絵画概論		年次	0	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	講義		
教員名	泉谷 淑夫					
クラス名						
授業目的と到達目標						
テーマに掲げる「絵画の可能性と多様性」に多面的にアプローチし、絵画への理解を深めるとともに、美術の制作に役立つ鑑賞力を養うのが授業目的である。授業を通して、鑑賞力に含まれる芸術的感受力、内容読解力、造形的思考力、総合的批評力、発展的着想力を高めていくのが到達目標となる。						
授業概要						
対面授業で行う。西洋絵画、日本絵画、前衛絵画を鑑賞対象とし、豊富な視覚資料をスライドショー等で提示して、「考えながら見る」習慣を徐々に身につけさせていく。その際に比較鑑賞や細部鑑賞を活用して、作品の造形的本質に迫っていく。教師の問いかけに受講生が答える対話形式で理解を深めていく授業形態なので、受講生には積極的な意見発表が求められる。						
受講上の注意						
事前に予備知識を入れる必要はないが、とにかく授業に集中して参加し、気づいたことや考えたことをメモする習慣を着け、レポート作成に備える姿勢が望まれる。なお、テキストは必ず事前に購入しておくこと。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
テキスト『美との対話』からの発展レポートと2回の「授業のまとめレポート」の採点結果と、授業に取り組む姿勢を総合して評価する。				100		
教科書情報						
教科書1	美との対話－鑑賞への誘い－					
出版社名	日本文教出版		著者名	泉谷淑夫		
教科書2						
出版社名			著者名			

教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	鑑賞ガイドブック・日本美術 101、鑑賞ガイドブック・西洋美術 101		
出版社名	三元社	著者名	神林恒道、新関伸也、泉谷淑夫 他
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
全部の講義に出席していても、テキスト『美との対話』からの発展レポートや「授業のまとめレポート」の記述内容から著しく学んでいないと判断された場合は不可になります。各レポートの合格ラインは 60% です。			
教員実務経験			
教員は長年にわたって絵画制作・発表と並行して、実践的な鑑賞教育について研究し、著書や論文も著している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス: スライドショーによる授業者の絵画制作紹介と絵画制作における鑑賞の重要性についての講義		
2	社会における美術の役割 TVドラマの録画視聴とスライドショーによる物語の構造分析		
3	北斎に学ぶ自己教育の構造 TVの「北斎」特集番組の録画視聴とスライドショーによる絵画制作における自己教育のメカニズムの解説		

4	自分に合った表現を求めて①ピカソの場合 スライドショーでピカソの表現の変遷をたどり、ピカソが生涯をかけて求めたものを探る。
5	自分に合った表現を求めて②フジタの場合 スライドショーでフジタの表現の変遷をたどり、画家と戦争の関係を問い直す。
6	西洋絵画の主題「神話と聖書」 ボッティチェリの描いたヴィーナスとラファエロの描いた聖母の比較鑑賞から、西洋絵画の主要のモチーフとしての人物表現について考える。
7	日本絵画の主題「虫」 西洋絵画の主題と対照的な「虫」という日本的な主題にアプローチし、多様な作家の表現から日本人の「虫を愛でる心」を探っていく。
8	レポート作成① 前半 7 回の授業を振り返って、印象的だったものを三つ選び、「授業のまとめレポート」を作成する。
9	細密描写をじっくり味わう ヤン・ヴァン・エイク、アルトドルファー、プリューゲルを取り上げ、西洋北方絵画の特色である細密描写にスライドショーで迫る。
10	質感描写を味わう テル・ボルフ、ヘーダ、ルーベンスを取り上げ、西洋絵画の油彩技法が到達したし質感描写の神髄に迫る。
11	視覚装置としての絵画の可能性① 西洋の宗教画に見られる三連祭壇画をボスの代表作で見えていく。比較として浮世絵師・国芳の大判三枚続きも紹介する。
12	視覚装置としての絵画の可能性② 日本の屏風絵を取り上げ、絵画装置としての屏風絵の構造と魅力に迫る。合わせて屏風絵を通した「琳派の絆」についても見ていく。
13	現代美術の冒険者たち① 現代において「絵画の可能性と多様性」を追求する魅力的な作家を取り上げ、スライドショーで詳しく紹介する。
14	現代美術の冒険者たち② 現代において「絵画の可能性と多様性」を追求する魅力的な作家を取り上げ、スライドショーで詳しく紹介する。
15	レポート作成② 後半 6 回の授業を振り返って、印象的だったものを三つ選び、「授業のまとめレポート」を作成する。

科目名	ガラス工芸論	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	佐々木 雅浩、穂吉 学				
クラス名					
授業目的と到達目標					
ガラス工芸の歴史的変遷、素材としての特徴、技法に至るまで幅広く考察しながら、現代ガラス、将来へのガラスへと結びつけて行く。					
授業概要					
対面授業 PC プレゼンテーションや動画による講義と、 参考作品を実際に手で触って実感してもらいながら授業を進める。 学生にはリサーチ発表と記述試験を必須とする。					
受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
リサーチ発表			60		
記述試験			30		
積極的な授業態度			10		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	世界ガラス工芸史				
出版社名	美術出版社	著者名	中山公男 編		

参考書名2	「自分だけの答え」が見つかる 13歳からのアート思考		
出版社名	ダイヤモンド社	著者名	末永 幸歩
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
佐々木 雅浩（集中講義担当） 愛知教育大学教授 穂吉 学（前期担当） 前技術指導員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業ガイダンス		
2	ガラス技法論Ⅰ ガラスの技法と本学の設備について		
3	ガラス工芸史Ⅰ 古代		
4	ガラス工芸史Ⅱ 中世		
5	ガラス工芸史Ⅲ 近代		
6	ガラス技法論Ⅱ ガラス(キルンワーク)焼成プロセスについて		
7	日本の「うつわ」の歴史		
8	日本の美「茶の湯」の発展とその歴史		
9	茶道具とガラス		
10	生け花とガラス		
11	自作品について ・ガラスを生業に生きるということ・夢		
12	ガラス工芸史Ⅳ 現代		
13	ガラス工芸コース4回生と院生によるプレゼンテーション テーマ:『ガラス私観』		

14	リサーチ発表 テーマ:『自分のこだわり』 5～10分プレゼン発表
15	記述試験 『ガラス私観』・表題をつける ・700～800 字
16	<集中講義・1日目> 美術作品鑑賞方法Ⅰ ガイダンス
17	<集中講義・1日目> 美術作品鑑賞方法Ⅱ 美術史
18	<集中講義・1日目> 美術作品鑑賞方法Ⅲ 工芸史
19	<集中講義・1日目> 美術作品鑑賞方法Ⅳ 世界ガラス工芸史
20	<集中講義・1日目> 美術作品鑑賞方法Ⅴ 日本ガラス工芸史
21	<集中講義・2日目> 吹きガラスデモⅠ
22	<集中講義・2日目> 吹きガラスデモⅡ
23	<集中講義・2日目> 自作品について
24	<集中講義・2日目> ガラス工芸の現在
25	<集中講義・2日目> ガラス技法論Ⅲ 技法の発展
26	<集中講義・3日目> ガラス材料学
27	<集中講義・3日目> ガラス工業の世界
28	<集中講義・3日目> 制作のための環境づくり
29	<集中講義・3日目> 卒業後の進路紹介
30	<集中講義・3日目> グループワーク・記述試験

科目名	金工論		年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	講義		
教員名	三好 正豊					
クラス名						
授業目的と到達目標						
金属工芸の基礎知識を理解して学び、金属工芸で用いられている技法(彫金・鋳金・鍛金)歴史を知り、現代の金属工芸について学ぶ。 受講を通じて金工の基礎的な知識、技法、作家のものづくりへの姿勢を学び各自の作品制作に結びつける。						
授業概要						
金属工芸では様々な作品が作られている。それはどのような意味があり、どんな技法、素材で作られたかを時代を追って述べる。又現代の金属工芸作品についてプリント、動画等を用いて解説し各自の作品制作の手助けとする。						
受講上の注意						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
提出感想文				60		
受講態度				40		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1	工芸家のための金属ノート金属ノート					

出版社名	香取一男	著者名	香取一男
参考書名2	金工の伝統技法		
出版社名	理工学社	著者名	香取正彦・伊尾敏雄・井伏圭介
参考書名3	金工の着色技法		
出版社名	理工学社	著者名	長野裕・伊尾健二
参考書名4	黄金有情		
出版社名	里文出版	著者名	大角幸枝
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
千家十職中川浄益茶道具製作に従事、大阪府指定無形文化財「鍛金」保持者			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	金属の成立ち		
2	金(Ag)		
3	金属アレルギー		
4	金属に携わる人々		
5	布目象嵌、日本とスペイン		
6	①日本刀を支える人々		
7	②日本刀を支える人々		
8	鉄鋳物		
9	自在置物		
10	次世代の芸術家たち		
11	外国の金属造形作家たち		
12	女性金属造形作家たち		

13	鎚起(ツイキ)金属の塊、厚板を金槌で打ち延べて器を成形する技法。
14	研磨・着色技法
15	万年時計

科目名	工芸Ⅰ	年次	3	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	長谷川 政弘、水野 年彦				
クラス名	17以前生・金属工芸クラス				

授業目的と到達目標

金属工芸において重要である金属素材の特性を理解し、それに応じた加工技法(切る、曲げる、接合)や表現方法を学びます。それに加え、造形性だけではなく「使える事」の大切さも考慮しながら制作する事を学びます。金属工芸における基本的な「彫金技法」「鍛金技法」を、制作を通して理解し習得する事を目標とします。

授業概要

【対面授業】前半 3 回は「彫金技法」を用いて「真鍮」を素材にトレーを制作します。図柄をデザインし真鍮板に金属用の糸鋸を使って透かし紋様を施しパーツを接合するための半田付けを行います。後半 3 回は「鍛金技法」を用いて「アルミニウム」を素材にお皿やコップ・食器か動物のどちらかを選択して制作します。アルミを火で炙り加工しやすく、デザインを元に制作していきます。当て金や金槌を使い「鍛金技法」の基礎を行います。

受講上の注意

私たちはたくさんの金属に囲まれて生活しています。それは構造物、機械、道具、美術品、日用品であったりと多種多様に存在しています。それはどんな種類の金属なのか?どんな加工を通して生産されたのか?想像してみてください。授業のなかで発表してもらいます。授業回数が少ないので遅刻、欠席は厳禁。作業ができる服装でのぞむ事。(バーナーや道具を使用します)筆記用具、軍手、ボロ布(綿素材)を持参。

成績評価方法・基準

種別	割合 (%)
制作作品及び作品構想	60
授業に取り組む姿勢	40

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	

教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	金工基礎実習		
出版社名	丸善株式会社	著者名	佐々田美雪/長谷川政弘
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
http://masaab.sakura.ne.jp			
特記事項			
教員実務経験			
金属造形作家と鋳金作家が指導にあたります。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【対面】1 日目「真鍮トレイ」透かし模様のアイデアスケッチ		
2	【対面】1 日目「真鍮トレイ」全体の構成		
3	【対面】1 日目「真鍮トレイ」展開図の作成		
4	【対面】1 日目「真鍮トレイ」厚紙による模型の作成		
5	【対面】1 日目「真鍮トレイ」透かし模様を真鍮板に転写		
6	【対面】2 日目「真鍮トレイ」糸鋸による本体の透かし作業		
7	【対面】2 日目「真鍮トレイ」糸鋸による本体の透かし作業		

8	【対面】 2 日目「真鍮トレイ」糸鋸による本体の透かし作業
9	【対面】 2 日目「真鍮トレイ」機械、工具を使って曲げ加工
10	【対面】 2 日目「真鍮トレイ」部品の切り出し、透かし作業
11	【対面】 3 日目「真鍮トレイ」本体と部品の半田付け
12	【対面】 3 日目「真鍮トレイ」仕上げ(ヤスリ、耐水ペーパー、金属研磨)
13	【対面】 3 日目「真鍮トレイ」仕上げ(ヤスリ、耐水ペーパー、金属研磨)
14	【対面】 3 日目 合評:学生による作品説明と作品鑑賞
15	【対面】 3 日目 合評:教員の講評
16	【対面】 4 日目「コップ・鍋」「動物」アイデアスケッチ
17	【対面】 4 日目「コップ・鍋」「動物」アイデアスケッチ
18	【対面】 4 日目「コップ・鍋」地金の取り方を考える。 「動物」ケント紙動物の展開図を考える。
19	【対面】 4 日目 「コップ・鍋」地金の取り方を考える。 「動物」ケント紙動物の展開図を考える。
20	【対面】 4 日目「アルミ」の加工。金槌や当て金を使い、叩きながら加工する。
21	【対面】 5 日目「アルミ」の加工。金槌や当て金を使い、叩きながら加工する。
22	【対面】 5 日目「アルミ」の加工。金槌や当て金を使い、叩きながら加工する。
23	【対面】 5 日目「アルミ」の加工。金槌や当て金を使い、叩きながら加工する。
24	【対面】 5 日目「アルミ」の加工。金槌や当て金を使い、叩きながら加工する。表面の仕上げ打ち。
25	【対面】 5 日目 「アルミ」の加工。金槌や当て金を使い、叩きながら加工する。表面の仕上げ打ち。形を切る。仕上げ。
26	【対面】 6 日目 「アルミ」の加工。残りの材料でお皿・スプーン・など制作。 合評:学生による作品説明、教員の講評
27	【対面】 6 日目「アルミ」の加工。残りの材料でお皿・スプーン・など制作。 合評:学生による作品説明、教員の講評
28	【対面】 6 日目「アルミ」の加工。残りの材料でお皿・スプーン・など制作。 合評:学生による作品説明、教員の講評
29	【対面】 6 日目「アルミ」の加工。残りの材料でお皿・スプーン・など制作。 合評:学生による作品説明、教員の講評
30	【対面】 6 日目「アルミ」の加工。残りの材料でお皿・スプーン・など制作。 合評:学生による作品説明、教員の講評

科目名	工芸Ⅰ	年次	3	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	三木 陽子、南野 馨				
クラス名	18生・陶芸クラス				

授業目的と到達目標

やきものを制作する上で必要とされる基礎的知識と技術を修得するとともに、実際の制作を通じて素材への理解を深め、楽しさや難しさを体感し、表現力を発展させる。

授業概要

「対面授業」|陶芸作品制作に使用する「土」の扱いかたと焼成(完成)までに必要なプロセスの基本を修得するために、造形的表現における重要技法である「手びねり成形」と石膏型を利用した制作を行います。||・手びねり技法を用いた造形作品制作|・化粧土による加飾|・石膏型制作|・タタラ技法と石膏型による器制作|・色絵具による加飾|・施釉、焼成

受講上の注意

短期間に成形から焼成までを行うため、全期間の出席が求められます。|受講中は制作に相応しい服装等で臨んでください。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
作品評価	70
平常点	30

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
三木 陽子／陶芸作家・造形作家／他大学では教科教育法(図工)を指導。中学校美術講師・高等学校美術工芸講師の実務経験を有する。 南野 馨／陶芸作家・造形作家／作家活動や幾つかの陶芸教育機関での勤務経験を活かし、陶芸全般の技術と表現を習得させる。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	一日目 土練り		
2	一日目 手びねり技法を用いた成形		
3	一日目 手びねり技法を用いた成形		
4	一日目 手びねり技法を用いた成形		
5	一日目 手びねり技法を用いた成形		
6	二日目 化粧土による加飾		
7	二日目 化粧土による加飾		
8	二日目 化粧土による加飾		

9	二日目 化粧土による加飾
10	二日目 化粧土による加飾
11	三日目 石膏型制作
12	三日目 石膏型制作
13	三日目 石膏型制作
14	三日目 石膏型制作
15	三日目 石膏型制作
16	四日目 タタラ技法と石膏型による器制作
17	四日目 タタラ技法と石膏型による器制作
18	四日目 タタラ技法と石膏型による器制作
19	四日目 タタラ技法と石膏型による器制作
20	四日目 タタラ技法と石膏型による器制作
21	五日目 色絵具による加飾 施釉、焼成
22	五日目 色絵具による加飾 施釉、焼成
23	五日目 色絵具による加飾 施釉、焼成
24	五日目 色絵具による加飾 施釉、焼成
25	五日目 色絵具による加飾 施釉、焼成
26	六日目 施釉、焼成
27	六日目 施釉、焼成
28	六日目 施釉、焼成
29	六日目 施釉、焼成
30	六日目 施釉、焼成

科目名	工芸Ⅰ	年次	3	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	井上 剛				
クラス名	18生・ガラス工芸クラス				

授業目的と到達目標

素材と技術を基にした「工芸」としてのものづくりを、その歴史、素材|概要などの基礎知識と、各技法の実習を通して学習する。| ガラス工芸の基礎技法について、実作業を経験し、素材からモノができ|るまでのプロセスを理解する。 |

授業概要

【対面授業】||1) ホットワークー吹きガラスの成形行程を理解し、器物を制作すること|で、用についての理解を深める。||2) キルンワークー電気炉を用いた制作技法を実践する。ガラス素材の特|性についての理解を深める。||3) コールドワークー様々なガラスの加工方法を理解し、基礎技術を習得|する。また、素材を組み合わせで造形を試みる。||教員は、各技法で制作をしてきた経験を活かし、ガラス工芸全般について|総合的に指導する。 |

受講上の注意

ガラス工芸技法の種別などについて事前調査 |

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題制作提出物(素材と技術の理解と習得)	80
その他の提出物(理解と習熟の度合い)	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
ガラス作家／プロダクトデザイナー、建築家、企業などと協業して、様々なガラス作品、製品などを制作			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1 日目 授業ガイダンス ガラス工芸の概要／作業		
2	1 日目 キルンワーク(フュージング) 1「技法と制作行程の説明」		
3	1 日目 キルンワーク(フュージング) 2「色板ガラスのカットと成形」		
4	1 日目 キルンワーク(フュージング) 3「色板ガラスのカットと成形」		
5	1 日目 キルンワーク(フュージング) 4「素材特性の説明と窯入れ作業」		
6	2 日目 キルンワーク(キルンキャスト) 1「粘土原型の制作」		
7	2 日目 キルンワーク(キルンキャスト) 2「石膏型の制作」		
8	2 日目 キルンワーク(キルンキャスト) 3「ガラス材料の選択と充填」		
9	2 日目 キルンワーク(キルンキャスト) 4「焼成準備と窯入れ」		
10	2 日目 キルンワーク(キルンキャスト) 4「焼成管理とプログラミング」		

11	3日目 ホットワーク(吹きガラス)1「吹きガラス概要説明」
12	3日目 ホットワーク(吹きガラス)2「設備・機材の説明」
13	3日目 ホットワーク(吹きガラス)3「作業の注意と工房での立ち振る舞い」
14	3日目 ホットワーク(吹きガラス)4「デモンストレーションー道具の扱いとガラスの巻き取り」
15	3日目 ホットワーク(吹きガラス)5「デモンストレーションーペーパーウエイトのつくり方」
16	4日目 ホットワーク(吹きガラス)6「デモンストレーションータンブラーのつくり方」
17	4日目 ホットワーク(吹きガラス)7「制作作業ータンブラー」
18	4日目 ホットワーク(吹きガラス)8「デモンストレーションータンブラー制作のポイント」
19	4日目 ホットワーク(吹きガラス)9「制作作業ータンブラー」
20	4日目 ホットワーク(吹きガラス)10「デモンストレーションー作業行程のおさらい」
21	5日目 ホットワーク(吹きガラス)11「デモンストレーションー形体のつくり方」
22	5日目 ホットワーク(吹きガラス)12「デモンストレーションー色ガラスのつかい方」
23	5日目 ホットワーク(吹きガラス)13「タンブラー制作の応用」
24	5日目 ホットワーク(吹きガラス)14「それぞれの課題制作」
25	5日目 ホットワーク(吹きガラス)15「デモンストレーションー吹きガラス技術の展開」
26	6日目 コールドワーク1「ガラス加工法の概要」
27	6日目 コールドワーク2「デモンストレーションー加工仕上げ」
28	6日目 コールドワーク3「研磨加工／作品仕上げ作業」
29	6日目 授業のまとめ
30	6日目 合評会と意見交換

科目名	工芸 I	年次	3	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	舘 正明、高橋 亜希				
クラス名	17以前・テキスタイル・染織クラス				
授業目的と到達目標					
型染め独自の素材や工程を通して染色分野の理解を目的とし、その制作に よってプロセス及び技術の習得を 目標とする。(舘) 織物を通じて素材(布)の特性を理解し、生地構成を知ることが目的とし、デザインしたもの を形にすることを目標とする(高橋)					
授業概要					
【対面授業】 白黒草稿、リピート図案化、型彫り、糊置き、染色といった型染めの基本 的な工程による染色作品 の制作を行う。(舘) マフラーのデザイン、実際には織物の基本となる平織りによる生地制作、そ の後仕上げま で行う。(高橋)					
受講上の注意					
持ち物(舘):カッターナイフ、定規、彩色筆(2、3本)絵の具皿(も しくはパレット)、スティック糊、マスキングテー プ(幅 20mm 前後) 持ち物(高橋):スケッチブック・筆記用具・色鉛筆・はさみ					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品評価			70		
作品構想評価			30		
教科書情報					
教科書1	適宜必要な資料を配布				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1	染めを学ぶ		
出版社名	角川書店	著者名	福本繁樹・柳楽剛・舘正明他
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
(舘)染色による作品制作で活動する作家が担当する。(高橋)染織による作品制作で活動する作家が担当する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1日目(舘)課題説明、テーマに添ったドローイング①		
2	1日目(舘)テーマに添ったドローイング②		
3	1日目(舘)ドローイングの再構成		
4	1日目(舘)再構成したものを白黒草稿及びリピート図案へ展開		
5	1日目(舘)型彫り(糊型染め用)		
6	2日目(舘)糊置き①		
7	2日目(舘)型彫り(ステンシル型染め用)		
8	2日目(舘)染料制作		
9	2日目(舘)ステンシル型染めの染色①		

10	2日目(舘)糊型染めの地入れ
11	3日目(舘)糊型染めの染色①
12	3日目(舘)ステンシル型染めの染色②
13	3日目(舘)染料の定着
14	3日目(舘)糊を落とし、布を洗う
15	3日目(舘)合評
16	1日目(高橋)課題説明
17	1日目(高橋)デザイン
18	1日目(高橋)デザイン
19	1日目(高橋)デザインを基に織物計画
20	1日目(高橋)たて糸準備・機仕掛け
21	2日目(高橋)よこ糸準備
22	2日目(高橋)織る
23	2日目(高橋)織る
24	2日目(高橋)織る
25	2日目(高橋)織る
26	3日目(高橋)織る
27	3日目(高橋)糸の始末・仕上げ
28	3日目(高橋)糸の始末・仕上げ
29	3日目(高橋)糸の始末・仕上げ
30	3日目(高橋)合評

科目名	工芸Ⅱ	年次	0	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	井上 剛				
クラス名					
授業目的と到達目標					
工芸各専門分野のさらなる制作技術の習得を目指す。 工芸素材に実際に触れ、制作を通して素材独自の特性と制作プロセスを理解し、より深い知識を得る。					
授業概要					
「対面授業」 工芸素材や技法に関する専門知識を習得し、作品を制作する。 完成作品について意見を交換する。					
受講上の注意					
実習に適した服装で受講する。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品評価			70		
平常点			30		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
三木 陽子／陶芸作家・造形作家／他大学では教科教育法(図工)を指導。中学校美術講師・高等学校美術工芸講師の実務経験を有する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	一日目 陶芸の「土」の扱いかたと焼成(完成)までに必要なプロセスの基本を修得するための制作を行うにあたり、受講者のスキルに応じ、課題提案を行う。 準備・プランニング		
2	一日目 準備・プランニング		
3	一日目 アイデアスケッチ・マケット制作を行う。		
4	一日目 技法や作品完成までの流れを考え、意見交換する。		
5	一日目 受講者それぞれのプランのプロセスに応じた作品制作を開始。		
6	二日目 受講者それぞれのプランのプロセスに応じた作品制作を行う。		
7	二日目 作品制作		
8	二日目 作品制作		
9	二日目 作品制作		
10	二日目 作品制作		

11	三日目 作品制作
12	三日目 作品制作
13	三日目 作品制作
14	三日目 作品制作
15	三日目 合評・意見交換

科目名	工芸科指導法 I	年次	3	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	石津 勝				
クラス名					
授業目的と到達目標					
工芸及び工芸科教育についての概説に始まり、これからの工芸科教育の目標や在り方などについて考察した上で、具体的な授業設計や学習指導案を作成できるなど、学校現場に於いて実際に活かせる授業実践力を獲得する。					
授業概要					
対面授業 生活と密接な関係にある工芸及び、今日までの工芸科教育はどのように行われてきたか、そして、これからの工芸科教育はいかにあるべきかについて、学習指導要領の理解をはじめ多様な実践例に基づき、題材の選択、素材とのかかわり、制作と技法、道具・機械等の安全指導、評価などについて総合的に考察する。同時に身近な素材を使つての教材研究を行い学習指導案を作成し、指導方法などについても具体的に考察する。					
受講上の注意					
課題及びレポートなどの提出期限は厳守のこと。適時プリントを配布するので、事前に必要な予習を行い、必要な準備物も用意すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出課題及びレポート、主体的な授業参加を総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1	教科書 工芸 I エ 1-701				
出版社名	日本文教出版	著者名	横田 学 他		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1	高等学校学習指導要領解説・芸術編		
出版社名	教育出版株式会社	著者名	文部科学省
参考書名2	教授資料 工芸 I 工 1-701		
出版社名	日本文教出版	著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
担当教員は、高等学校に於ける工芸科授業の実務経験を生かし、実践的な場面を想定した授業を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	工芸及び工芸科教育についての概説と考察		
2	工芸科教育の目標(学習指導要領解説など)について解説と考察		
3	教科書の解説と模擬授業1・オリエンテーション／つくる喜び・暮らしのかたち・身近な生活環境と工芸 (情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)		
4	教科書の解説と模擬授業2・観察から表現／生活を観察する・美しい造形へ・観察と表現・考える (情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)		
5	教科書の解説と模擬授業3・造形の機能と構造／機能と造形(にぎる・つつむ)・構造と造形(すわる・あかり) (情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)		
6	教科書の解説と模擬授業4・造形の成形と色彩／つくる技術・材料の魅力・テクスチャー・色彩について (情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)		

7	教科書の解説と模擬授業5・つくる-材料と技法／木でつくる・土でつくる・編む・染める (情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)
8	学習指導案及び年間指導計画案についての解説と考察
9	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる1／導入説明・発想・材料取り
10	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる2／削る
11	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる3／研磨する
12	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる4／装飾する
13	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる5／仕上げ
14	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる6／鑑賞・まとめ (情報機器及び教材を効果的に活用した学習指導案を考える)
15	課題(竹箸をつくる)の学習指導案の提出・発表・考察

科目名	工芸科指導法 I	年次	3	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	石津 勝				
クラス名					
授業目的と到達目標					
工芸及び工芸科教育についての概説に始まり、これからの工芸科教育の目標や在り方などについて考察した上で、具体的な授業設計や学習指導案を作成できるなど、学校現場に於いて実際に活かせる授業実践力を獲得する。					
授業概要					
対面授業 生活と密接な関係にある工芸及び、今日までの工芸科教育はどのように行われてきたか、そして、これからの工芸科教育はいかにあるべきかについて、学習指導要領の理解をはじめ多様な実践例に基づき、題材の選択、素材とのかかわり、制作と技法、道具・機械等の安全指導、評価などについて総合的に考察する。同時に身近な素材を使つての教材研究を行い学習指導案を作成し、指導方法などについても具体的に考察する。					
受講上の注意					
課題及びレポートなどの提出期限は厳守のこと。適時プリントを配布するので、事前に必要な予習を行い、必要な準備物も用意すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出課題及びレポート、主体的な授業参加を総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1	教科書 工芸 I エ 1-701				
出版社名	日本文教出版	著者名	横田 学 他		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1	高等学校学習指導要領解説・芸術編		
出版社名	教育出版株式会社	著者名	文部科学省
参考書名2	教授資料 工芸 I 工 1-701		
出版社名	日本文教出版	著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
担当教員は、高等学校に於ける工芸科授業の実務経験を生かし、実践的な場面を想定した授業を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	工芸及び工芸科教育についての概説と考察		
2	工芸科教育の目標(学習指導要領解説など)について解説と考察		
3	教科書の解説と模擬授業1・オリエンテーション／つくる喜び・暮らしのかたち・身近な生活環境と工芸 (情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)		
4	教科書の解説と模擬授業2・観察から表現／生活を観察する・美しい造形へ・観察と表現・考える (情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)		
5	教科書の解説と模擬授業3・造形の機能と構造／機能と造形(にぎる・つつむ)・構造と造形(すわる・あかり) (情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)		
6	教科書の解説と模擬授業4・造形の成形と色彩／つくる技術・材料の魅力・テクスチャー・色彩について (情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)		

7	教科書の解説と模擬授業5・つくる-材料と技法／木でつくる・土でつくる・編む・染める (情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)
8	学習指導案及び年間指導計画案についての解説と考察
9	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる1／導入説明・発想・材料取り
10	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる2／削る
11	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる3／研磨する
12	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる4／装飾する
13	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる5／仕上げ
14	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる6／鑑賞・まとめ (情報機器及び教材を効果的に活用した学習指導案を考える)
15	課題(竹箸をつくる)の学習指導案の提出・発表・考察

科目名	工芸科指導法Ⅱ	年次	3	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	石津 勝				
クラス名					

授業目的と到達目標

工芸及び工芸科教育についての概説に始まり、これからの工芸科教育の目標や在り方などについて考察した上で、具体的な授業設計や学習指導案を作成できるなど、学校現場に於いて実際に活かせる授業実践力を獲得する。

授業概要

対面授業|生活と密接な関係にある工芸及び、今日までの工芸科教育はどのように行われてきたか、そして、これからの工芸科教育はいかにあるべきかについて、学習指導要領の理解をはじめ多様な実践例に基づき、題材の選択、素材とのかかわり、制作と技法、道具・機械等の安全指導、評価などについて総合的に考察する。同時に身近な素材を使つての教材研究を行い学習指導案を作成し、指導方法などについても具体的に考察する。

受講上の注意

課題及びレポートなどの提出期限は厳守のこと。適時プリントを配布するので、事前に必要な予習を行い、必要な準備物も用意すること。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
学年末試験、提出課題及びレポート、主体的な授業参加を総合的に評価	100

教科書情報

教科書1	高等学校芸術科工芸1・教科書		
出版社名	日本文教出版	著者名	小松敏明 他
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	高等学校学習指導要領解説・芸術編		
出版社名	教育出版株式会社	著者名	文部科学省
参考書名2	高等学校芸術科工芸1・教授資料		
出版社名	日本文教出版	著者名	小松俊明 他
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
担当教員は、高等学校に於ける工芸科授業の実務経験を生かし、実践的な場面を想定した指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	工芸及び工芸教育に関連する視聴覚教材を視聴し、授業設計への活用方法を考える		
2	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード1／導入説明・既成型紙を使って試作		
3	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード2／発想・デザイン(情報機器を活用し、デザイン図案を作成する学習指導案を考える)		
4	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード3／試作		
5	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード4／本制作		
6	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード5／鑑賞・まとめ		

7	課題(オリジナル立体カード)の学習指導案の提出・発表・考察 (情報機器及び教材を効果的に活用した学習指導案を考える)
8	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)ペットボトルキャンドル1／導入説明・発想・デザイン
9	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)ペットボトルキャンドル2／試作
10	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)ペットボトルキャンドル3／本制作
11	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)ペットボトルキャンドル4／鑑賞・まとめ
12	課題(ペットボトルキャンドル)の学習指導案の提出・発表・考察 (情報機器及び教材を効果的に活用した学習指導案を考える)
13	工芸科教育の鑑賞及び評価について
14	工芸科教育の環境(教室など)について
15	本授業のまとめ・授業アンケート他／後日の定期試験にて試験実施

科目名	工芸科指導法Ⅱ	年次	3	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	石津 勝				
クラス名					

授業目的と到達目標

工芸及び工芸科教育についての概説に始まり、これからの工芸科教育の目標や在り方などについて考察した上で、具体的な授業設計や学習指導案を作成できるなど、学校現場に於いて実際に活かせる授業実践力を獲得する。

授業概要

対面授業|生活と密接な関係にある工芸及び、今日までの工芸科教育はどのように行われてきたか、そして、これからの工芸科教育はいかにあるべきかについて、学習指導要領の理解をはじめ多様な実践例に基づき、題材の選択、素材とのかかわり、制作と技法、道具・機械等の安全指導、評価などについて総合的に考察する。同時に身近な素材を使つての教材研究を行い学習指導案を作成し、指導方法などについても具体的に考察する。

受講上の注意

課題及びレポートなどの提出期限は厳守のこと。適時プリントを配布するので、事前に必要な予習を行い、必要な準備物も用意すること。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
学年末試験、提出課題及びレポート、主体的な授業参加を総合的に評価	100

教科書情報

教科書1	高等学校芸術科工芸1・教科書		
出版社名	日本文教出版	著者名	小松敏明 他
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	高等学校学習指導要領解説・芸術編		
出版社名	教育出版株式会社	著者名	文部科学省
参考書名2	高等学校芸術科工芸1・教授資料		
出版社名	日本文教出版	著者名	小松俊明 他
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
担当教員は、高等学校に於ける工芸科授業の実務経験を生かし、実践的な場面を想定した指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	工芸及び工芸教育に関連する視聴覚教材を視聴し、授業設計への活用方法を考える		
2	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード1／導入説明・既成型紙を使って試作		
3	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード2／発想・デザイン(情報機器を活用し、デザイン図案を作成する学習指導案を考える)		
4	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード3／試作		
5	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード4／本制作		
6	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード5／鑑賞・まとめ		

7	課題(オリジナル立体カード)の学習指導案の提出・発表・考察 (情報機器及び教材を効果的に活用した学習指導案を考える)
8	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)ペットボトルキャンドル1／導入説明・発想・デザイン
9	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)ペットボトルキャンドル2／試作
10	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)ペットボトルキャンドル3／本制作
11	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)ペットボトルキャンドル4／鑑賞・まとめ
12	課題(ペットボトルキャンドル)の学習指導案の提出・発表・考察 (情報機器及び教材を効果的に活用した学習指導案を考える)
13	工芸科教育の鑑賞及び評価について
14	工芸科教育の環境(教室など)について
15	本授業のまとめ・授業アンケート他／後日の定期試験にて試験実施

科目名	工芸史	年次	0	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	片岡 淳				
クラス名					

授業目的と到達目標

日本の工芸分野のうち、多様な素材と高い技術力について、歴史をたどりながら、講義していく。|工芸という概念がいつできたのか、歴史をたどりながら探っていく。|様々な様式やジャンルのなかで、制作の視野を広げることができることを本講義の目標とする。

授業概要

対面授業。ただし、状況により遠隔に変更あり。変更が発生した場合、速やかに掲示登録する。|日本の工芸を中心に、その分野と歴史と変遷について講義する。実用品としての工芸から美術|品としての側面について、現代から遡って学んでいく。

受講上の注意

なるべく自分の目で、実物を博物館や美術館で鑑賞して、感受性を高めてください。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
積極的な授業参加	10
レポート提出	80
対面授業では、簡単な演習を行なう。材料は授業者が準備する。 ハサミ、カッターなどの道具は持参してもらう。授業の前の週に連絡する。	10

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	必要な資料は印刷して配布する。		
出版社名		著者名	
参考書名2	工芸の領分 工芸には生活感情が封印されている		
出版社名	美学出版	著者名	樋田豊次郎
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員が国の伝統的工芸品の認定に関わった経験をもとに、工芸振興の指定や振興についての行政の立場からの工芸の製作分野についても指導する。わからないことは、自習しましょう。あるいは、その都度、質問して理解を深めましょう。			
教員実務経験			
琉球大学教育学部勤務 25 年。吉岡常雄工房勤務 7 年、その間東大寺落慶法要伎楽衣装復元作業・南米ペルー貝紫調査等参加。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	工芸の定義 手芸と工芸の違い、芸と道とは。日本文化の特色。		
2	素材による分類。 工芸品のある暮らし。形と大きさ・器を事例に解説		
3	陶芸と金工 喫茶を楽しむ。道具の素材と形。喫茶の概説、茶葉の種類と製法と道具の関係。 実際にお茶を飲んでみよう。各自じぶんのコップ・湯呑み・カップを持参してください。		
4	竹工と木工、漆 床の間という精神空間のある日本家屋。		
5	ガラス、釉薬と陶器、瑠璃と金属、絹の精練のワラ(ケイ酸)について 素材と工芸分野の領域と歴史		

6	染と織 紙・布・皮
7	正倉院の工芸 技法について 染織を中心に
8	正倉院の工芸 文様の変遷・世界性
9	平安時代の染織 襲色(かさねいろ)配色の美:表裏・経緯糸の組み合わせ・衣を重ねる、透け重なるいろの美。
10	鎌倉時代の染織 相撲の行司装束 なぜ相撲をとるのか。祭りに見る邪気払いと祈り
11	公家と武士の装束 着物の始まり
12	美しいということ 手度法・美しい比率
13	産業革命とモノつくりの変化 江戸時代から明治時代 徳川幕府から明治政府 刀鍛冶、鎧職人の技術の変革、万国博覧会出品
14	土産と小物文化 小さな工芸品、かわいいが好きな日本人
15	ナレと繕いの日本文化 金継ぎ、景色 <前期での受講内容で興味が深まったこと、または疑問に思ったことを調べたことについてレポートを提出してください。A4、一行 40 字で 30 行を目安に、必ず学生記番号氏名明記を提出期限は追ってお知らせします。>
16	ゴミを出さないモノづくり、江戸のリサイクルと工芸 紙・塵紙屋・渋紙屋 使い捨ての陶器のコップ、循環する工芸品
17	江戸時代の渡り職人 沖縄の工芸の誕生
18	染織技術の伝播 豊後絞りから有松・鳴海へ、東北の絞染め(浅舞・白根・横手)
19	糊防染、型染と筒描き 祝いと吊いの布
20	ハレとケ 三角頭巾はなぜ、死人につけるのか。 黒、金そして白色へ
21	紙の加工について
22	上物と下手物 喫茶 道具と用途 歪みや割れ 見立て
23	和模様の起源 青海波・立桶文様など
24	ブルージーンズの始まり ブルーのデニムのズボンの歴史と変遷
25	明治の工芸 工芸という言葉のはじまり 産業としての工芸・ものづくり
26	琉球ガラス
27	大正から昭和の工芸 染織を中心に
28	ファイバーアートとソフトスクラブチャー
29	布の形・糸の形の作家
30	補遺と総括

科目名	工芸特論 I		年次	0	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期		形態	講義		
教員名	片岡 淳					
クラス名						
授業目的と到達目標						
日本の染織の種類と技法の理解を深める。 染織の技術や資料について、海外の事例も参照しながら概要や特色について説明する。 工芸免許に対応できる理解度を目標とする。						
授業概要						
対面授業。ただし、状況により遠隔に変更あり。変更が発生した場合、速やかに掲示登録する。 日本を中心に染織の技法、文化、歴史などについて講義する。 簡単な実習を通して、理解を深める。 正倉院展の技法についてレポートを提出してもらう。						
受講上の注意						
日本の染織について講義するが、中国、インド、イラン(ペルシャ)等ユーラシアヨーロッパ等広い視野で染織技術をとらえる。世界の地理、日本文学 化史区分を確認し、世界の染織についても図書館博物館等で意識的に事前 事後に調べてほしい。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
受講姿勢 簡単な演習を通して各自の取り組む姿勢と意欲を確認する。				30		
レポート				70		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				

参考書情報			
参考書名1	日本の美術 No.12 織物		
出版社名	至文堂	著者名	西村兵部編
参考書名2	日本の美術 No.7		
出版社名	至文堂	著者名	山辺知之編
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
講義に必要な資料は、講義の前に配布する。2/3 以上出席をしていることを確認します。工芸科教育や工芸産業振興の仕事を、理論的に考える力を身につける指導を行なう。			
教員実務経験			
琉球大学教育学部勤務 25 年。吉岡常雄工房勤務 7 年、その間東大寺落慶法要伎楽衣装復元作業・南米ペルー貝紫調査等参加。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	対面授業。授業の目的と進め方・概要・評価方法など説明。 芸術の分野、工芸とは、工芸の分野について 人はいつからモノづくりを始めたのか。洞窟壁画の光源は、何か。洞窟の天井に煤が無いのはなぜか。		
2	染・織とは		
3	編み物と織物の違いについて 織物は編み物から始まった? 三本の編み物、4 本の編み物組織から織物の組織を探る作業を通して考えてみたい。		
4	染めること、彩色と染色について 着彩には、顔料を使う彩色と染料をつかう染色がある。粒子の大きさを順を追って事例をもとに説明する。		

5	日本文化史区分表について 縄文時代のくらし・編み物 大嘗祭に使う麻は阿波忌部、縄文からのしきたり。 なぜ、日本は縄文時代が長かったのか。その理由について講義する。 オノマトペが豊富な日本語、その起源は縄文時代か。
6	編み物・織物の種類と技法 弥生時代の特色、織物、機道具
7	天然顔料と染料
8	飛鳥の染織
9	編み物・織物の歴史 織り機について
10	天平の染織 正倉院御物を中心に
11	染色について、染料と染織技法 色の名前に見る染料について
12	染料の種類について 染料の効能と色素 色のイメージについて
13	不織布について 紙子・フェルト・樹皮布 縮絨・フェルト
14	紙について 素材・樹皮布・アマテ・パピルス、羊皮紙 パーチメントペーパー・ペラム。 叩解・漉くという行為。紙目と製本。紙の活用。
15	前期の補遺とまとめ
16	沖縄の神事と衣装。織物を自家製し、字の集会に着用する。商品ではない自前、家族のための着尺つくりと祭祀としての染織品について紹介します。
17	正倉院宝物について 皮革
18	正倉院宝物染織品 本年度出陳を解説。技法、文様、素材について。
19	沖縄の謎の繊維植物 桐板(トンビヤンまたはトンバン)。植物が特定されていない植物繊維の織物を探る。映像も使用。
20	配色について: 教室を出て、落ち葉のスケッチをすることで、色鉛筆でそれらの色を再現し。配色を試みる。令和かさね色つくりの演習。画用紙は教室で準備。各自色鉛筆を持参してください。
21	沖縄の喪服 ヤシラミ、極薄い藍染色瓶覗(かめのぞき)地に紺と藍型。ハレとケ。
22	形と色の意味。三角と白を中心に。
23	テキスタイルデザイナーとは。
24	伝統を守り生かすということ。ファッションからものつくりの動向を探る。
25	模様について 石畳、青海波・ウロコ、立桶模様の起源と伝播、象徴について。
26	江戸の学ぶ 工芸の世界
27	戦前の染織 工芸作家の登場 ロウケツ染め
28	ヤボンセロックとは。西洋に渡った着物。

29	型染め作家の登場
30	後期の補遺とまとめと総括

科目名	工芸特論Ⅱ	年次	3	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	藤田 浩明				
クラス名					

授業目的と到達目標

過去の技術を調査研究することによって、「つくる」「さぐる」「まもり、つたえる」ための知識と手法を実例を通して身につけることを目的とし、「歴史」「科学」「文化財」という観点からのアプローチを学ぶ。

授業概要

対面授業。|1. 古代から現代に至る各種材料を用いた工芸品の歴史や技術に関わる講義 |2. 埋蔵文化財や美術工芸品に対する文化財調査の手法や成果に関する講義|3. 埋蔵文化財や美術工芸品に対する文化財保存の実際についての講義と体験|担当教員はおもに埋蔵文化財の保存処理、修復に携わるとともに、さまざまな材質で製作された博物館・美術館資料等の調査や保存もおこなってきた。|文化財保存科学分野では様々な資料・材質に対して特化した専門家がその任に当たっている。|この授業では担当教員だけでなく、各分野の最前線で活躍している作家や保存科学者、修復家を招いて講義や体験も行なう。

受講上の注意

・授業中の私語・携帯電話の使用は厳禁。|・授業中の PC やタブレット端末等電子機器の使用、撮影、録音は禁止。使用の必要がある場合は事前に申し出ること。|・配布資料や画像等の扱い(2 次加工や他者への公表など)に高い意識を持つこと。|上記の事項を守り、円滑な授業の進行に協力してください。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
前期 授業への参加態度(毎回のコメントシート含む)	20
前期末 レポート	30
後期 授業への参加態度(毎回のコメントシート含む)	20
後期末 レポート	30

教科書情報

教科書1	必要に応じて資料を配付		
出版社名		著者名	
教科書2			

出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	トレハロースを用いた文化財保存の研究と実践		
出版社名	三恵社	著者名	伊藤幸司
参考書名2	博物館資料保存論		
出版社名	講談社	著者名	石崎武志
参考書名3	文化財保存科学ノート		
出版社名	近未来社	著者名	沢田 正昭
参考書名4	文化財のための保存科学入門		
出版社名	角川書店	著者名	岡田文男
参考書名5	出土鉄製品の保存と対応		
出版社名	同成社	著者名	松井敏也
参考 URL			
特記事項			
先人の創作技術を知り過去の文化を未来に受け継ぐことは、私たちが果たすべき重要な役割のひとつです。それに伴って、美術品・工芸品・文化財を科学的に調査することで材料を知り、その技法を読み解くことは現代の表現者である皆さんにも有用な情報です。最新の調査研究の技術や成果について講義します。			
教員実務経験			
実務経験: 大阪市文化財協会保存科学室学芸員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	導入ー授業の目的と概要、評価方法などについて周知する		
2	美術工芸品の保存修復 美術品の調査1ー自然科学的手法を用いた構造調査		
3	美術工芸品の保存修復 美術品の調査2ー自然科学的手法を用いた材質分析		
4	美術工芸品の保存修復 美術品の調査3ー自然科学的手法を用いた資料の観察		

5	美術工芸品の保存修復 木材利用の歴史1—古代の木材利用方法
6	美術工芸品の保存修復 木材利用の歴史2—近世の木材利用方法
7	美術工芸品の保存修復 出土木製品の保存・修復1
8	美術工芸品の保存修復 出土木製品の保存・修復2
9	美術工芸品の保存修復 石材の保存・修復
10	美術工芸品の保存修復 有機質製品の保存・修復1
11	美術工芸品の保存修復 有機質製品の保存・修復2
12	美術工芸品の保存修復 ガラス工芸品の保存修復技術
13	美術工芸品の保存修復 漆芸品の保存・修復
14	美術工芸品の保存修復 陶芸品の保存修復技術
15	美術工芸品の保存修復 土器の保存・修復
16	前期授業の補足説明 提出レポート評価
17	美術工芸品の伝統的保存方法1 装?修理技術①
18	美術工芸品の伝統的保存方法2 装?修理技術②
19	美術工芸品の伝統的保存方法3 装?修理技術③
20	美術工芸品の伝統的保存方法4 正倉院宝物の保存
21	美術工芸品の保存修復 金属工芸品の保存修復技術1
22	美術工芸品の保存修復 金属工芸品の保存修復技術2
23	美術工芸品の保存修復 武器・武具等の製作・修復技術
24	美術工芸品の保存修復 近世大仏の製作技術
25	美術工芸品の保存修復 遺跡・遺構の保存技術
26	美術工芸品の保存修復 染織品の保存修復技術
27	美術工芸品を生物被害からまもる技術
28	美術工芸品を災害からまもる技術
29	海外の文化財保存科学事情
30	後期授業のまとめ

科目名	工芸特論Ⅲ	年次	3	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	黒河 兼吉				
クラス名					
授業目的と到達目標					
テーマはものづくりとその周辺について。 デザインと工芸領域の多様なトピックスに触れ、自らと社会の接点を見出していくこと。 他者の異なる視点を理解し、自己表現において新しいアプローチを見つけることを目標とする。					
授業概要					
対面授業とする。 デザインと工芸に関わるヒト・モノ・コトにおいて幅広いテーマで理論や事例などを紹介する。					
受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業内小レポート			50		
受講態度			50		
教科書情報					
教科書1	特になし				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	プロダクトデザイン				
出版社名	株式会社ワークスコーポレーション	著者名	山崎和彦		
参考書名2	デザインする技術				

出版社名	MDN コーポレーション	著者名	矢野りん
参考書名3	だれでもデザイン		
出版社名	朝日出版社	著者名	山中俊治
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
陶磁器作家および陶磁器デザイナーとしての業務実績を持つ教員が講義する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 授業概要説明		
2	代表的事例を通して学ぶ ものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する		
3	代表的事例を通して学ぶ ものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する		
4	代表的事例を通して学ぶ ものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する		
5	代表的事例を通して学ぶ ものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する		
6	代表的事例を通して学ぶ ものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する		
7	代表的事例を通して学ぶ ものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する		
8	代表的事例を通して学ぶ ものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する		
9	代表的事例を通して学ぶ ものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する		
10	代表的事例を通して学ぶ ものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する		
11	代表的事例を通して学ぶ ものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する		
12	代表的事例を通して学ぶ ものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する		
13	代表的事例を通して学ぶ ものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する		
14	代表的事例を通して学ぶ ものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する		

15	前期授業の振り返り
16	ものづくりとその周辺について ものづくりの手がかり
17	ものづくりとその周辺について ものづくりの手がかり
18	ものづくりとその周辺について ものづくりの手がかり
19	ものづくりとその周辺について ものづくりの手がかり
20	ものづくりとその周辺について ものづくりの手がかり
21	ものづくりとその周辺について 作品づくりに向かう姿勢とは
22	ものづくりとその周辺について 作品づくりに向かう姿勢とは
23	ものづくりとその周辺について 作品づくりに向かう姿勢とは
24	ものづくりとその周辺について 作品を伝えること
25	ものづくりとその周辺について 作品を伝えること
26	ものづくりとその周辺について 作品を伝えること
27	ものづくりとその周辺について 作品を伝えること
28	ものづくりとその周辺について 作品を伝えること
29	ものづくりとその周辺について 作品を伝えること
30	後期授業の振り返り

科目名	工芸論	年次	0	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	高瀬 博文				
クラス名					
授業目的と到達目標					
前期: 芸術と生活の接点に位置する工芸の在り方を考える 後期: 民藝的観点と現代工芸的観点から工芸を考える					
授業概要					
対面授業 工芸は生活にかかわっていることから当然機能が重んじられる。 しかし工芸作品において、フォルムやテクスチャーは単純に機能から演繹されているのではない。 それではいったい作品成立のための工芸の本質とは何なのか。授業では参 考文献や資料を用いてその問題について考える。					
受講上の注意					
しっかりと授業に出席し、授業での話と教科書によって理解を深めて下さい。板書を行いますので、自分のノートに要点を写して下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(授業中のスタンプ獲得数による)			50		
テスト(学年末に一回)			50		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					

参考書名1	生活造形の美学		
出版社名	光生館	著者名	谷田悦次
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	イントロダクション: 工芸の本質をめぐって		
2	「生活造形の美学」を参考に生活造形としての工芸を考える		
3	「生活造形の美学」を参考に機能主義とは何かを考える		
4	機能主義の源流1. : 19世紀中頃に現れた機能主義(アーツアンドクラフツなど)について		
5	機能主義の源流2. : バウハウスまでの機能主義の発展をめぐって		
6	バウハウスにおける機能主義1. : バウハウス宣言(1919)にみる機能主義のあり方		
7	バウハウスにおける機能主義2. : バウハウス工房の製品について		
8	バウハウスにおける機能主義3. : 機能主義と機械生産について(バウハウスの変貌)		
9	バウハウスのパラドクス1. : バウハウスの機能主義の成り立ちにおけるパラドクス		
10	バウハウスのパラドクス2. : バウハウスに始まる機能と形態の問題の再考察		
11	バウハウス以後のデザインについて: 機能主義を越えて		
12	現代のデザインをめぐって1. : 実の透明性(バウハウス)から虚の透明性(ル・コルビュジェ)へ		

13	現代のデザインをめぐって2. : 虚の透明性の実現としての戦後デザイン
14	19世紀中頃～20世紀後半のデザインの流れにおける機能と形態の問題
15	前期まとめ
16	「生活造形の美学」を参考に意匠について考える
17	「生活造形の美学」を参考に郷土に根ざす工芸を考える
18	民藝運動のはじまり: 柳宗悦の生涯、「雑器の美」などにおける民藝の基本的思想
19	民藝運動の展開: 「工芸文化」などにみる民藝思想の成熟
20	民藝運動と仏教思想: 他力の観点から民藝を考える
21	民藝作家1. : 浜田庄司(柳の民藝思想の具体化)
22	民藝作家2. : 河井寛次郎(柳の民藝思想からの逸脱)
23	民藝思想に対する批判: 人間復興の工芸という観点より民藝を考える
24	民藝運動の功罪について(明治以降の工芸の流れにおける民藝の位置付け)
25	民藝思想の乗り越え1. : 富本憲吉の作品(なぜ富本は民藝運動から離脱したのか)
26	民藝思想の乗り越え2. : 富本憲吉の思想(富本が考えた概念・設計図なき制作)
27	民藝思想と富本憲吉の思想との比較検討
28	戦後の工芸をめぐって1. : 走泥社における富本憲吉の思想の受容
29	戦後の工芸をめぐって2. : 1960年代以降の工芸にみる富本憲吉の思想、後期まとめ
30	学年末テスト、授業内容に関する今後の展望

科目名	図学	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	壺井 勘也				
クラス名					

授業目的と到達目標

図学を通して知るデザインの楽しさとおもしろさを具体的に理解し、世界|各地に存在する建築構造物はもとよりビジュアルに表現されたデザイン商|品からプロダクトデザイン・インダストリアルデザインに応用された製品|やファッション界における楽しいグッズに至るまでのデザイン力をつけ|る。

授業概要

対面授業で行う。||前期(具現化された形態を基に図学の基本を習得する)||後期(具体的に表現方法を理解し作図による演習をする)||造形作家、公共事業、モニュメントを制作するにあたり、完成予想図を作|成する技術を習得する。|高校美術・工芸教諭としての基礎知識、作図、画法の習得が必須。|以上今日までの職務経験において必要とされる。|

受講上の注意

特に後期からの授業においては配布された資料をもとに事前に予習し、理|解を深める。講義された内容を反復する。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
試験	100

教科書情報

教科書1	建築デザインの製図法から簡単な設計まで		
出版社名	(株)彰国社	著者名	著)武者英二・永瀬克己
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	古代エジプトに始まる幾何学の理解と学習。		
2	古代ギリシャにおける数学を応用した幾何学の説明。		
3	古代ローマにおける遺跡に見られる建造物から始まる形態の学習。		
4	江戸期における日本の実測図学の歴史を研究。		
5	日本における幾何学紋様を調査し伝統文化の中で息づく図案の面白さを知る。		
6	ヨーロッパにおける幾何学紋様を調査し伝統文化の中で息づく図案の面白さを知る。		
7	生活・文化の中に息づく図学について考察。		
8	生活・文化の中に息づく図学について考察。		
9	生活・文化の中に息づく図学について考察。		
10	生活・文化の中に息づく図学について考察。		

11	インテリアデザインに活用された図学の基本。
12	ビジュアルデザインに活用された図学の基本。
13	インダストリアルデザインに活用された図学の基本。
14	コンストラクション・コンポジションの理解。
15	一点透視図法の技法を習得。
16	一点透視図法の技法を習得。
17	一点透視図法の技法を習得。
18	二点透視図法の技法を習得。
19	二点透視図法の技法を習得。
20	二点透視図法の技法を習得。
21	アイソメ投影法の研究。
22	アイソメ投影法の研究。
23	アクソメ投影法の研究。
24	アクソメ投影法の研究。
25	インダストリアルデザインの中心に船舶及び自動車における作図法の研究。
26	インダストリアルデザインの中心に船舶及び自動車における作図法の研究。
27	建築構造物を実際に表現する力を身につける。
28	建築構造物を実際に表現する力を身につける。
29	建築構造物を実際に表現する力を身につける。
30	自動車のパースを自由課題として提出。

科目名	図学	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	壺井 勘也				
クラス名					

授業目的と到達目標

図学を通して知るデザインの楽しさとおもしろさを具体的に理解し、世界|各地に存在する建築構造物はもとよりビジュアルに表現されたデザイン商|品からプロダクトデザイン・インダストリアルデザインに応用された製品|やファッション界における楽しいグッズに至るまでのデザイン力をつけ|る。

授業概要

対面授業で行う。||前期(具現化された形態を基に図学の基本を習得する)||後期(具体的に表現方法を理解し作図による演習をする)||造形作家、公共事業、モニュメントを制作するにあたり、完成予想図を作|成する技術を習得する。|高校美術・工芸教諭としての基礎知識、作図、画法の習得が必須。|以上今日までの職務経験において必要とされる。|

受講上の注意

特に後期からの授業においては配布された資料をもとに事前に予習し、理|解を深める。講義された内容を反復する。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
試験	100

教科書情報

教科書1	建築デザインの製図法から簡単な設計まで		
出版社名	(株)彰国社	著者名	著)武者英二・永瀬克己
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	古代エジプトに始まる幾何学の理解と学習。		
2	古代ギリシャにおける数学を応用した幾何学の説明。		
3	古代ローマにおける遺跡に見られる建造物から始まる形態の学習。		
4	江戸期における日本の実測図学の歴史を研究。		
5	日本における幾何学紋様を調査し伝統文化の中で息づく図案の面白さを知る。		
6	ヨーロッパにおける幾何学紋様を調査し伝統文化の中で息づく図案の面白さを知る。		
7	生活・文化の中に息づく図学について考察。		
8	生活・文化の中に息づく図学について考察。		
9	生活・文化の中に息づく図学について考察。		
10	生活・文化の中に息づく図学について考察。		

11	インテリアデザインに活用された図学の基本。
12	ビジュアルデザインに活用された図学の基本。
13	インダストリアルデザインに活用された図学の基本。
14	コンストラクション・コンポジションの理解。
15	一点透視図法の技法を習得。
16	一点透視図法の技法を習得。
17	一点透視図法の技法を習得。
18	二点透視図法の技法を習得。
19	二点透視図法の技法を習得。
20	二点透視図法の技法を習得。
21	アイソメ投影法の研究。
22	アイソメ投影法の研究。
23	アクソメ投影法の研究。
24	アクソメ投影法の研究。
25	インダストリアルデザインの中心に船舶及び自動車における作図法の研究。
26	インダストリアルデザインの中心に船舶及び自動車における作図法の研究。
27	建築構造物を実際に表現する力を身につける。
28	建築構造物を実際に表現する力を身につける。
29	建築構造物を実際に表現する力を身につける。
30	自動車のパースを自由課題として提出。

科目名	製図実習	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	井上 剛				
クラス名	【19生対象】				

授業目的と到達目標

第三者とのイメージの相互理解が必要な場合、図面を紹介することは非常に有効な手段であり、生産、製作の上では必須となっている。この授業を通して基本的な製図法を理解し、図面の「読み」「書き」を実践する。正投影法をはじめとする基本的な製図法を理解し、第三者に伝達する為に必要な作図力を身につけることを目的とする。

授業概要

【対面授業】製図に関する基本知識の学習をと基礎実習作業を通し、第一に「伝え」るための方法を習得し、その後、与えられた図面からそれを実製作することによって双方の立場にたって製図に対する理解を深める。教員は、建築やデザインに関する業務実績を活かしより具体的で実践的な指導をする。

受講上の注意

各種製図法（投影法）についての予習

成績評価方法・基準

種別	割合（％）
実習課題	80
習熟と理解	10
その他の提出物	10

教科書情報

教科書1	「製図実習」セラミックコース		
出版社名	大阪芸術大学刊	著者名	南和伸
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
ガラス作家／プロダクトデザイナー、建築家、企業などと協業して、様々なガラス作品、製品などを制作			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業ガイダンス／準備物の説明／概要「製図とは？」／課題説明		
2	課題1.線の練習1 製図法の概要／製図に用いられる「線種」の理解		
3	課題1.線の練習2 各種の「線」を引く練習		
4	課題2. 図面の模写&デッサン1 製図の模写—模写を通して、作図の行程を実践、理解する(下図)		
5	課題2. 図面の模写&デッサン?2 製図の模写—模写を通して、作図の行程を実践、理解する(作図)		
6	課題2. 図面の模写&デッサン3 製図の模写—模写を通して、作図の行程を実践、理解する(仕上げ)		

7	課題2. 図面の模写 & デッサン4 完成した図面から形状を読み取り、イメージデッサンで立体的に描写する
8	投影法について 各投影法の特徴の理解、小プリントによる読図のトレーニング 課題3の課題説明
9	課題3. マグカップの製図「現物の実測～作図まで」1 各自持参したマグカップを採寸し、フリーハンドで下書きする
10	課題3. マグカップの製図「現物の実測～作図まで」2 フリーハンドの下書きのチェック→本製図のための下書き
11	課題3. マグカップの製図「現物の実測～作図まで」3 製図作業
12	課題3. マグカップの製図「現物の実測～作図まで」4 製図作業
13	課題3. マグカップの製図「現物の実測～作図まで」5 図面完成→提出
14	造形演習「美しいかたち」1 各自「美しいかたち」についてリサーチ
15	造形演習「美しいかたち」2 「美しいかたち」要素の再構成／粘土による造形の試み(エスキース)
16	造形演習「美しいかたち」4 前期に作成したエスキースを基に石膏モデリング
17	造形演習「美しいかたち」5 石膏モデルの制作
18	造形演習「美しいかたち」6 石膏モデルの完成→提出
19	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」1 課題説明／企画立案
20	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」2 リサーチ／プレゼンテーション資料の作成
21	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」3 プレゼンテーション資料の作成
22	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」4 ロールプレイング「新製品社内コンペ」
23	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」5 量産を前提として「デザイン→製図」
24	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」6 製図作業
25	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」7 製図作業
26	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」8 製図作業
27	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」9 図面提出、モデリング(マケット)作成準備
28	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」10 製品モデル(マケット)製作作業
29	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」11 製品モデル(マケット)製作作業

科目名	製図実習	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	長谷川 政弘				
クラス名	【18以前生対象】				

授業目的と到達目標

図面とは、立体物をつくるすべての仕事において制作者の意向を伝えることができる重要な「共通言語」です。製図の基本を理解し、ものづくりのコミュニケーションを円滑にする事を目的とします。これから制作しようとする立体作品のアイデアを図面化することができ、逆に図面を読み取り、立体にイメージできる能力を身につける事を目標とします。

授業概要

対面授業|前期は線の種類や使い方を知り、実際にある具体的なものを図面化|する事によって、三面図の基本を理解します。|後期は、まだ実在しない架空のもの(プラン)を図面化します。フリー曲線を使った作図やもう一つの平面表現であるレンダリングも|学習します。最終的には個々がオリジナルグッズを発案・企画・提|案し、全体の流れを通して図面の重要性を学びます。

受講上の注意

商品にはチラシやパンフレットがあります。その中には商品の説明、使用方法、価格など様々な情報が入っており消費者に購買意欲|を持たせるための工夫がなされています。最後の課題は皆さんにオリジナルグッズを企画してもらい、図面とプレゼンボードにてプレゼンテ|ーションをしてもらいます。商品のチラシを集めるなどして日頃から研究|しておいて下さい。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
制作した図面、レポート、提出物	60
授業に取り組む姿勢	40

教科書情報

教科書1	作図法など必要な資料は配布します。		
出版社名		著者名	
教科書2			

出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	プロダクトデザインのための製図		
出版社名	日本出版サービス	著者名	清水吉治/川崎晃義
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
http://masaab.sakura.ne.jp			
特記事項			
教員実務経験			
作図を伴った工芸作品の制作経験の豊富な教員が指導を行います。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業説明:年間の計画、図面の必要性、製図の基本を知る(三面図、三角法、線の種類や役割)		
2	「練習問題」三面図の理解		
3	練習問題の回答「線の練習 1」T 定規の使い方、実線、破線		
4	「線の練習 2」一点鎖線、二点鎖線、特殊な線		
5	「姿図からの作図」正式な図面の書き方、枠線、表題など		
6	「姿図からの作図」レイアウト、外形線		

7	「姿図からの作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成
8	「木槌の作図」木槌の採寸
9	「木槌の作図」レイアウトの為の下書き
10	「木槌の作図」枠線、表題
11	「木槌の作図」外形線、面取りや R の指定、断面図
12	「木槌の作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成
13	「青銅の蓋物の作図」鋳金実習で制作中の作品を図面化します。原型を採寸→下書き
14	「青銅の蓋物の作図」枠線、表題、外形線、断面図
15	「青銅の蓋物の作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成 次課題「中空構造の自由形態」課題説明
16	キャラクター人形の採寸→下書き
17	キャラクター人形の作図1
18	キャラクター人形の作図2
19	キャラクター人形の作図3
20	キャラクター人形レンダリング1
21	キャラクター人形レンダリング2 「オリジナルキャラクターグッズ」課題説明
22	「オリジナルキャラクターグッズの企画」アイデアスケッチ→アイデアチェック
23	「オリジナルキャラクターグッズの企画」油土原型制作
24	「オリジナルキャラクターグッズの企画」寸法採寸→下書き
25	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図1
26	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図2
27	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図3→完成
28	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンボード制作1
29	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンボード制作2→完成
30	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンテーション、合評

科目名	製図実習	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	田中 雅文				
クラス名					

授業目的と到達目標

アイデア相互理解、また製作を依頼(受注)する場合、その伝達には正確な図面が必須である。|基本的な製図法、陶磁器製図における図示法の理解と修得を図る。|

授業概要

対面授業|基本的な製図法である正投影法の理解に始まり、図面を正しく読む・作図の手順を知る・図面の様式等を知る、更に陶磁器慣例図示法の理解を得る事により、陶磁器デザイン段階での正しい考察力を身に付ける。|また作図の中で、陶磁器の様々な機能に沿ったデザインを考察し、各形態に応じた図形・寸法の表し方を修得する。|これらの技術を習得することにより、将来ものづくりの現場で第三者とのアイデアの相互理解が深まり、より多方面での創作活動の発展を目指す。|

受講上の注意

身の回りにある「やきもの」の形状や厚みなど図面を書く観点から観察する |

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題提出	80
受講姿勢	20

教科書情報

教科書1	「製図実習」 セラミックコース		
出版社名	大阪芸術大学	著者名	南 和伸
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
{田中雅文 Official site, http://tanakamasafumi.sakura.ne.jp/index.html }			
特記事項			
陶磁器制作を専門とする中で素材の特質を活かしたより実践的な陶磁器製図、伝達方法を指導する。			
教員実務経験			
陶芸作家／陶磁器デザイナー。国内外での作品発表、展覧会、企業タイアップによる製品制作など。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	課題説明。陶芸における製図の概要、準備物等の説明		
2	製図の機能と役割(見やすい図面を作成する基本的な考え方) 製図用具の種類と使用法		
3	図面の大きさと様式、線の種類、文字の書き方 正投影法の理解、第一角法と第三角法の比較		
4	湯呑みの製図 1 完成品からの採寸		
5	湯呑みの製図 2 完成品からの作図		
6	湯呑みの製図 3 湯呑みをデザインする		
7	湯呑みの製図 4 製図作業		
8	湯呑みの製図 5 製図作業		

9	湯呑みの製図 6 完成
10	カップ&ソーサーの製図 1 デザインの考察
11	カップ&ソーサーの製図 2 製図作業
12	カップ&ソーサーの製図 3 製図作業
13	カップ&ソーサーの製図 4 製図作業
14	カップ&ソーサーの製図 5 製図作業
15	カップ&ソーサーの製図 6 完成
16	陶磁器慣例図示法、寸法補助記号、円弧の寸法記入法
17	ティーポットの製図 1 デザインの考察
18	ティーポットの製図 2 製図作業
19	ティーポットの製図 3 製図作業
20	ティーポットの製図 4 完成
21	1 面型鑄込み カップの制作 1 デザインの考察
22	1 面型鑄込み カップの制作 2 図面作成
23	1 面型鑄込み カップの制作 3 原型用ゲージの作成
24	1 面型鑄込み カップの制作 4 石膏原型制作
25	1 面型鑄込み カップの制作 5 石膏原型制作
26	1 面型鑄込み カップの制作 6 使用型制作
27	1 面型鑄込み カップの制作 7 使用型制作
28	1 面型鑄込み カップの制作 8 泥漿制作
29	1 面型鑄込み カップの制作 9 鑄込み作業
30	1 面型鑄込み カップの制作 10 生地完成 総括

科目名	製図実習	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	高橋 亜希、尾原 久永				
クラス名					

授業目的と到達目標

(前期 尾原)|デザイナーとして必要な製図の基礎知識を習得し、デジタルツールを応用出来るスキルを養う。||
 (後期 高橋)|テキスタイル・染織コースでは、着物の裁ち方や洋服のパターン知識も必要となる。後期は和裁の基本を習得することを目的とし、作品制作における構想やデザインをより具体的に描画できる能力を養う。|

授業概要

【対面授業】|(前期 尾原)|デザイン系ソフトを使った製図の基本からスタートし、部屋空間をレイアウトする平面図作成から簡単なパース図作成までを行う。||(後期 高橋)|着物の歴史について学び、自らが染色した浴衣地を用いて実際に浴衣を縫う。|

受講上の注意

受講、実習内容がより理解、習得できるように自己啓発すること。また遅刻・私語は慎むこと。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品	80
制作構想	20

教科書情報

教科書1	必要に応じてプリントを配布します。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
授業は予定であり、特別講義や展覧会見学などで変更する場合もある。			
教員実務経験			
(尾原) デザイン制作会社を経営する教員が、実務経験を基に CG を活用したデザイン制作に必要な製図知識の指導をする。 高橋) 大阪市立クラフトパーク 織物指導員 合同会社 AkiOri テキスタイルデザイナー			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期 立体の表現方法、製図と CAD に関する基本的な説明。 デザイン系ソフト:Illustrator の説明。基本操作の実技。		
2	点・線・面の作図練習(基礎)		
3	点・線・面の作図練習(応用)		
4	身近な製品の 2D 製図作成【基本編】(1) スケッチから製図への展開		
5	身近な製品の 2D 製図作成【基本編】(2) 線画ツールの習得		
6	身近な製品の 2D 製図作成【基本編】(3) 線画ツールの習得		
7	身近な製品の 2D 製図作成【応用編】(1) 面処理の習得		
8	身近な製品の 2D 製図作成【応用編】(2) 面処理の習得と立体表現		
9	身近な製品の 2D 製図作成【応用編】(3) 平面図と立面図の制作		

10	住空間の平面図作成(1) 平面図の制作
11	住空間の平面図作成(2) 平面図と立面図の制作
12	製図実習(1) 居住空間における実寸把握作図習得
13	製図実習(2) 居住空間における実寸把握作図習得
14	製図実習(3) 居住空間における実寸把握作図習得
15	合評・総評
16	後期 着物についての歴史考察
17	反物(浴衣地)の上に各部のサイズを記入する
18	反物(浴衣地)の上に各部のサイズを記入する
19	袖を縫うことから始める
20	身頃を縫う
21	身頃を縫う
22	脇を縫う
23	脇を縫う
24	衤を縫う
25	衤を縫う
26	衿をつける
27	袖をつける
28	細部の仕上げ 着物のたたみ方を学ぶ 小下絵を描く(自分が着たい着物、染めたい着物、織りたい着物を想定して模様を描く)
29	日本と西洋の衣服の違いを知り構造を確かめる
30	各自の縫った浴衣を着用してプレゼンテーション、合評

科目名	西洋美術史	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	笹谷 純雄				
クラス名					

授業目的と到達目標

授業では主として 18 世紀後半における新古典主義の成立から、19 世紀の西洋美術を概観する。あわせて西洋美術全般に関する理解を深める。

授業概要

対面授業| この授業で取り上げる 18 世紀後半から 19 世紀という時代は、私たちの時代と直結している時代である。世俗化、個人主義、民主主義、大衆化、商業主義、資本主義、科学技術の発達による機械工業化、情報化等々、私達が生きている現代社会を特徴づける基本的な仕組みの大部分が、この時代に出来上がったといってもよいだろう。時代とともにある美術活動も例外ではない。| まず、ものづくりを志す若者が基本的な技術を習得する手立てとしては、かつては親方のもとで徒弟として修行するという形態であったが、それが今日のように、職業訓練所や美術学校での教育という形態に変わった。そして、ものづくりの形態自体が主として、次の三種類に分化した。一つが、熟練した手技をもつ職人が行う伝統的工芸。一つが、卓越した個性と創造性を誇る芸術家が行う美術。もうひとつが、工業デザイナーとエンジニアと工場労働者が機械によって行う工場生産である。| つぎに、作品の流通に関しては、それまでほとんど個人の占有物であった美術品の多くが、博物館や美術館で一般に公開され、あるものは国や自治体に買い上げられて、人々の共有財産となった。さまざまな展覧会が頻繁に開催されて、それまでは美術アカデミーの会員といった一部の特権的な芸術家だけに出品が許されていたが、さまざまな芸術家たちがさまざまな作品を、ほぼ自由に発表し展示できるようになった。| また、作品の売買に関しては、画商と画廊が登場して、芸術家と購買者の仲介をするようになった。すなわち、社会状況の激変によってそれまで芸術家を後援し作品を購入してくれていた教会や王侯貴族が没落して力を失い、芸術家は経済的基盤が不安定となっていった。しかし、資本主義の発達によって経済活動が急速に活発となり、多くの一般市民にも金銭的な余裕が生まれ、教会や王侯貴族に代わって彼らが美術品の新しい購買層となった。そして経済的に不安定となった芸術家と、新しい購買層である不特定多数の市民たちとの仲介役となったのが画商と画廊なのである。| さらに、作品情報の伝達に関しては、新聞や雑誌の美術ジャーナリズムが読者に展覧会情報を提供し、展示作品の見所などを解説するようになった。新しい作品をいち早く紹介し、目新しい試みに対する人々の好奇心を刺激し、ときにはスキャンダルを巻き起こす。そして写真や動画などの新しい映像手段の発明、発達、普及によって、人々は美術館や展覧会に実際に足を運んで実物を見なくても、見たい作品や好きな作品の精巧な複製画像を、好きな時に好きなだけ身近に眺めて、作品を鑑賞しているつもりになることさえできるようになった。そして作品鑑賞の在り方が多様化するにつれて、作品の提示の仕方も多様化し、ついには作品の在り方自体、作品という概念自体が大きく変貌してゆく。| 授業では 18 世紀後半から 19 世紀における、このような

政治的、経済的、社会的、文化的状況との関連のなかで、美術の展開を概観し、激動の時代を身をもって生きた美術思想家と美術家たちの生涯と作品を紹介し考察する。 |

受講上の注意

| |

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
レポート	50
平常点	50

教科書情報

教科書1	教科書は使用しません。必要に応じて、授業資料を配布します。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報

参考書名1	授業資料以外の参考図書と参考資料は授業中に随時紹介します。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	本授業で取り上げる 18、19 世紀の美術が、古代、中世、近代そして現代にいたる西洋美術の歴史全体の中でどのような位置を占め、どのような意味をもっているのかを、授業シラバスの授業概要にもとづいて概観する。
2	18 世紀から 19 世紀におけるヨーロッパの政治的、経済的状況と動向を概観する。
3	前回につづき、18 世紀から 19 世紀におけるヨーロッパの社会的、文化的状況と動向を概観する。
4	前回につづき、18 世紀から 19 世紀におけるヨーロッパの思想的状況と動向を概観する。
5	18 世紀後半における新古典主義の成立とその背景について。
6	新古典主義の理念について。
7	ドイツ人思想家ヨハン＝ヨアヒム・ヴィンケルマンの生涯について。
8	ヴィンケルマンの著作『ギリシア美術模倣論』について。
9	ヴィンケルマンの思想全体について。
10	新古典主義におけるヴィンケルマンの役割について。
11	美術史研究の歴史、方法論においてヴィンケルマンが果たした役割について。
12	新古典主義前の 18 世紀西洋彫刻について。
13	新古典主義のフランス人彫刻家オギュスタン・バジューの生涯について。
14	新古典主義のフランス人彫刻家バジューの作品について。
15	新古典主義のスウェーデン人彫刻家ヨーハン＝トビアス・セルゲルの生涯について。
16	新古典主義のスウェーデン人彫刻家セルゲルの作品について。
17	新古典主義のイタリア人彫刻家アントーニオ・カノーヴァの生涯について。
18	新古典主義のイタリア人彫刻家カノーヴァの作品について。
19	新古典主義のデンマーク人彫刻家ベルテル・トルヴァルセンの生涯について。

20	新古典主義のデンマーク人彫刻家トルヴァルセンの作品について。
21	新古典主義以後の 19 世紀彫刻を概観する。とくにロマン主義彫刻について。
22	新古典主義前の 18 世紀西洋絵画を概観する。
23	新古典主義のフランス人画家ジャック＝ルイ・ダヴィッドの生涯について。
24	新古典主義のフランス人画家ジャック＝ルイ・ダヴィッドの作品について。
25	ジャック＝ルイ・ダヴィッドの弟子たちについて。
26	新古典主義後の 19 世紀西洋絵画を概観する。
27	ロマン主義の理念とその背景について。
28	ロマン主義の画家たちについて。
29	写実主義の理念と画家たちについて。
30	印象主義の理念と画家たちについて。

科目名	西洋美術史	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	小谷 訓子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
学生諸君に西洋美術史の基礎的な知識を身につけてもらうことを目標とする。					
授業概要					
【対面授業】この授業では、主に絵画、彫刻、建築を取り上げ、西洋世界における美術の歴史を学んでいく。その手続きとして先ずは、各芸術作品の「線」「色彩」「光」「構成(構図)」「形態」「空間」「媒体」を分析し、その作品が所属する時代と地域における様式的特色を認識する。その上で、作品に映し出された社会の状況、政治的なメッセージ、イデオロギー、慣習、作家の意図やパトロンの意図などを歴史的に把握していく。					
受講上の注意					
毎週、授業に関する指示や詳細を UNIPA でチェックすること。 授業で配布するスライド・リストと教科書を参考に、毎回の講義内容をノートに書きとめて、復習をしっかりとすること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
前期末試験			45		
後期末試験			45		
提出物・平常点			10		
教科書情報					
教科書1	『西洋美術の歴史』				
出版社名	創元社	著者名	H.W.ジャンソン他著		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					

参考書名1	Janson's History of Art (8th edition)		
出版社名	Pearson	著者名	Penelope J. E. Davies
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
コロナ感染の状況や、学生の習学レベルにより、授業内容や、進行のペースを変更する場合があります。			
教員実務経験			
なし			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	イントロダクション: 西洋美術史という学問について		
2	古代ギリシャ美術		
3	古代ローマ美術		
4	古代美術の総まとめ		
5	初期キリスト教美術とビザンチン美術		
6	ロマネスク美術		
7	ゴシック美術		
8	中世美術の総まとめ		
9	初期ルネサンス美術		
10	イタリア・ルネサンス美術①		

11	イタリア・ルネサンス美術②
12	北方ルネサンス美術
13	ヴェネツィア・ルネサンス美術
14	ルネサンス美術の総まとめ
15	古代美術・中世美術・ルネサンス美術の総括と前期末試験
16	マニエリスム美術
17	バロック美術①
18	バロック美術②
19	ロココ美術
20	ルネサンス・バロックから近代世界へ
21	新古典主義美術
22	ロマン主義美術
23	19 世紀美術①
24	19 世紀美術②
25	印象主義絵画
26	ポスト印象主義絵画
27	20 世紀美術①
28	20 世紀美術②
29	モダン・アート総まとめ
30	16 世紀～20 世紀美術の総括と後期末試験

科目名	西洋美術史	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	石井 元章				
クラス名					
授業目的と到達目標					
作品の鑑賞を通じ、美術の見方・考え方を学ぶと共に、ヨーロッパ社会の美術や文化との豊かな関わりを理解し、美術を愛する心と豊かな感性を育む。明治以降、日本が手本としたヨーロッパにおける美術の流れを大まかに理解して、近代から現代に連なる日本美術の理解を助け、ひいては現代を生きるための知識と感性を養う。					
授業概要					
【対面授業】 古代ギリシア・ローマ文明から説き起こし、完成された一つの文明としての古代ヨーロッパ世界を理解する。ついで、キリスト教が中心となる中世の社会や美術を理解する。その後、古代と中世の交わる文明としての 15 世紀の初期ルネサンスにまで到達する。 作品に込められたメッセージや政治性・社会性をも理解し、美術作品を「読む」作業を繰り返す。 感染拡大の状況により対面授業に移行する可能性もある。どちらにしても最終授業では筆記の学年末試験を行なうため、第 30 回のみ対面授業となるので注意すること。					
受講上の注意					
高校レベルの世界史の基礎知識を持っていることが望ましい。世界史を選択しなかった場合でも、『もういちど読む山川世界史』などである程度の知識を得てから出席してほしい。また、授業中に出てきた作品については図書館で調べてより深い理解へと向かう努力をしてほしい。 美術史も知識の積み重ねが物を言う。したがって、授業で解説したことは、その日のうちにしっかりと復習して、次の回に備えてほしい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
学年末試験(2/3 の出席が受験の前提)			100		
教科書情報					
教科書1	カラー版 西洋美術史				
出版社名	美術出版社	著者名	高階秀爾監修		
教科書2					

出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	西洋絵画の主題物語Ⅰ聖書編Ⅱ神話編		
出版社名	美術出版社	著者名	諸川春樹監修
参考書名2	新装版 西洋美術解説事典(絶版の可能性あり、ネット通販で購入したり、図書館で閲覧したりすることが望ましい)		
出版社名	河出書房新社	著者名	ジェイムズ・ホール
参考書名3	小学館世界美術大全集		
出版社名	小学館	著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション「美術作品をいかに『読む』か」]まず、科目の名前を「西洋」「美術」「歴史」に分けてそれぞれの意味を説明し、本講義で何を扱うのかを解説する。ついで、ティツィアーノとマネの作品を取り上げながら、そこに込められたメッセージの解説を行なう。		
2	様式から古典様式までのギリシア美術「クレタ美術とミューナイ美術」]ギリシア半島における文化の発展に先立つ時代を取り上げる。その中で、古代地中海世界の超先進国であったエジプトからギリシア世界がいかに多くのことを学んだかを理解する。		

3	様式から古典様式までのギリシア美術 2「陶器画の発展」 幾何学模様の時代からコリントスを中心とする動物文の陶器、そしてアテナイで制作されたアッティカ様式の壺絵の展開を概説する。その中で、ギリシア美術、すなわち、ヨーロッパ美術の中核をなす人間への関心のあり方を理解する。
4	厳格様式から古典様式までのギリシア美術 3「エトルリア美術とギリシア古典期の建築」 ギリシア文明とほぼ同時代にイタリア半島で栄えたエトルリア美術について理解する。また、ギリシア美術の最盛期と考えられる古典期の建築様式について理解する。その際、ヨーロッパ建築様式の基礎をなすイオニア、ドーリア、コリントスなどのオーダーについて学ぶ。
5	厳格様式から古典様式までのギリシア美術 4「彫刻の発展」 クリティオス作《少年像》に端を発し、厳格様式、古典様式へと展開するギリシア彫刻の流れを理解し、その中核にある「コントラポスト」の概念について学ぶ。
6	「白い文明」DVD NHK で放送された番組を鑑賞し、「ヨーロッパ文明の揺り籠としてのギリシア文明」という概念がいかにして作られていったか、そしてギリシア文明が純粋な「白い文明」として捏造されたかを理解する。
7	「ヘレニズム美術」 アレクサンダー大王の死以降の時代を扱う。ヘラ(国としてのギリシアのギリシア語名)の文化が地中海の大きな領域へと拡大していくヘレニズム(ヘラ風)文化の特質と、我々が知るギリシア彫刻の多くがこの時代に属することを理解する。その中で宗教と密接に結びついていた美術が変質する様を学ぶ。
8	ローマ美術 1「アウグストゥスの時代まで」 共和制から王政に至るローマの歴史と文化を理解する。現代社会の基礎が古代ローマにあることを理解する。「パリスの審判」から「ローマの建国」に至る所謂ローマ建国神話について学ぶ。
9	ローマ美術 2「アウグストゥスの時代以降」 初代皇帝となるアウグストゥスの時代から五賢帝時代を経て、ローマの滅亡へと至る時代と美術の流れを理解する。そこに見える歴史主義・記録主義という、ギリシア文明と異なるローマ文明の特質を理解する。
10	ローマ美術 3「ポンペイの遺跡」 紀元 79 年に起こったヴェスヴィオス山の噴火によって埋没した古代都市ポンペイの悲劇と現在の研究状況について学ぶ。395 年に東西に分裂したローマ帝国の西半分(西ローマ帝国)が 476 年に滅亡するまでの末期の歴史と文化を学ぶ。
11	「ローマ帝国」DVD NHK で放映された番組を鑑賞し、ローマの繁栄と滅亡の原因を探る。現在進行中の我々の現代文明の行き先をも占う古代ローマ帝国の状況を学ぶことで、我々が今後どのように生きるべきかを考える。
12	「キリスト教における救済のメカニズム 1」 姉妹宗教と言われるユダヤ教、キリスト教、イスラム教の関連を考え、その中で何故キリスト教は生まれなくてはならなかったのか、すなわち、神はキリストを通じてどのように人々を救済しようとしたのかを理解する。その中で「ゴルゴタ」や「受肉」の意味も解説される。

13	「キリスト教における救済のメカニズム2」 キリスト教の教義が説く救済のメカニズムが、美術作品の中にどのように現れているかを、作品を見ながら理解する。
14	「初期キリスト教美術1」 古代世界と重なるキリスト教誕生期の歴史を学び、その中で自らの信仰を隠すために人々がいかに隠語的な図像を生み出していったかを理解する。
15	「初期キリスト教美術2」 キリスト教が弾圧されていた時代に殉教した人々が、教義によってどのように聖人の列に加えられたか(列聖)を理解し、聖人伝や聖人の典型的図像が生み出されていく様子を学ぶ。
16	「教会の勝利の時代」 コンスタンティヌス帝によりキリスト教が許され、ついで国教になると、キリスト教の教義確立が目指された歴史を学ぶ。その中で、図像がどのように変化していくかを理解する。
17	「ビザンティン美術」 西ローマ帝国で社会・文化が大きく変化していった時代に、東ローマ帝国ではどのような動きがあったのか、政治と宗教はどのような関係にあったのかを理解する。また、その後移ってきたトルコ人によりイスラム教が信仰され、その中でキリスト教の教会が変容していくことを理解する。
18	「初期中世美術1」 ゲルマン民族の移動とそれに続くフランク王国の成立によって現代のヨーロッパの基礎が築かれたことを理解する。写本装飾に関連して、写本、印刷、修道院などの歴史について学ぶ。
19	「初期中世美術2」 写本装飾の作品を鑑賞し、修道院や貴族の邸宅における写本制作について学ぶ。日本人の繊細な装飾感覚に近い、ケルト人の装飾について理解を深める。
20	「ロマネスク様式1」 聖遺物崇敬やロマネスク建築の構造について理解する。聖ヤコブの遺体の発見が引き起こした全ヨーロッパ的な巡礼の動きと、それに基づく聖堂の構造変化について理解する。
21	「ロマネスク様式2」 栄光のキリスト図像について学び、それが意味する修道院を中心としたこの時代の宗教活動を理解する。
22	「ゴシック様式1」 文化の担い手の社会層が一段下がることによって、宗教美術のあり方が変わること、それが修道院長シュジェールの下にサン・ドニで起こることを理解する。「聖母マリア」を重視する教義が現れることも学ぶ。
23	「ゴシック様式2」 各地に大聖堂が数多く建設され、その装飾の中でステンドグラスが生まれることを理解する。
24	「国際ゴシック様式1」 14世紀 社会的混乱と封建制の動揺、すなわち、教皇のアヴィニョン幽囚、教会の大分裂(シスマ)、黒死病の流行、百年戦争などについて学び、その中で貴族を担い手とする優美な美術が生まれることを理解する。

25	「国際ゴシック様式2」 同じ時代にイタリアでジョットが絵画に革新を起こし、それによって遠近法の基礎が築かれたことを理解する。また、その変革が社会的な変質によって引き起こされたものであることを学ぶ。
26	「国際ゴシック様式3」 ジョットと同時代のシモーネ・マルティーニの作品や、ジョットに先立つニコラ・ピサーノの彫刻作品について学ぶ。
27	「ルネサンス概説1」 ルネサンスの概念とそれを生み出した15世紀前半のフィレンツェの美術を理解する。特に建築におけるブルネレスキ、彫刻におけるドナテッロ、絵画におけるマザッチョの役割を学ぶ。
28	「ルネサンス概説2」 マザッチョに続く15世紀半ばから後半にかけてのフィレンツェ絵画について学ぶ。
29	「ルネサンス概説3」 ドナテッロに続く15世紀半ばから後半にかけてのフィレンツェ彫刻について学ぶ。
30	授業のまとめと筆記の学年末試験。

科目名	西洋美術史	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	石井 元章				
クラス名					
授業目的と到達目標					
作品の鑑賞を通じ、美術の見方・考え方を学ぶと共に、ヨーロッパ社会の美術や文化との豊かな関わりを理解し、美術を愛する心と豊かな感性を育む。 明治以降日本が手本としたヨーロッパにおける美術の流れを大まかに理解して、近代から現代に連なる日本美術の理解を助け、ひいては現代を生きるための知識と感性を養う。					
授業概要					
【対面授業】 国際ゴシックの時代からバロック美術までを扱う。完成された一つの文明としての古代ヨーロッパ世界と、キリスト教が中心となる中世の交錯点としての 15 世紀の初期ルネサンス以降の美術の歴史を、それに先立つ国際ゴシック様式の時代から詳述する。 作品に込められたメッセージや政治性・社会性を理解し、美術作品を「読む」作業を繰り返し行う。 感染拡大の状況次第で対面授業に移行する可能性もある。どちらにしても最終授業で筆記の学年末試験を行なうため、第 30 回は対面授業となるので注意すること。					
受講上の注意					
高校レベルの世界史の基礎知識を持っていることが望ましい。世界史を選択しなかった場合でも、『もういちど読む山川世界史』などである程度の知識を得てから出席してほしい。意欲的に授業に出席すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
学年末試験(2/3 の出席が受験の前提)			100		
教科書情報					
教科書1	カラー版 西洋美術史				
出版社名	美術出版社	著者名	高階秀爾監修		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	西洋絵画の主題物語 I 聖書編 II 神話編		
出版社名	美術出版社	著者名	諸川春樹監修
参考書名2	新装版 西洋美術解説事典(絶版の可能性あり、ネット通販で購入したり、図書館で閲覧したりすることが望ましい)		
出版社名	河出書房新社	著者名	ジェイムズ・ホール
参考書名3	ルネサンスの彫刻 15・16 世紀のイタリア(絶版の可能性あり、ネット通販で購入したり、図書館で閲覧したりすることが望ましい)		
出版社名	ブリュッケ	著者名	石井元章
参考書名4	小学館世界美術大全集		
出版社名	小学館	著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション 「美術作品をいかに『読む』か」まず、科目の名前を「西洋」「美術」「歴史」に分けてそれぞれの意味を説明し、本講義で何を扱うのかを解説する。ついで、ティツィアーノとマネの作品を取り上げながら、そこに込められたメッセージの解説を行なう。		
2	「ヨーロッパ美術の核 1」 ヨーロッパ文化の核の一つである古代ギリシア・ローマ神話について概略を学び、それがルネサンス以降の美術に大きな影響を与えたことを理解する。		
3	「ヨーロッパ美術の核 2」 ヨーロッパ文化のもう一つの核であるキリスト教の教義について概略を学び、それがルネサンス以降も美術の中心であり続けることを理解する。		

4	「国際ゴシック様式 1」14 世紀の社会的混乱と封建制の動揺、すなわち教皇のアヴィニョン幽囚、教会の大分裂(シスマ)、黒死病の流行、百年戦争などについて学び、その中で貴族を担い手とする優美な美術が生まれることを理解する。
5	「国際ゴシック様式 2」同じ時代にイタリアでジョットが絵画に確信を起こし、それによって遠近法の基礎が築かれたことを理解する。また、その変革が社会的な変質によって引き起こされたものであることを学ぶ。
6	「ルネサンス概説」ルネサンスの概念とそれを生み出した 15 世紀前半のフィレンツェの美術を理解する。特に建築におけるブルネレスキ、彫刻におけるドナテッロ、絵画におけるマザッチョの役割を学ぶ。
7	「フィレンツェの絵画 1」マザッチョの遺産を受け継いだパオロ・ウッチェッロやアンドレア・デル・カスターニョが遠近法を発展させ、そこにフィリッポ・ピッピやフラ・アンジェリコのような優雅な様式が加わることを解説する。
8	「フィレンツェの絵画 2」前回に引き続き、15 世紀半ばのフィレンツェ絵画を扱う。フィリッポ・リッピのような「正統なルネサンス絵画」とは呼べないペノツォ・ゴッツォオリやドメニコ・ヴェネツィアーノら同時代の国際ゴシック様式よりの作品を理解する。
9	「フィレンツェの彫刻 1」ドナテッロの同時代人でありながら前時代の国際ゴシック様式を引き継いだヤコポ・デラ・クエルチャの作品、および施釉テラコッタを得意としたデラ・ロツピア工房について学ぶ。
10	「フィレンツェの彫刻 2」15 世紀半ばにフィレンツェで活躍したロッセリーノ工房の作家たちについて学ぶ。
11	「ヴェネツィアの絵画 1」15 世紀ヴェネツィア絵画を支えたベッリーニ工房の親子 3 人とそれに先立つパオロ・ヴェネツィアーノらについて学び、彼らが 16 世紀の所謂ヴェネツィア絵画黄金期の基礎を築いたことを理解する。
12	「ヴェネツィアの絵画 2」15 世紀最大の画家と賞賛され、ベッリーニ工房の一翼を担ったアンドレア・マンテーニャについて学ぶ。
13	「ヴェネツィアの彫刻 1」15 世紀前半にフィレンツェ共和国からヴェネツィア共和国にやってきた彫刻家たちによって後者の彫刻の基礎が築かれることを理解する。
14	「ヴェネツィアの彫刻 2」15 世紀後半にヴェネツィアで活躍したアントニオ・リッツォやロンバルド工房の作家たちについて学び、その中で古代美術が模範とされたことを理解する。
15	「盛期ルネサンスの時代背景」16 世紀ヨーロッパの状況に関して、全世界的な視点から学ぶ。
16	「レオナルド・ダ・ヴィンチ 1」盛期ルネサンスの三大巨匠の筆頭であるレオナルドについて、その前半生を学ぶ。

17	「レオナルド・ダ・ヴィンチ 2」 盛期ルネサンスの三大巨匠の筆頭であるレオナルドについて、その後半生を学ぶ。
18	「ミケランジェロ・ブオナルローティ 1」 レオナルドに次ぐ巨匠ミケランジェロについて、古代美術との関わりの中でその作品を考える。
19	「ミケランジェロ・ブオナルローティ 2」 レオナルドに次ぐ巨匠ミケランジェロについて、古代美術との関わりの中でその作品を考える。
20	「ラッファエッロ・サンツィオ 1」 1508 年までのラッファエッロの前半生について学ぶ。
21	「ラッファエッロ・サンツィオ 2」 ヴァチカン宮殿での仕事以降、その早すぎる死までの作品を学ぶ。
22	「16 世紀のヴェネツィア絵画 ジョルジョーネとティツィアーノ」 ジョヴァンニ・ベッリーニの二人の弟子で、ヴェネツィア絵画の黄金時代を築いたジョルジョーネとティツィアーノの生涯、作品について学ぶ。
23	「16 世紀のヴェネツィア絵画 ティントレット、バッサーノ、ヴェロネーゼ」 ティツィアーノの後を追ってヴェネツィア絵画の黄金時代を築いたティントレット、ヴェロネーゼらの作品について学ぶ。
24	「16 世紀のヴェネツィア彫刻 ロンバルド兄弟、ヤコポ・サンソヴィーノ、ヴィットーリア」 現在あるヴェネツィアの都市空間の中心を形成したロンバルド工房の二人の作家や、サンソヴィーノ、ヴィットーリアらの作品について学ぶ。
25	「マニエリスム絵画 1」 所謂マニエリスムの絵画について、その中心的存在であるポントルモやロッソ・フィオレンティーノについて学ぶ。また、マニエリスムの概念について理解する。
26	「マニエリスム絵画 2 エル・グレコ、コルレッジョ」 フィレンツェ以外の地でマニエリスムの様式を受け継いだコルレッジョやエル・グレコらの作品について学ぶ。
27	「北方ルネサンス美術 1 ドイツ」 デューラーやルーカス・クラナハ、ハンス・ホルバインなど 16 世紀のドイツの巨匠たちについて学ぶ。
28	「北方ルネサンス美術2 ネーデルラント、フランス」 16 世紀にネーデルラントで活躍したクエンティン・マセイスやフランスの第一次フロンターヌブロー派の画家たちについて学ぶ。
29	「バロック美術 カラヴァッジョとベルニーニ」 対抗宗教革命の美術としてのバロック美術の代表的画家カラヴァッジョと彫刻家ジャン・ロレンツォ・ベルニーニについて学ぶ。
30	授業のまとめと筆記の学年末試験

科目名	西洋美術史		年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期		形態	講義		
教員名	木村 和実					
クラス名						
授業目的と到達目標						
「人間にとって芸術とは何か」という根源的な問題を念頭におきながら、人類の創造した豊かなイメージの文化を読み解いてゆく。西洋美術の作品の解釈を学ぶことを通して、美術についての知識と理解を、そして何よりも芸術への愛を深めたいと願う。						
授業概要						
対面授業 西洋の美術作品を読み解く上で必須の教養とも言えるギリシア・ローマ神話や聖書の物語を作品を通して紹介してゆく。さらに個々の作品に表現された植物や動物などのモチーフの象徴性を詳細に解き明かしてゆきたい。						
受講上の注意						
各自で美術館を訪れてオリジナルの作品に触れる機会を増やしてほしい。 出席重視。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
レポート(後期)				80		
平常点(授業態度)				20		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						

参考書名1	必要に応じて適宜指示する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	イントロダクション～絵を聴く、絵を読む～ * 授業の進め方 * 絵画の謎を解く(1)～ブロンズィーノ《愛のアレゴリー》～		
2	* 絵画の謎を解く(2)～ルーベンス《パリスの審判》～		
3	ギリシア神話の世界(1) * 神々のアトリビュート(象徴物)について * 創世と神々の系譜		
4	ギリシア神話の世界(2) * オリュンポスの神々～最高神ゼウス～		
5	ギリシア神話の世界(3) * オリュンポスの神々～ヘラ～		
6	ギリシア神話の世界(4) * オリュンポスの神々～ポセイドン、デメテル～		
7	ギリシア神話の世界(5) * 冥界の王ハデスとペルセポネー * ギリシア神話における冥界		
8	ギリシア神話の世界(6) * オリュンポスの神々～アテナ～ * 英雄ペルセウスとメデューサ		
9	ギリシア神話の世界(7) * オリュンポスの神々～アポロンとアルテミス～ * 世界遺産デルフィ(DVD 鑑賞)		
10	ギリシア神話の世界(8) * オリュンポスの神々～アプロディーテー～		

11	ギリシア神話の世界(9) *オリュンポスの神々～アレス、ヘパイストス～
12	ギリシア神話の世界(10) *オリュンポスの神々～ヘスティア、ヘルメス～
13	ギリシア神話の世界(11) *オリュンポスの神々～ディオニューソス～ *オリンピアの祭典
14	ギリシア神話の英雄～テセウスと迷宮伝説～
15	ホメロスの世界とトロイ戦争 (1)
16	ホメロスの世界とトロイ戦争(2)
17	王女メディア、オルペウスとエウリュディケー
18	シンボルの宇宙を読む(1) * 象徴の森の果物～りんごの秘密1～
19	シンボルの宇宙を読む(2) * 象徴の森の果実～りんごの秘密2～
20	シンボルの宇宙を読む(3) * 象徴の森の果実～葡萄とイチジクの秘密～
21	シンボルの宇宙を読む(4) * 象徴の森の果実～ざくろとさくらんぼの秘密～
22	シンボルの宇宙を読む(5) * 象徴の森の花々～薔薇の秘密1～
23	シンボルの宇宙を読む(6) * 象徴の森の花々～薔薇の秘密2～
24	シンボルの宇宙を読む(7) * 象徴の森の花々～百合の秘密～
25	シンボルの宇宙を読む(8) * 象徴の森の花々～水仙とアイリスの秘密～
26	シンボルの宇宙を読む(9) * 象徴の森の花々～薊と向日葵の秘密～
27	シンボルの宇宙を読む(10) * 象徴の森の動物たち～蛇・鳥・犬・猫など～
28	シンボルの宇宙を読む(11) * 象徴としての虫たち～蝸牛・蠅・蝶など～
29	シンボルの宇宙を読む(12) * 象徴としての静物～17世紀オランダの静物画の世界～
30	レポート作品のスライドショーと後期の授業のまとめ

科目名	染織論	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	竹垣 恵子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
アジアの布の技術と変遷を学ぶことにより、現代テキスタイルデザインの 根源の一端を探り、独自の作品制作・テキスタイルデザインの可能性を探 る					
授業概要					
対面授業 主に中国の布とそれに施された意匠、その技術について学ぶ					
受講上の注意					
随時、必要な資料を配布するため欠席のないようにしてください					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
レポート			90		
授業態度			10		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	授業中に参考資料を配布する				
出版社名		著者名			

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
主に中国・アジアの布を研究課題とする染織作家が担当する			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	「中国の染織」について		
2	「中国の染織」 繊維(絹・木綿)から布になる過程の技術的変遷を見る ①		
3	「中国の染織」 繊維(絹・木綿)から布になる過程の技術的変遷を見る ②		
4	「中国の染織」 布に施す意匠 文様(主に吉祥紋様について)①		
5	「中国の染織」 布に施す意匠 文様(主に吉祥紋様について)②		
6	「中国の染織」 布に施す意匠 技法(染)		
7	「中国の染織」 布に施す意匠 技法(織)		
8	「中国の染織」 布に施す意匠 技法(刺繍)		
9	「中国の染織」 皇帝の衣裳と庶民の衣裳		
10	「中国の染織」 皇帝の衣裳と庶民の衣裳(皇帝の衣裳)		
11	「中国の染織」 皇帝の衣裳と庶民の衣裳(チャイナドレスの変遷)		
12	「中国の染織」 皇帝の衣裳と庶民の衣裳(印花布からなる衣装)		
13	「日本の染織」 中国からわが国へ伝播した染織技法		

14	「アジアの布」 東南アジアの布
15	まとめ

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	小泉 里美				
クラス名	再履修クラス				
授業目的と到達目標					
デジタル機器(カメラやスマートフォン等)をとおして簡単に目の前の欲しい映像が手に入る今日。自分の眼で物(モチーフ)を観察し描写することで、写真に感じなかった「気づき」を持ち、新たな世界の発見につなげる。					
授業概要					
【対面授業】・静物、簡単な造形物などを描写する「鉛筆デッサン」・思いついたイメージを描きとめられる「スケッチ」					
受講上の注意					
授業中、スマートフォンを視聴しない。 課題は授業中に集中して取り組むこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
総合評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
実務経験: 画家としての作品制作(絵画)や発表経験、大人から幼児まで対象とした絵画指導経験より授業を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【対面】 ガイダンス(授業説明)・デッサン導入(道具や描き方の説明)		
2	【対面】 スケッチ「人物」課題説明→教室内スケッチ→授業中に描いたスケッチを相互に見る		
3	【対面】 デッサン「4色の折り紙」① 課題説明→構成→下描き、デッサン それぞれの色がどの程度明度差があるか、デッサンを通して体験する		
4	【対面】 デッサン「4色の折り紙」② デッサン 形・色・質感(薄さ)に注意して制作する		
5	【対面】 デッサン「4色の折り紙」③ デッサン モチーフ(折り紙)がどんな状況で設置しているのかデッサンで表現できているか。		
6	【対面】 前回課題の合評 デッサン「白い石膏」① 構成→下描き、デッサン モチーフ室から各自“白い石膏・幾何形体”の中から描きたい物を選び、デッサンする		
7	【対面】 デッサン「白い石膏」② デッサン(形の比較と色合い、明暗の違い、角度など)		
8	【対面】 デッサン「白い石膏」③ デッサン(全体を見ながら完成)		

9	【対面】 前回課題の合評 デッサン「段ボール」① 課題説明→モチーフ制作→構成→下描き 箱のままでなく、簡単に手を加えてデッサンする
10	【対面】 デッサン「段ボール」② デッサン モチーフ(創作した段ボール)全体が1枚の紙に収まるように。 同じ色合いの明暗の変化、凹凸、深さに注目して制作する。
11	【対面】 デッサン「段ボール」③ デッサン 全体の明暗が表現できているか、1個の箱に見えるか。
12	【対面】 前回課題の合評 デッサン「身に着けているもの、あるいは身近なもの」① 課題説明→構成→下描き→デッサン 各自が今一番身近な物を持参、セッティングしてデッサンする
13	【対面】 デッサン「身に着けているもの、あるいは身近なもの」② デッサン 質感・明度などこれまでの課題制作で得た知識を活かして制作する
14	【対面】 デッサン「身に着けているもの、あるいは身近なもの」③ デッサン モチーフ物自体が表現できたのか。
15	【対面】 課題合評

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	小泉 里美				
クラス名	再履修クラス				
授業目的と到達目標					
デジタル機器(カメラやスマートフォン等)をとおして簡単に目の前の欲しい映像が手に入る今日。自分の眼で物(モチーフ)を観察し描写することで、写真に感じなかった「気づき」を持ち、新たな世界の発見につなげる。					
授業概要					
【対面授業】・静物、簡単な造形物などを描写する「鉛筆デッサン」・思いついたイメージを描きとめられる「スケッチ」					
受講上の注意					
授業中、スマートフォンを視聴しない。 課題は授業中に集中して取り組むこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
総合評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
実務経験: 画家としての作品制作(絵画)や発表経験、大人から幼児まで対象とした絵画指導経験より授業を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【対面】 ガイダンス(授業説明)・デッサン導入(道具や描き方の説明)		
2	【対面】 スケッチ「人物」課題説明→教室内スケッチ→授業中に描いたスケッチを相互に見る		
3	【対面】 デッサン「4色の折り紙」① 課題説明→構成→下描き、デッサン それぞれの色がどの程度明度差があるか、デッサンを通して体験する		
4	【対面】 デッサン「4色の折り紙」② デッサン 形・色・質感(薄さ)に注意して制作する		
5	【対面】 デッサン「4色の折り紙」③ デッサン モチーフ(折り紙)がどんな状況で設置しているのかデッサンで表現できているか。		
6	【対面】 前回課題の合評 デッサン「白い石膏」① 構成→下描き、デッサン モチーフ室から各自“白い石膏・幾何形体”の中から描きたい物を選び、デッサンする		
7	【対面】 デッサン「白い石膏」② デッサン(形の比較と色合い、明暗の違い、角度など)		
8	【対面】 デッサン「白い石膏」③ デッサン(全体を見ながら完成)		

9	【対面】 前回課題の合評 デッサン「段ボール」① 課題説明→モチーフ制作→構成→下描き 箱のままでなく、簡単に手を加えてデッサンする
10	【対面】 デッサン「段ボール」② デッサン モチーフ(創作した段ボール)全体が1枚の紙に収まるように。 同じ色合いの明暗の変化、凹凸、深さに注目して制作する。
11	【対面】 デッサン「段ボール」③ デッサン 全体の明暗が表現できているか、1個の箱に見えるか。
12	【対面】 前回課題の合評 デッサン「身に着けているもの、あるいは身近なもの」① 課題説明→構成→下描き→デッサン 各自が今一番身近な物を持参、セッティングしてデッサンする
13	【対面】 デッサン「身に着けているもの、あるいは身近なもの」② デッサン 質感・明度などこれまでの課題制作で得た知識を活かして制作する
14	【対面】 デッサン「身に着けているもの、あるいは身近なもの」③ デッサン モチーフ物自体が表現できたのか。
15	【対面】 課題合評

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	金田 恵美子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
「描画力」と「造形力」そして「絵画力」への挑戦と努力、達成感。					
授業概要					
【対面授業】多様化した表現の世界。その中に身を置いて「描く」ことから各自の持てる力を引き出すことを主眼に置く。 種々な描画材料にも挑戦し、描画力の向上と各自の内なるものの表出・制作活動を行う。					
受講上の注意					
・「描写」への関心と探求心を常に持ち続けること。 ・制作に対して積極的に自己に関わらせること。 ・「描く」ことを楽しむこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
40年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 描写・描画への全般的な解説。		
2	「鉛筆で描く」 紙の立方体とりんご 鉛筆のトーン表現から始める。鉛筆の美しさ。 有彩色の世界から無彩色の世界へ。		
3	「鉛筆で描く」 紙の立方体とりんご 鉛筆のトーン表現から始める。鉛筆の美しさ。 有彩色の世界から無彩色の世界へ。		
4	「色鉛筆で描く」 野菜・果物 生命感のあるモチーフ。具象形態の不思議さ、面白さ。 量感、質感、色彩。		
5	「色鉛筆で描く」 野菜・果物 生命感のあるモチーフ。具象形態の不思議さ、面白さ。 量感、質感、色彩。		
6	「墨で描く」 水墨画・自画像にヒントを得る 墨の特性と和紙の特質のコラボレーション。 偶然の力、筆における描画力への挑戦。		
7	「墨で描く」 水墨画・自画像にヒントを得る 墨の特性と和紙の特質のコラボレーション。 偶然の力、筆における描画力への挑戦。		

8	「水溶性の顔料で描く」 静物 与えられたモチーフに挑戦。 量感、質感、空間認識、色彩。
9	「水溶性の顔料で描く」 静物 与えられたモチーフに挑戦。 量感、質感、空間認識、色彩。
10	「水溶性の顔料で描く」 静物 与えられたモチーフに挑戦。 量感、質感、空間認識、色彩。
11	「自由制作」 各自の制作意図に準じて、具象表現、抽象表現。 いずれでも良い、描画材料、サイズ、点数、自由。
12	「自由制作」 各自の制作意図に準じて、具象表現、抽象表現。 いずれでも良い、描画材料、サイズ、点数、自由。
13	「自由制作」 各自の制作意図に準じて、具象表現、抽象表現。 いずれでも良い、描画材料、サイズ、点数、自由。
14	「自由制作」 各自の制作意図に準じて、具象表現、抽象表現。 いずれでも良い、描画材料、サイズ、点数、自由。
15	合評

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	杉井 啓三				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

基礎デッサンを行う。|透視遠近法、形の把握、光と影の法則、表現方法の基礎を学ぶ。|入試のためのデッサン、デッサンのためのデッサン、ではなく、|表現方法の幅をひろげ、イメージネーションを豊かにする。

授業概要

対面授業|コロナ感染予防として消毒、換気、マスク着用したうえで、教室の大きさと学生数のバランスを考慮し|対面授業を行う。|卓上のモチーフを描く静物デッサンを基本とするが|デッサン力だけではなく、各自の個性が出しやすいように|表現方法に自由度をもたせた課題を6点制作する。

受講上の注意

準備用具の忘れ物に注意すること。|授業に積極的に関わりを持つこと。|自身が好きな分野だけではなく、日常での出来事や芸術のニュースに幅広く注意しておく。|美術館や博物館に行き、実物を見る。|学内の情報センターや体育館ギャラリー、ハルカスキャンパスのギャラリーなどでも様々なジャンルの作品が展示されるのでチェックしておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題の完成度	80
授業に取り組む姿勢	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
参考資料を配布し、その都度説明しながら行なう。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス、デッサン概論 過去の参考作品を見ながら 授業の流れ、課題内容、準備用具を説明する。		
2	課題1 立方体(ケント紙で制作)を制作しながら描く。 3点透視法、3面の描き分け		
3	課題2 紙コップと鉛筆を描く 曲面のグラデーション 組モチーフの構図の基礎		
4	課題3 自画像 (マスク着用) おまけ課題付き 変顔やメイク、シールを貼るなど 可		
5	課題3 自画像 (マスク着用) おまけ課題付き 変顔やメイク、シールを貼るなど 可		
6	課題4 ペットボトルと布 質感表現の練習 組モチーフの構図の応用 構図 制作		
7	課題4 ペットボトルと布 質感表現の練習 組モチーフの構図の応用 制作		
8	課題4 ペットボトルと布 質感表現の練習 組モチーフの構図の応用 完成		

9	課題5 写真の模写 制作	写真、雑誌のカラーページ、などの一部をモノクロで模写する
10	課題5 写真の模写 完成	写真、雑誌のカラーページ、などの一部をモノクロで模写する
11	課題6 妄想デッサン キース 下書き	学内の建築物に空想 妄想を加えて描く ロケハン エス
12	課題6 妄想デッサン	学内の建築物に空想 妄想を加えて描く 制作
13	課題6 妄想デッサン	学内の建築物に空想 妄想を加えて描く 制作
14	課題6 妄想デッサン	学内の建築物に空想 妄想を加えて描く 完成
15	合評、総評	

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	杉井 啓三				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

基礎デッサンを行う。|透視遠近法、形の把握、光と影の法則、表現方法の基礎を学ぶ。|入試のためのデッサン、デッサンのためのデッサン、ではなく、|表現方法の幅をひろげ、イメージネーションを豊かにする。

授業概要

対面授業|コロナ感染予防として消毒、換気、マスク着用したうえで、教室の大きさと学生数のバランスを考慮し|対面授業を行う。|卓上のモチーフを描く静物デッサンを基本とするが|デッサン力だけではなく、各自の個性が出しやすいように|表現方法に自由度をもたせた課題を6点制作する。

受講上の注意

準備用具の忘れ物に注意すること。|授業に積極的に関わりを持つこと。|自身が好きな分野だけではなく、日常での出来事や芸術のニュースに幅広く注意しておく。|美術館や博物館に行き、実物を見る。|学内の情報センターや体育館ギャラリー、ハルカスキャンパスのギャラリーなどでも様々なジャンルの作品が展示されるのでチェックしておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題の完成度	80
授業に取り組む姿勢	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
参考資料を配布し、その都度説明しながら行なう。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス、デッサン概論 過去の参考作品を見ながら 授業の流れ、課題内容、準備用具を説明する。		
2	課題1 立方体(ケント紙で制作)を制作しながら描く。 3点透視法、3面の描き分け		
3	課題2 紙コップと鉛筆を描く 曲面のグラデーション 組モチーフの構図の基礎		
4	課題3 自画像 (マスク着用) おまけ課題付き 変顔やメイク、シールを貼るなど 可		
5	課題3 自画像 (マスク着用) おまけ課題付き 変顔やメイク、シールを貼るなど 可		
6	課題4 ペットボトルと布 質感表現の練習 組モチーフの構図の応用 構図 制作		
7	課題4 ペットボトルと布 質感表現の練習 組モチーフの構図の応用 制作		
8	課題4 ペットボトルと布 質感表現の練習 組モチーフの構図の応用 完成		

9	課題5 写真の模写 制作	写真、雑誌のカラーページ、などの一部をモノクロで模写する
10	課題5 写真の模写 完成	写真、雑誌のカラーページ、などの一部をモノクロで模写する
11	課題6 妄想デッサン キース 下書き	学内の建築物に空想 妄想を加えて描く ロケハン エス
12	課題6 妄想デッサン	学内の建築物に空想 妄想を加えて描く 制作
13	課題6 妄想デッサン	学内の建築物に空想 妄想を加えて描く 制作
14	課題6 妄想デッサン	学内の建築物に空想 妄想を加えて描く 完成
15	合評、総評	

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	谷口 貞久				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
【対面授業】基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン（ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン）を行います。					
受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合（％）		
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
子供絵画教室・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 (公社)二科会 会員 (社)日本美術家連盟 会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11 段階グレースケール枠作成		
2	課題1:基礎デッサン1(1 回目) 「グレースケール制作・手のデッサン」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方		
3	課題1:基礎デッサン1(2 回目)		
4	課題2:基礎デッサン2(1 回目) 「色鉛筆デッサン(組モチーフ)…玉ねぎ・紙コップ」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方		
5	課題2:基礎デッサン2(2 回目)		
6	課題3:遠近法基礎 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け		
7	課題4:遠近法応用(1 回目) 「構造物デッサン(校内)」 構造物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影		
8	課題4:遠近法応用(2 回目)		
9	課題4:遠近法応用(3 回目)		

10	課題4:遠近法応用(4回目)
11	課題5:想定デッサン(1回目) 「構造物を利用したシュールレアリスムの作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題5:想定デッサン(2回目)
13	課題5:想定デッサン(3回目)
14	課題5:想定デッサン(4回目)
15	課題5:想定デッサン(5回目)

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	谷口 貞久				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
【対面授業】基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン（ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン）を行います。					
受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合（％）		
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
子供絵画教室・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 (公社)二科会 会員 (社)日本美術家連盟 会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11 段階グレースケール枠作成		
2	課題1:基礎デッサン1(1 回目) 「グレースケール制作・手のデッサン」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方		
3	課題1:基礎デッサン1(2 回目)		
4	課題2:基礎デッサン2(1 回目) 「色鉛筆デッサン(組モチーフ)…玉ねぎ・紙コップ」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方		
5	課題2:基礎デッサン2(2 回目)		
6	課題3:遠近法基礎 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け		
7	課題4:遠近法応用(1 回目) 「構造物デッサン(校内)」 構造物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影		
8	課題4:遠近法応用(2 回目)		
9	課題4:遠近法応用(3 回目)		

10	課題4:遠近法応用(4回目)
11	課題5:想定デッサン(1回目) 「構造物を利用したシュールレアリスムの作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題5:想定デッサン(2回目)
13	課題5:想定デッサン(3回目)
14	課題5:想定デッサン(4回目)
15	課題5:想定デッサン(5回目)

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	谷口 貞久				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
【対面授業】基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン（ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン）を行います。					
受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合（％）		
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
子供絵画教室・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 (公社)二科会 会員 (社)日本美術家連盟 会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11 段階グレースケール枠作成		
2	課題1:基礎デッサン1(1 回目) 「グレースケール制作・手のデッサン」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方		
3	課題1:基礎デッサン1(2 回目)		
4	課題2:基礎デッサン2(1 回目) 「色鉛筆デッサン(組モチーフ)…玉ねぎ・紙コップ」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方		
5	課題2:基礎デッサン2(2 回目)		
6	課題3:遠近法基礎 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け		
7	課題4:遠近法応用(1 回目) 「構造物デッサン(校内)」 構造物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影		
8	課題4:遠近法応用(2 回目)		
9	課題4:遠近法応用(3 回目)		

10	課題4:遠近法応用(4回目)
11	課題5:想定デッサン(1回目) 「構造物を利用したシュールレアリスムの作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題5:想定デッサン(2回目)
13	課題5:想定デッサン(3回目)
14	課題5:想定デッサン(4回目)
15	課題5:想定デッサン(5回目)

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	谷口 貞久				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
【対面授業】基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン（ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン）を行います。					
受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合（％）		
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
子供絵画教室・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 (公社)二科会 会員 (社)日本美術家連盟 会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11 段階グレースケール枠作成		
2	課題1:基礎デッサン1(1 回目) 「グレースケール制作・手のデッサン」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方		
3	課題1:基礎デッサン1(2 回目)		
4	課題2:基礎デッサン2(1 回目) 「色鉛筆デッサン(組モチーフ)…玉ねぎ・紙コップ」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方		
5	課題2:基礎デッサン2(2 回目)		
6	課題3:遠近法基礎 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け		
7	課題4:遠近法応用(1 回目) 「構造物デッサン(校内)」 構造物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影		
8	課題4:遠近法応用(2 回目)		
9	課題4:遠近法応用(3 回目)		

10	課題4:遠近法応用(4回目)
11	課題5:想定デッサン(1回目) 「構造物を利用したシュールレアリスムの作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題5:想定デッサン(2回目)
13	課題5:想定デッサン(3回目)
14	課題5:想定デッサン(4回目)
15	課題5:想定デッサン(5回目)

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	戎谷 真木子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
基本的な描写を基に自由にイメージをして展開応用する事で、個性的な表現の可能性を追求する。現代における多様な画材や素材を研究工夫し、造形の豊かな表現力を身につける。					
授業概要					
対面授業 驚く程多様になりスピード化した現代生活の中で、独自の知識思考法を活かした表現を追求する。又、表現する上での基本的な知識の習得や制作に関わる技術の向上を図り、表現の可能性を試みる。					
受講上の注意					
次回の課題を予告するので、準備物を確認忘れず持参。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題と授業態度			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
洋画家、公益社団法人二科会・絵画部会友、認定 NPO 法人大阪府高齢者大学講師			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション		
2	鉛筆デッサン、トーンスケール、グラビアを使った描写。		
3	同上		
4	点描、顔の一部を描く、墨汁、竹串、鏡。		
5	同上		
6	鉛筆デッサン、二つの異なる形の紙コップを描く。		
7	同上		
8	鉛筆デッサン、折り鶴と小枝を描く。		
9	同上		
10	感情表現、喜怒哀楽に関わる言葉からイメージして自由制作 描画材表現自由		
11	同上		
12	鉛筆デッサン、白い布で包まれたものを描く。		

13	同上
14	合評 作品返却
15	合評 作品返却

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	戎谷 真木子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
基本的な描写を基に自由にイメージをして展開応用する事で、個性的な表現の可能性を追求する。現代における多様な画材や素材を研究工夫し、造形の豊かな表現力を身につける。					
授業概要					
対面授業 驚く程多様になりスピード化した現代生活の中で、独自の知識思考法を活かした表現を追求する。又、表現する上での基本的な知識の習得や制作に関わる技術の向上を図り、表現の可能性を試みる。					
受講上の注意					
次回の課題を予告するので、準備物を確認忘れず持参。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題と授業態度			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
洋画家、公益社団法人二科会・絵画部会友、認定 NPO 法人大阪府高齢者大学講師			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション		
2	鉛筆デッサン、トーンスケール、グラビアを使った描写。		
3	同上		
4	点描、顔の一部を描く、墨汁、竹串、鏡。		
5	同上		
6	鉛筆デッサン、二つの異なる形の紙コップを描く。		
7	同上		
8	鉛筆デッサン、折り鶴と小枝を描く。		
9	同上		
10	感情表現、喜怒哀楽に関わる言葉からイメージして自由制作 描画材表現自由		
11	同上		
12	鉛筆デッサン、白い布で包まれたものを描く。		

13	同上
14	合評 作品返却
15	合評 作品返却

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	戎谷 真木子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
基本的な描写を基に自由にイメージをして展開応用する事で、個性的な表現の可能性を追求する。現代における多様な画材や素材を研究工夫し、造形の豊かな表現力を身につける。					
授業概要					
対面授業 驚く程多様になりスピード化した現代生活の中で、独自の知識思考法を活かした表現を追求する。又、表現する上での基本的な知識の習得や制作に関わる技術の向上を図り、表現の可能性を試みる。					
受講上の注意					
次回の課題を予告するので、準備物を確認忘れず持参。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題と授業態度			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
洋画家、公益社団法人二科会・絵画部会友、認定 NPO 法人大阪府高齢者大学講師			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション		
2	鉛筆デッサン、トーンスケール、グラビアを使った描写。		
3	同上		
4	点描、顔の一部を描く、墨汁、竹串、鏡。		
5	同上		
6	鉛筆デッサン、二つの異なる形の紙コップを描く。		
7	同上		
8	鉛筆デッサン、折り鶴と小枝を描く。		
9	同上		
10	感情表現、喜怒哀楽に関わる言葉からイメージして自由制作 描画材表現自由		
11	同上		
12	鉛筆デッサン、白い布で包まれたものを描く。		

13	同上
14	合評 作品返却
15	合評 作品返却

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	戎谷 真木子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
基本的な描写を基に自由にイメージをして展開応用する事で、個性的な表現の可能性を追求する。現代における多様な画材や素材を研究工夫し、造形の豊かな表現力を身につける。					
授業概要					
対面授業 驚く程多様になりスピード化した現代生活の中で、独自の知識思考法を活かした表現を追求する。又、表現する上での基本的な知識の習得や制作に関わる技術の向上を図り、表現の可能性を試みる。					
受講上の注意					
次回の課題を予告するので、準備物を確認忘れず持参。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題と授業態度			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
洋画家、公益社団法人二科会・絵画部会友、認定 NPO 法人大阪府高齢者大学講師			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション		
2	鉛筆デッサン、トーンスケール、グラビアを使った描写。		
3	同上		
4	点描、顔の一部を描く、墨汁、竹串、鏡。		
5	同上		
6	鉛筆デッサン、二つの異なる形の紙コップを描く。		
7	同上		
8	鉛筆デッサン、折り鶴と小枝を描く。		
9	同上		
10	感情表現、喜怒哀楽に関わる言葉からイメージして自由制作 描画材表現自由		
11	同上		
12	鉛筆デッサン、白い布で包まれたものを描く。		

13	同上
14	合評 作品返却
15	合評 作品返却

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	中谷 昭雄				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

・デッサンは、radical(根源的)である、ことを知る。それは、|・好きに、自由に、やみくもにたくさん描くこと。つまり、|・自己の内側からの感覚、感情といった身体性である。また、|・具体的であるという、直接性でもある。もちろん|・表現をすることにおける、間主観性であることは言うまでもない。|

授業概要

・対面にて行う。|・「結果」とともに「プロセス」「隔たり」つまり「間」が重要になる。|・内容、形式としての“主題と副題”“部分と全体”“緊張と緩和”“強調と省略” “偶然と必然”といった問題など、|・デッサすることの徹底性による潜在性と差異化と微分化によってデッサンが、radical(根源的)である、ことを知る。|

受講上の注意

・デッサン＝絵を描くことをたくさんすること。|・そして描くためには、まず見ること、知ること(もちろんたくさん描くことによって、自然と身についていきますが)。|・その「プロセス」、「隔たり」つまり「間」を確認しましょう。|・授業の初めにレクチャーします。遅れないようにしてください。|・また課題、持参するものなど、忘れないようにしてください。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題(プロセス)	50
課題(結果)	30
課題(コミュニケーション)	20

教科書情報

教科書1	なし		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	随時配布		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
以下の【スケッチブック】は、必需です。： ミューズ 水彩紙 ホワイトワトソンブック F8 239g ホワイト 15 枚入り HW-2408 F8 以下の【鉛筆】は、推奨です。： ステッドラー 鉛筆 ルモグラフィ ブラック デッサン カーボン芯 4 硬度 6 本 100B G6			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション(デッサン=絵画について 評価基準について)		
2	グレースケールを使ってデッサンを模倣する (評価基準を設定する)		
3	絵画(カラー)のテクスチャーを模倣する(評価基準を設定する)		
4	絵画(カラー)を鉛筆で描く(評価基準を基に合評)		
5	モノクローム写真のテクスチャーを模倣する 合評		
6	モノクローム写真を鉛筆で描く 合評		
7	壁を描く(屋外スケッチ) 合評		

8	陰影を描く(屋外スケッチ)合評
9	光を描く(屋外スケッチ)合評
10	空を描く(屋外スケッチ)合評
11	暗闇を描く 合評
12	鏡を描く 合評
13	想像を描く 合評
14	デッサンの作品 合評
15	まとめと合評

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	中谷 昭雄				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

・デッサンは、radical(根源的)である、ことを知る。それは、|・好きに、自由に、やみくもにたくさん描くこと。つまり、|・自己の内側からの感覚、感情といった身体性である。また、|・具体的であるという、直接性でもある。もちろん|・表現をすることにおける、間主観性であることは言うまでもない。

授業概要

・対面にて行う。|・「結果」とともに「プロセス」「隔たり」つまり「間」が重要になる。|・内容、形式としての“主題と副題”“部分と全体”“緊張と緩和”“強調と省略” “偶然と必然”といった問題など、|・デッサすることの徹底性による潜在性と差異化と微分化によってデッサンが、radical(根源的)である、ことを知る。

受講上の注意

・デッサン＝絵を描くことをたくさんすること。|・そして描くためには、まず見ること、知ること(もちろんたくさん描くことによって、自然と身についていきますが)。|・その「プロセス」、「隔たり」つまり「間」を確認しましょう。|・授業の初めにレクチャーします。遅れないようにしてください。|・また課題、持参するものなど、忘れないようにしてください。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題(プロセス)	50
課題(結果)	30
課題(コミュニケーション)	20

教科書情報

教科書1	なし		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	随時配布		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
以下の【スケッチブック】は、必需です。： ミューズ 水彩紙 ホワイトワトソンブック F8 239g ホワイト 15 枚入り HW-2408 F8 以下の【鉛筆】は、推奨です。： ステッドラー 鉛筆 ルモグラフィ ブラック デッサン カーボン芯 4 硬度 6 本 100B G6			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション(デッサン=絵画について 評価基準について)		
2	グレースケールを使ってデッサンを模倣する (評価基準を設定する)		
3	絵画(カラー)のテクスチャーを模倣する(評価基準を設定する)		
4	絵画(カラー)を鉛筆で描く(評価基準を基に合評)		
5	モノクローム写真のテクスチャーを模倣する 合評		
6	モノクローム写真を鉛筆で描く 合評		
7	壁を描く(屋外スケッチ) 合評		

8	陰影を描く(屋外スケッチ)合評
9	光を描く(屋外スケッチ)合評
10	空を描く(屋外スケッチ)合評
11	暗闇を描く 合評
12	鏡を描く 合評
13	想像を描く 合評
14	デッサンの作品 合評
15	まとめと合評

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	中谷 昭雄				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

・デッサンは、radical(根源的)である、ことを知る。それは、|・好きに、自由に、やみくもにたくさん描くこと。つまり、|・自己の内側からの感覚、感情といった身体性である。また、|・具体的であるという、直接性でもある。もちろん|・表現をすることにおける、間主観性であることは言うまでもない。

授業概要

・対面にて行う。|・「結果」とともに「プロセス」「隔たり」つまり「間」が重要になる。|・内容、形式としての“主題と副題”“部分と全体”“緊張と緩和”“強調と省略” “偶然と必然”といった問題など、|・デッサすることの徹底性による潜在性と差異化と微分化によってデッサンが、radical(根源的)である、ことを知る。

受講上の注意

・デッサン＝絵を描くことをたくさんすること。|・そして描くためには、まず見ること、知ること(もちろんたくさん描くことによって、自然と身についていきますが)。|・その「プロセス」、「隔たり」つまり「間」を確認しましょう。|・授業の初めにレクチャーします。遅れないようにしてください。|・また課題、持参するものなど、忘れないようにしてください。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題(プロセス)	50
課題(結果)	30
課題(コミュニケーション)	20

教科書情報

教科書1	なし		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	随時配布		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
以下の【スケッチブック】は、必需です。： ミューズ 水彩紙 ホワイトワトソンブック F8 239g ホワイト 15 枚入り HW-2408 F8 以下の【鉛筆】は、推奨です。： ステッドラー 鉛筆 ルモグラフィ ブラック デッサン カーボン芯 4 硬度 6 本 100B G6			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション(デッサン=絵画について 評価基準について)		
2	グレースケールを使ってデッサンを模倣する (評価基準を設定する)		
3	絵画(カラー)のテクスチャーを模倣する(評価基準を設定する)		
4	絵画(カラー)を鉛筆で描く(評価基準を基に合評)		
5	モノクローム写真のテクスチャーを模倣する 合評		
6	モノクローム写真を鉛筆で描く 合評		
7	壁を描く(屋外スケッチ) 合評		

8	陰影を描く(屋外スケッチ)合評
9	光を描く(屋外スケッチ)合評
10	空を描く(屋外スケッチ)合評
11	暗闇を描く 合評
12	鏡を描く 合評
13	想像を描く 合評
14	デッサンの作品 合評
15	まとめと合評

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	中谷 昭雄				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

・デッサンは、radical(根源的)である、ことを知る。それは、|・好きに、自由に、やみくもにたくさん描くこと。つまり、|・自己の内側からの感覚、感情といった身体性である。また、|・具体的であるという、直接性でもある。もちろん|・表現をすることにおける、間主観性であることは言うまでもない。|

授業概要

・対面にて行う。|・「結果」とともに「プロセス」「隔たり」つまり「間」が重要になる。|・内容、形式としての“主題と副題”“部分と全体”“緊張と緩和”“強調と省略” “偶然と必然”といった問題など、|・デッサすることの徹底性による潜在性と差異化と微分化によってデッサンが、radical(根源的)である、ことを知る。|

受講上の注意

・デッサン＝絵を描くことをたくさんすること。|・そして描くためには、まず見ること、知ること(もちろんたくさん描くことによって、自然と身についていきますが)。|・その「プロセス」、「隔たり」つまり「間」を確認しましょう。|・授業の初めにレクチャーします。遅れないようにしてください。|・また課題、持参するものなど、忘れないようにしてください。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題(プロセス)	50
課題(結果)	30
課題(コミュニケーション)	20

教科書情報

教科書1	なし		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	随時配布		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
以下の【スケッチブック】は、必需です。： ミューズ 水彩紙 ホワイトワトソンブック F8 239g ホワイト 15 枚入り HW-2408 F8 以下の【鉛筆】は、推奨です。： ステッドラー 鉛筆 ルモグラフィ ブラック デッサン カーボン芯 4 硬度 6 本 100B G6			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション(デッサン=絵画について 評価基準について)		
2	グレースケールを使ってデッサンを模倣する (評価基準を設定する)		
3	絵画(カラー)のテクスチャーを模倣する(評価基準を設定する)		
4	絵画(カラー)を鉛筆で描く(評価基準を基に合評)		
5	モノクローム写真のテクスチャーを模倣する 合評		
6	モノクローム写真を鉛筆で描く 合評		
7	壁を描く(屋外スケッチ) 合評		

8	陰影を描く(屋外スケッチ)合評
9	光を描く(屋外スケッチ)合評
10	空を描く(屋外スケッチ)合評
11	暗闇を描く 合評
12	鏡を描く 合評
13	想像を描く 合評
14	デッサンの作品 合評
15	まとめと合評

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	小泉 里美				
クラス名	キャラクター造形学科クラス				
授業目的と到達目標					
作品制作に至る基礎的な要素の把握と展開 自己に適したデッサンの方法の認識					
授業概要					
【対面授業】 慣習的でパターン化した主体性のないデッサンでなく、自己の考えたこと、イメージを具体的に定着させる想像力～創造力への柔軟な力を養う。 眼前の事象をじっくりと観察することによって生じる思いがけない新たな発見や疑問、驚きといったものに積極的に関わり、その意味を自問する姿勢を期待したい。それぞれの造形分野での表現に至る思考や技術を、実験的な方法で探り、考えながら自己の表現の幅を広げる“思考”と“試行”の場にしてほしい。					
受講上の注意					
半期の授業であり、積極的で好奇心旺盛な制作姿勢で臨んでもらいたい。 授業中のスマートフォン視聴は禁止。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品及び制作姿勢			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
実務経験: 画家としての作品制作(絵画)や発表経験、大人から幼児まで対象とした絵画指導経験より授業を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【対面】 ガイダンス デッサンに関する全般的な解説と用具、材料などの説明		
2	【対面】 静物―「立方体と紙コップ」 形態の把握とコンポジション(構成)の在り方		
3	【対面】 静物―「立方体と紙コップ」 量感、質感、空間の把握などに重点を置く		
4	【対面】 静物―「立方体と紙コップ」 奥行、質感に注意し、存在感の表現・完成		
5	【対面】 屋外制作―「部屋、建物の角、隅を描く」 大きな対象(塊と空間)を捉える 立体把握の応用・空間の意識とその表現		
6	【対面】 屋外制作―「部屋、建物の角、隅を描く」 凹凸を取り巻く光と陰影を捉える 調子(面)による量感表現		
7	【対面】 5、6 の遅延の制作の仕上げ(各自選択) 仕上げ、完成のボーダーラインを考える		

8	【対面】 手を描くー「手の表情・三態」 各部分の間の秩序や質感などを捉える
9	【対面】 手を描くー「手の表情・三態」 形態や律動の原則 存在感への注目
10	【対面】 石膏レリーフ ー「自由に描いた線から立体に」 各自のイメージを重視 線を適当に黒く塗り つぶし、レリーフ(平らな面の凹凸)をイメージしてデッサン
11	【対面】 石膏レリーフ ー「自由に描いた線から立体に」 明暗、凹凸を意識する
12	【対面】 石膏レリーフ ー「自由に描いた線から立体に」 光の方向、凹凸、質感など完成に向けて制 作
13	【対面】 何を描くかー「言葉からのイメージを導く」 与えられた言葉から、課題を設定 言葉(例)「自然 と人工」「動きを描く」など
14	【対面】 何を描くかー「言葉からイメージを導く」 「作品」制作の感覚で、「何を・いかに表現するか」を 意識
15	【対面】 11～14 の遅延の仕上げ

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	小泉 里美				
クラス名	キャラクター造形学科クラス				

授業目的と到達目標

作品制作に至る基礎的な要素の把握と展開|自己に適したデッサンの方法の認識

授業概要

【対面授業】|慣習的でパターン化した主体性のないデッサンでなく、自己の考えたこと、イメージを具体的に定着させる想像力～創造力への柔軟な力を養う。|眼前の事象をじっくりと観察することによって生じる思いがけない新たな発見や疑問、驚きといったものに積極的に関わり、その意味を自問する姿勢を期待したい。それぞれの造形分野での表現に至る思考や技術を、実験的な方法で探り、考えながら自己の表現の幅を広げる“思考”と“試行”の場にしてほしい。

受講上の注意

半期の授業であり、積極的で好奇心旺盛な制作姿勢で臨んでもらいたい。|授業中のスマートフォン視聴は禁止。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品及び制作姿勢	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
実務経験: 画家としての作品制作(絵画)や発表経験、大人から幼児まで対象とした絵画指導経験より授業を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【対面】 ガイダンス デッサンに関する全般的な解説と用具、材料などの説明		
2	【対面】 静物―「立方体と紙コップ」 形態の把握とコンポジション(構成)の在り方		
3	【対面】 静物―「立方体と紙コップ」 量感、質感、空間の把握などに重点を置く		
4	【対面】 静物―「立方体と紙コップ」 奥行、質感に注意し、存在感の表現・完成		
5	【対面】 屋外制作―「部屋、建物の角、隅を描く」 大きな対象(塊と空間)を捉える 立体把握の応用・空間の意識とその表現		
6	【対面】 屋外制作―「部屋、建物の角、隅を描く」 凹凸を取り巻く光と陰影を捉える 調子(面)による量感表現		
7	【対面】 5、6 の遅延の制作の仕上げ(各自選択) 仕上げ、完成のボーダーラインを考える		

8	【対面】 手を描くー「手の表情・三態」 各部分の間の秩序や質感などを捉える
9	【対面】 手を描くー「手の表情・三態」 形態や律動の原則 存在感への注目
10	【対面】 石膏レリーフー「自由に描いた線から立体に」 各自のイメージを重視 線を適当に黒く塗り つぶし、レリーフ(平らな面の凹凸)をイメージしてデッサン
11	【対面】 石膏レリーフー「自由に描いた線から立体に」 明暗、凹凸を意識する
12	【対面】 石膏レリーフー「自由に描いた線から立体に」 光の方向、凹凸、質感など完成に向けて制 作
13	【対面】 何を描くかー「言葉からのイメージを導く」 与えられた言葉から、課題を設定 言葉(例)「自然 と人工」「動きを描く」など
14	【対面】 何を描くかー「言葉からイメージを導く」 「作品」制作の感覚で、「何を・いかに表現するか」を 意識
15	【対面】 11～14 の遅延の仕上げ

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	戎谷 真木子				
クラス名	キャラクター造形学科クラス				
授業目的と到達目標					
基本的な描写を基に自由にイメージをして展開応用する事で、個性的な表現の可能性を追求する。現代における多様な画材や素材を研究工夫し、造形の豊かな表現力を身につける。					
授業概要					
対面授業 驚く程多様になりスピード化した現代生活の中で、独自の知識思考法を活かした表現を追求する。又、表現する上での基本的な知識の習得や制作に関わる技術の向上を図り、表現の可能性を試みる。					
受講上の注意					
次回の課題を予告するので、準備物を確認忘れず持参。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題と授業態度			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
洋画家、公益社団法人二科会・絵画部会友、認定 NPO 法人大阪府高齢者大学講師			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション		
2	鉛筆デッサン、トーンスケール、グラビアを使った描写。		
3	同上		
4	点描、顔の一部を描く、墨汁、竹串、鏡。		
5	同上		
6	鉛筆デッサン、二つの異なる形の紙コップを描く。		
7	同上		
8	鉛筆デッサン、折り鶴と小枝を描く。		
9	同上		
10	感情表現、喜怒哀楽に関わる言葉からイメージして自由制作 描画材表現自由		
11	同上		
12	鉛筆デッサン、白い布で包まれたものを描く。		

13	同上
14	合評 作品返却
15	合評 作品返却

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	戎谷 真木子				
クラス名	キャラクター造形学科クラス				
授業目的と到達目標					
基本的な描写を基に自由にイメージをして展開応用する事で、個性的な表現の可能性を追求する。現代における多様な画材や素材を研究工夫し、造形の豊かな表現力を身につける。					
授業概要					
対面授業 驚く程多様になりスピード化した現代生活の中で、独自の知識思考法を活かした表現を追求する。又、表現する上での基本的な知識の習得や制作に関わる技術の向上を図り、表現の可能性を試みる。					
受講上の注意					
今回の課題を予告するので、準備物を確認忘れず持参。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題と授業態度			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
洋画家、公益社団法人二科会・絵画部会友、認定 NPO 法人大阪府高齢者大学講師			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション		
2	鉛筆デッサン、トーンスケール、グラビアを使った描写。		
3	同上		
4	点描、顔の一部を描く、墨汁、竹串、鏡。		
5	同上		
6	鉛筆デッサン、二つの異なる形の紙コップを描く。		
7	同上		
8	鉛筆デッサン、折り鶴と小枝を描く。		
9	同上		
10	感情表現、喜怒哀楽に関わる言葉からイメージして自由制作 描画材表現自由		
11	同上		
12	鉛筆デッサン、白い布で包まれたものを描く。		

13	同上
14	合評 作品返却
15	合評 作品返却

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	谷口 貞久				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
【対面授業】基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン（ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン）を行います。					
受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合（％）		
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
子供絵画教室・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 (公社)二科会 会員 (社)日本美術家連盟 会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11 段階グレースケール枠作成		
2	課題1:基礎デッサン1(1 回目) 「グレースケール制作・手のデッサン」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方		
3	課題1:基礎デッサン1(2 回目)		
4	課題2:基礎デッサン2(1 回目) 「色鉛筆デッサン(組モチーフ)…玉ねぎ・紙コップ」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方		
5	課題2:基礎デッサン2(2 回目)		
6	課題3:遠近法基礎 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け		
7	課題4:遠近法応用(1 回目) 「構造物デッサン(校内)」 構造物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影		
8	課題4:遠近法応用(2 回目)		
9	課題4:遠近法応用(3 回目)		

10	課題4:遠近法応用(4回目)
11	課題5:想定デッサン(1回目) 「構造物を利用したシュールレアリスムの作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題5:想定デッサン(2回目)
13	課題5:想定デッサン(3回目)
14	課題5:想定デッサン(4回目)
15	課題5:想定デッサン(5回目)

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	谷口 貞久				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
【対面授業】基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン（ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン）を行います。					
受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合（％）		
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
子供絵画教室・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 (公社)二科会 会員 (社)日本美術家連盟 会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11 段階グレースケール枠作成		
2	課題1:基礎デッサン1(1 回目) 「グレースケール制作・手のデッサン」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方		
3	課題1:基礎デッサン1(2 回目)		
4	課題2:基礎デッサン2(1 回目) 「色鉛筆デッサン(組モチーフ)…玉ねぎ・紙コップ」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方		
5	課題2:基礎デッサン2(2 回目)		
6	課題3:遠近法基礎 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け		
7	課題4:遠近法応用(1 回目) 「構造物デッサン(校内)」 構造物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影		
8	課題4:遠近法応用(2 回目)		
9	課題4:遠近法応用(3 回目)		

10	課題4:遠近法応用(4回目)
11	課題5:想定デッサン(1回目) 「構造物を利用したシュールレアリスムの作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題5:想定デッサン(2回目)
13	課題5:想定デッサン(3回目)
14	課題5:想定デッサン(4回目)
15	課題5:想定デッサン(5回目)

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	谷口 貞久				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
【対面授業】基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン（ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン）を行います。					
受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合（％）		
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
子供絵画教室・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 (公社)二科会 会員 (社)日本美術家連盟 会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11 段階グレースケール枠作成		
2	課題1:基礎デッサン1(1 回目) 「グレースケール制作・手のデッサン」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方		
3	課題1:基礎デッサン1(2 回目)		
4	課題2:基礎デッサン2(1 回目) 「色鉛筆デッサン(組モチーフ)…玉ねぎ・紙コップ」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方		
5	課題2:基礎デッサン2(2 回目)		
6	課題3:遠近法基礎 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け		
7	課題4:遠近法応用(1 回目) 「構造物デッサン(校内)」 構造物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影		
8	課題4:遠近法応用(2 回目)		
9	課題4:遠近法応用(3 回目)		

10	課題4:遠近法応用(4回目)
11	課題5:想定デッサン(1回目) 「構造物を利用したシュールレアリスムの作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題5:想定デッサン(2回目)
13	課題5:想定デッサン(3回目)
14	課題5:想定デッサン(4回目)
15	課題5:想定デッサン(5回目)

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	谷口 貞久				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
【対面授業】基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン（ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン）を行います。					
受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合（％）		
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
子供絵画教室・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 (公社)二科会 会員 (社)日本美術家連盟 会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11 段階グレースケール枠作成		
2	課題1:基礎デッサン1(1 回目) 「グレースケール制作・手のデッサン」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方		
3	課題1:基礎デッサン1(2 回目)		
4	課題2:基礎デッサン2(1 回目) 「色鉛筆デッサン(組モチーフ)…玉ねぎ・紙コップ」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方		
5	課題2:基礎デッサン2(2 回目)		
6	課題3:遠近法基礎 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け		
7	課題4:遠近法応用(1 回目) 「構造物デッサン(校内)」 構造物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影		
8	課題4:遠近法応用(2 回目)		
9	課題4:遠近法応用(3 回目)		

10	課題4:遠近法応用(4回目)
11	課題5:想定デッサン(1回目) 「構造物を利用したシュールレアリスムの作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題5:想定デッサン(2回目)
13	課題5:想定デッサン(3回目)
14	課題5:想定デッサン(4回目)
15	課題5:想定デッサン(5回目)

科目名	彫刻概論	年次	0	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	笹谷 純雄				
クラス名					

授業目的と到達目標

人類は何万年も昔の旧石器時代から、今日では彫刻と呼ばれる立体的な造形物を作り続けてきた。人はなぜ彫刻をつくるのか。何のために彫刻をつくるのか。彫刻をつくるという活動はどのような意味や目的をもっているのだろうか。| 彫刻をつくる意味や目的はただ一つとは限らない。彫刻は、それが作られる時代によって、場所によって、状況によって、様々な意味や目的をもっている。古代と現代では異なるし、現代であっても、寺院で礼拝される神像や仏像と、展覧会に展示されて不特定多数の人々が美的に鑑賞する彫刻作品とは自ずから異なる。| 彫刻はまた単に作られてそれで終わりというわけではない。彫刻にはそれを見る人々がいる。彫刻を見るとはどういうことなのか。彫刻をつくる意味や目的が様々であるように、彫刻を見る意味や目的もまた様々である。彫刻を信仰の対象として礼拝する人もいれば、芸術作品として美的に鑑賞する人もいる。さらには、商品として売買の対象、ときには投機の対象と考える人もいる。彫刻を見るということとはどういうことなのだろうか。| 彫刻をめぐるこうした様々な問題について考察し、彫刻についての理解を深める。

授業概要

対面授業| 人類は旧石器時代から絶え間なく彫刻をつくり続けてきたが、彫刻とはそもそも何なのだろうか。| 彫刻は他のもの、たとえば絵画とはどこが違うのだろうか。あるいはどこが同じなのだろうか。彫刻とは何か、彫刻の本質とは何かという根本的な問題が、単に理論の上だけでなく、彫刻制作の現場で真剣に取り上げられたのは 19 世紀になってから、おそらくロダンの登場以後のことである。| それまでは、彫刻とはこういうものであるという伝統的な、暗黙の了解が作る側にも見る側にもあった。ところが、ロダンが作る彫刻は、それまで彫刻と思われていたものとは非常に違っていた。これまでならば、そんなものは彫刻ではないと黙殺されたかもしれない。しかし当時の人々はそれまでの彫刻に退屈していた。新しい刺激、新しい彫刻が求められていた。そんなときにロダンが登場した。ロダンの作品はスキャンダルを巻き起こした。ロダンを肯定する立場とロダンを否定する立場が鮮明に分かれた。そして、ロダンを支持する陣営は、それまでの彫刻とは異なるロダン彫刻の独自性を強調し、ロダンの彫刻こそが彫刻の本来あるべき姿であると主張した。そのような主張は、全面的ではないにしても、ある程度一般に認められるところとなった。そして、ロダン以後、ロダン彫刻を肯定するにせよ否定するにせよ、彫刻を志す才能のある野心的な若い作家たちは、ただ漫然と彫刻らしきものを作っているだけでは済まなくなった。彼らは彫刻とは何かを、彫刻はどうあるべきかという自らの彫刻観を、実際の彫刻制作によって模索し探求したのである。| 授業では主としてロダン以後の近代彫刻を取り上げ、彫刻作品はもちろんのこと、彫刻家たち自身の様々な言説を踏まえながら、彫刻をめぐる様々な問題について論じてゆく。

受講上の注意

成績評価方法・基準			
種別		割合(%)	
レポート		50	
平常点		50	
教科書情報			
教科書1	教科書は使用しません。必要に応じて授業中に資料を配布します。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	参考図書と参考資料は授業中に随時紹介します。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	はじめに。 授業目的と授業内容を授業シラバスにもとづいて詳しく説明する。
2	「彫刻とは何か」(その1) 彫刻をほかの美術(絵画、建築、工芸)と比較し、共通点と相違点について考え、彫刻の独自性について考察する。さらに彫刻のもつ社会的役割についても考える。
3	前回の続き。「彫刻とは何か」(その2) 彫刻家たち自身が書いた文章を読みながら、彫刻とは何か、彫刻制作とは何か、を考える。
4	前回の続き。「彫刻とは何か」(その3)
5	「オーギュスト・ロダンの生涯と作品」(その1) オーギュスト・ロダンはミケランジェロと並んで、おそらく最も有名な西洋人彫刻家であろう。実際、ロダンの登場によって、彫刻に対する考え方そのものが大きく変化したと言える。ロダンの彫刻とはどのようなものなのか、ロダン以前の彫刻とはどこが違うのか、ロダンが生きた時代状況と関連させながら、じっくりと考える。
6	前回の続き。「ロダンの生涯と作品」(その2)
7	前回の続き。「ロダンの生涯と作品」(その3)
8	前回の続き。「ロダンの生涯と作品」(その4)
9	前回の続き。「ロダンの生涯と作品」(その5)
10	「メダルド・ロッソの生涯と作品」(その1) ロッソはロダンとほぼ同時代を生きたイタリア人彫刻家である。ロッソはロダンほど知られていないが、その作品は同時代にあっては抜きん出て独特である。ロッソの独創的な彫刻は彫刻制作のあらたな可能性を開いただけでなく、「彫刻とは何か」という理論的な問題についても、独自の視点を提供してくれる。
11	前回の続き。「ロッソの生涯と作品」(その2)
12	「コンスタンチン・ブランクーシの生涯と作品」(その1) コンスタンチン・ブランクーシはロダン以後の西洋彫刻において最も重要な彫刻家である。20世紀に入り、西洋の彫刻は素材、技法、形態、テーマのいずれにおいても、従来の彫刻という概念では到底とらえられないほどに多様化した。そのような現代彫刻の最も重要な先駆者、牽引者がブランクーシである。ブランクーシが西洋彫刻の展開において果たした役割は、ロダンのそれに決して劣ることはない。ブランクーシについて語ることは、ロダンについて語ること以上に、「彫刻とは何か」と
13	前回の続き。「ブランクーシの生涯と作品」(その2)
14	前回の続き。「ブランクーシの生涯と作品」(その3)
15	授業を振り返り、「彫刻とは何か」についてあらためて考える。

科目名	彫刻実習 I		年次	1	単位数	3
授業期間	2022 年度 前期		形態	実習		
教員名	本多 紀朗、藤木 康成					
クラス名						
授業目的と到達目標						
身近な自然物の観察を通じて塑像による立体表現を身に付けると共に石膏成型の基礎を習得させる。 対象である自然物の構造を的確に把握し、造形性豊かな塑像表現ができたかどうか。						
授業概要						
対面授業 モデルのデッサン(2 方向)より芯棒作りを行い構築性のある造形表現を行う。 量感、バランス、面などを意識し、内より外へ向かう強いモデリング表現を行う。 石膏成型のの手順、特性を理解し、作品へと向かう姿勢を学ぶ。 彫刻家が彫刻制作の基礎となる塑像表現と石膏成型を丁寧に指導する。						
受講上の注意						
粘土、石膏等を使うので、作業衣を準備する。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
作品の提出と完成度。取り組む姿勢				100		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
長年にわたる彫刻作家の経験、実践をもとに、彫刻への興味関心を一層深めるように丁寧に指導。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1)オリエンテーション。モデルのデッサン。粘土の準備。 2) 芯棒造り。粘土練り。粘土の肉付け開始。 3) 粘土の肉付け(2) 4) 粘土の肉付け(3)完成 5) 石膏成型(切り金刺し、凹型造り。 6) 凹型の完成。粘土の抜き出し。 7) 凹型に石膏、スタンプ張り。凹型の型合わせ。 8) 割り出し、修整。完成。		

科目名	彫刻実習 I		年次	1	単位数	3
授業期間	2022 年度 後期		形態	実習		
教員名	本多 紀朗、藤木 康成					
クラス名						
授業目的と到達目標						
身近な自然物の観察を通じて塑像による立体表現を身に付けると共に石膏成型の基礎を習得させる。 対象である自然物の構造を的確に把握し、造形性豊かな塑像表現ができたかどうか。						
授業概要						
対面授業 デッサンより芯棒作りを行い構築性のある造形表現を行う。 量感、バランス、面などを意識し、内より外へ向かう強いモデリング表現を行う。 石膏成型のの手順、特性を理解し、作品へと向かう姿勢を学ぶ。						
受講上の注意						
粘土、石膏を扱うので、必ず作業衣を準備する。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
作品の提出と完成度。取り組む姿勢。				100		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
長年にわたる彫刻作家の経験と実践をもとに、彫刻への興味関心を一層深めるように丁寧に指導。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1)オリエンテーション。デッサン。芯棒造り。粘土の準備。 2) 芯棒の完成。粘土練り。粘土の肉付け(1) 3) 粘土の肉付け(2) 4) 粘土の肉付け(3)完成 5) 石膏成型(切り金刺し、凹型造り) 6) 凹型の完成。粘土抜き。 7) 凹型に石膏、スタンプ張り、型合わせ。 8) 割り出し。修整。(完成)		

科目名	彫刻実習 I		年次	1	単位数	3
授業期間	2022 年度 後期		形態	実習		
教員名	本多 紀朗、藤木 康成					
クラス名						
授業目的と到達目標						
身近な自然物の観察を通じて塑像による立体表現を身に付けると共に石膏成型の基礎を習得させる。 対象である自然物の構造を的確に把握し、造形性豊かな塑像表現ができたかどうか。						
授業概要						
対面授業 デッサンより芯棒作りを行い構築性のある造形表現を行う。 量感、バランス、面などを意識し、内より外へ向かう強いモデリング表現を行う。 石膏成型のの手順、特性を理解し、作品へと向かう姿勢を学ぶ。						
受講上の注意						
粘土、石膏を扱うので、必ず作業衣を準備する。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
作品の提出と完成度。取り組む姿勢。						
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
長年にわたる彫刻作家の経験、実践をもとに、彫刻への興味関心を深めるように丁寧に指導。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1)オリエンテーション。デッサン。芯棒造り。粘土の準備。 2) 芯棒の完成。粘土練り。粘土の肉付け(1) 3) 粘土の肉付け(2) 4) 粘土の肉付け(3)完成 5) 石膏成型(切り金刺し、凹型造り) 6) 凹型の完成。粘土抜き。 7) 凹型に石膏、スタップ張り、型合わせ。 8) 割り出し。修整。(完成)		

科目名	彫刻実習 I		年次	1	単位数	3
授業期間	2022 年度 前期		形態	実習		
教員名	本多 紀朗、藤木 康成					
クラス名						
授業目的と到達目標						
身近な自然物の観察を通じて塑像による立体表現を身につけるとともに石膏成型の基礎を習得させる。 対象である自然物の構造を的確に把握し、造形性豊かな塑像表現ができたかどうか。						
授業概要						
対面授業 デッサンより芯棒造りを行い構築性のある造形表現を行う。 量感、バランス、面などを意識し、内より外へ向かう強いモデリング表現を行う。 石膏成型のの手順、特性を理解し、作品へと向かう姿勢を学ぶ。						
受講上の注意						
粘土、石膏を扱うので作業衣を準備する。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
作品の提出と完成度。取り組む姿勢。				100		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
長年にわたる彫刻作家の経験、実践をもとに彫刻への興味関心を一層深めるように丁寧に指導。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1)オリエンテーション。デッサン。芯棒造り。粘土の準備。 2) 芯棒の完成。粘土練り。粘土の肉付け開始。(1) 3) 粘土の肉付け。(2) 4) 粘土の肉つけ。(3)完成 5) 石膏成型(切り金刺し、凹型造り) 6) 凹型の完成。粘土の抜き取り。 7) 凹型に石膏、スタップ張り、型合わせ。 8) 割り出し、修整。(完成)		

科目名	デザイン	年次	3	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	村山 利幸				
クラス名	60402 デザイン				

授業目的と到達目標

・社会の中でのデザインの役割を理解し、基礎となる平面構成・色彩構成及び視覚伝達の方法を、課題を通じて学習|・また、デザイン実例の課題制作(ブックデザイン・ブランディングデザインなど)にて、発想を伝えるためのデザイン表現を考え、学習|

授業概要

課題は具体的にブックデザイン・企業・商品のブランディング・演出を考え、作成していきます。|その中にあるグラフィックの要素であるロゴマークやタイポグラフィ、パッケージアイデア、広告アイデアなどをラフスケッチから制作。|デザインの役割である伝える・効果的に表現するを習得する。|

受講上の注意

それぞれの課題のブックデザイン・ポスターデザインなどの|これまでに発表された表現事例を調べ、事前に観察して、そのデザインの目的を考察すること|デザイン制作はスケッチにて作成、および、コンピューターのアプリを使用して作成|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
ビジュアル表現、技術力	50
プレゼンテーション	20
課題への取り組み、受講姿勢	30

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
グラフィックデザイナー、デザイン事務所主宰・(社)日本グラフィックデザイナー協会会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【対面】 デザインの役割を説明 課題 1-説明 ◎ブック・デザイン演習 制作		
2	◎ブック・デザイン表紙-1 既に出版されている本の表紙のリ・デザイン ・アイデアラフ作成		
3	◎ブック・デザイン表紙-2 既に出版されている本の表紙のリ・デザイン ・アイデアラフ提出 チェック ・タイトルデザイン タイポグラフィー作成		
4	◎ブック・デザイン表紙-3 既に出版されている本の表紙のリ・デザイン ストーリーに基づき 表紙ビジュアル作成-1		
5	◎ブック・デザイン表紙-4 既に出版されている本の表紙のリ・デザイン 表紙ビジュアル作成-2		
6	◎ブック・デザイン表紙-5 既に出版されている本の表紙のリ・デザイン デザイン 完成 作成の本の 広告をポスターに制作		
7	◎ブック・デザイン表紙-6 既に出版されている本の表紙のリ・デザイン 広告ポスター制作		

8	◎ブック・デザイン表紙-7 既に出版されている本の表紙のリ・デザイン 提出 プレゼンテーション 合評
9	課題-2 ◎平面構成-1 タングラム。タングラムのパーツを作成、使用し図案の制作
10	課題-3 ◎平面構成-2 ユニットによる構成 ●作成
11	◎平面構成-3 ユニットによる構成 ●作成～
12	課題-4 ◎平面構成-4 面の分割・構成 ●作成～
13	◎平面構成-5 面の分割・構成 ●作成～
14	◎平面構成-6 面の分割・構成 ●作成～
15	◎平面構成-7 面の分割・構成 ●作成～完成
16	課題-5 ◎文字のデザイン-1 伝えるために生まれた文字のデザイン 意味やイメージから効果的に 伝わる文字のデザインを作成 文字のデザインカレンダーを作成する
17	◎文字のデザイン-2 文字のデザインカレンダーを作成 ●作成～
18	◎文字のデザイン-3 文字のデザインカレンダーを作成 ●作成～
19	◎文字のデザイン-4 文字のデザインカレンダーを作成 ●作成～
20	◎文字のデザイン-5 文字のデザインカレンダーを作成 ●作成～完成
21	課題-6 ◎ブランディング・デザイン-1 ・ネーミング ・ロゴタイプ マーク ・パッケージデザイン ・広告 ・ 販促ツール それぞれのデザインをコンセプトに基づいて展開 制作
22	◎ブランディング・デザイン-2 それぞれのデザインをコンセプトに基づいて展開 制作 ●作成～
23	◎ブランディング・デザイン-3 それぞれのデザインをコンセプトに基づいて展開 制作 ●作成～
24	◎ブランディング・デザイン-4 それぞれのデザインをコンセプトに基づいて展開 制作 ●作成～
25	◎ブランディング・デザイン-5 それぞれのデザインをコンセプトに基づいて展開 制作 ●作成～
26	◎ブランディング・デザイン-6 それぞれのデザインをコンセプトに基づいて展開 制作 ●完成
27	課題-7 ◎広告ポスターデザイン作成-1 自分自身をテーマにポスター表現する ●作成～
28	◎広告ポスターデザイン作成-2 自分自身をテーマにポスター表現する ●作成～
29	◎広告ポスターデザイン作成-3 自分自身をテーマにポスター表現する ●作成～
30	◎広告ポスターデザイン作成-4 自分自身をテーマにポスター表現する ●作成～

科目名	デザイン史	年次	0	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					

授業目的と到達目標

近代から現代までのデザインの変遷を概観する。デザインを、新たに強く問題化したり、大きく変容させたり、加速して前進させたり、逆行もしくは反復した歴史的に重要な事例を、リプレイしてゆく。それはまた、デザインという視点から、技術・メディア・社会・文化・精神等の史の変容を辿る試みともなる。そうしたデザインの歴史や、デザインと歴史との関係について、基礎的な理解を得ること。また、デザインへの批評眼や理論の体得が、目標となる。

授業概要

【対面授業】デザインとは何かについて、まず(再)問題提起を行う。そして、近代という時代性のなかで、デザインが重要な問題として浮上してきた経緯を確認する。その後、それがどのような曲折を経つつ、進展していったかを現代までフォロー。最後に、近代とポスト近代の双方の事後的ステージに入った現代において、デザインがいかなる新たな変質と可能性を示しつつあるかを考察する。以上を、図版や映像資料を適宜活用しながら、進めてゆく。

受講上の注意

明るく楽しく元気に受講して下さい。授業内のみで「学習」を受動的に完結させるのではなく、自ら積極的に「学外」(本、図版、モノ、インターネット、まち、等々)へアクセスして、自己を活性化させてゆくこと。なお、授業への理解を深めるために、世界史の基礎知識をメンテナンスすることも必要とされる。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
期末テスト(筆記)	80
平常点	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	

教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	世界デザイン史		
出版社名	美術出版社	著者名	阿部公正ほか
参考書名2	デザイン史入門		
出版社名	晃洋書房	著者名	T. ハウフェ著 藪亨訳
参考書名3	デザインの小さな哲学		
出版社名	鹿島出版会	著者名	V.フルッサー著 瀧本雅志訳
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	「イントロダクション:デザインとは何か?」:「デザイン」とは何かについて、デザイン史やデザイン論の主要な著書をいくつか紹介しながら、(再)問題提起してゆく。この問いの「解答」を固定的に示すのではなく、「デザイン」が実に重要な「近代」の「問題」となって登場することをまずは確認してみたい。アートとデザインの違い(の有無)についても、考察する。		
2	「近代デザイン前史」:産業化の勃興以前に、「デザイン」という問題意識は存在したかどうかを考察する。フランス革命前のファッション、シェーカー派の家具、ウェッジウッドの陶器等が、その中心として検討される。		

3	「産業革命と万国博覧会」: 技術の発達、いかに産業に応用され、それがデザインの生産や流通や消費条件を大きく変えていったかを振り返る。また、デザインの展示という概念を加速させた万国博覧会の 19 世紀における意義を、パッサージュやデパートの空間デザインとあわせて捉えてゆく。
4	「ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動」: ウィリアム・モリスを中心に、そこから、ひとつの近代運動としてのデザイン活動がテイクオフしていった意義を顧みる。また、モリスによる壁紙・ステンドグラス・家具・金工・書物等について具体的に検討する。
5	「マッキントッシュとグラスゴー派」: アーツ・アンド・クラフツ運動が唯美化したグラスゴー派のデザインを取り上げる。とりわけ、特異な才能を発揮したマッキントッシュの作品にスポットをあて。彼に見られるモダニズムの徴候についても確認を行う。
6	「アール・ヌーヴォー①」: 19 世紀末のヨーロッパに登場したアール・ヌーヴォーの全体像をまずは捉える。続けて、ブリュッセル、パリにおけるその具体例を概観してゆく。注目される固有名は、アンリ・ヴァン・ド・ヴェルド、エクトール・ギマール、ミュシャ、ルネ・ラリック等。ボナールら、美術史との交錯にも目を向ける。
7	「アール・ヌーヴォー②」: フランスのナンシー、イギリス、アメリカに登場したアール・ヌーヴォーを検討する。とりわけ重要性をもつ人物は、オーブリ・ビアズリー、エミール・ガレ、ティファニー等となるだろう。
8	「ユーゲント・シュティルとダルムシュタット芸術家村」: アール・ヌーヴォーと同時期にドイツに現れた新傾向(ドイツでのアール・ヌーヴォー)について見てゆく。雑誌では、『パン』や『ユーゲント』の意義、またユートピア的なデザイン活動が実践されたダルムシュタット芸術家コロニーの可能性を検討する。
9	「ウィーン分離派とウィーン工房」: 過去の様式からの訣別＝分離を宣言し、1897 年にウィーンでクリムトを中心に結成された分離派の活動を振り返る。また、オットー・ヴァグナーの建築、ヨーゼフ・ホフマンとコロマン・モーザーが主導したウィーン工房の製品を検討する。さらには、『装飾と犯罪』等の文章で、強烈な装飾批判を展開したアドルフ・ロースにも注目してゆく。
10	「モダニズム建築の先駆者たちとドイツ工作連盟」: 帝国ホテルや芦屋川の旧・山邑邸などで、日本とも馴染みの深いアメリカ人建築家フランク・ロイド・ライトに見られる早初のモダニズムのベクトルを検討する。また、近代運動としてのデザインを、より産業生産へ適合させる改革を進めた活動のひとつであるドイツ工作連盟について見てゆく。
11	「バウハウス①」: トータルな近代デザインの学校にして、その最大の実験場ともなったバウハウスは、1919 年にワイマールに創立された。その設立当初の状況や意図、実際の運営プログラムはどうであったかに注目する。
12	「バウハウス②」: デッサウに移転した 1925 年以降の第 2 期、1932 年～33 年のベルリンでの第 3 期で、バウハウスがどう変容していったかを、具体的なデザインの成果を見ながら考察する。また、アメリカでのその活動の継続や、戦後のウルム造形大学についても概説する。

13	「デ・ステイル／表現主義／アール・デコ」: デ・ステイルは、1917～31 年にかけてオランダのドゥースブルフが刊行した雑誌名、及びそれに関わった人物たちのグループ。モンドリアンやファン・デル・レックの抽象絵画との関わりや、リートフェルトの家具や建築についても理解の端緒を開く。
14	「ロシア・アヴァンギャルドとデザイン」: 革命前後のロシアの前衛運動について、生活変革のためのデザインという視点から、その結果的な挫折に至るまでを辿ってゆく。ロシア構成主義のみならず、絶対主義の非デザインについても、その思想に触れてゆく。
15	「アール・デコ」: アール・デコとは、1925 年にパリで開かれた博覧会に顕著な装飾スタイルをいう。アール・ヌーヴォーとの違いに注目しながら、それらが 1920 年代のデザインでいかなる意味を持ったかを、ル・コルビュジエの言説や表現主義とも比較しながら、振り返る。
16	「印刷メディアとグラフィック・デザインの進展」: 左記の問題について、グーテンベルクの活版印刷術以降の変遷を概観しながら、特に 19 世紀末から第一次大戦前までのベル・エポック期の成果に焦点を当てる。
17	「前期の内容のまとめ＋前期の復習テスト」: 後期 2 週目にあたるこの回の授業では、前期の内容を確認し、またあわせて、後期 3 週目以降の授業につなげるためのテストを行う。
18	「インダストリアル・デザイナーの登場とスタイリング」: インダストリアル・デザインという概念が最初に浮上してくる当時のアメリカのデザイン状況を顧みる。考察されるのは、摩天楼、流線型、メトロポリス、オーガニック・デザイン、レイモンド・ローウィ等。
19	「インターナショナル・スタイルと MoMA」: 1929 年に開館し、絵画や彫刻のみならず、写真や映画、ひいては建築や製品のデザインまでもいち早くその対象とした NY 近代美術館の功罪を探る。とりわけ、1932 年に開催された「近代建築: 国際展」により、いかに近代運動としての建築が、デザインやスタイルの問題に変換されたかを再考する。
20	「50～60 年代イタリアとドイツのデザイン」: 第二次大戦による荒廃にも関わらず、またたく間にデザイン大国となったイタリアの戦後 20 年を検討する。また、やはり敗戦国であるドイツのデザイン面における復興を、1940 年代末以降の「グーテ・フォルム」の概念や 1953 年に開学したウルム造形大学に焦点を当てつつ考察する。
21	「アメリカ的生活様式とカリフォルニア・モダン」: 50 年代アメリカの家庭の豊かさを演出した諸デザインを見てゆく。また、特にその注目すべき例として、西海岸で展開されたモダニズムの地方変形版としてのカリフォルニア・デザインにスポットをあてる。これについては、イームズ夫妻、ケーススタディ・ハウスの住宅を中心に触れてゆく。また、イームズの映像作品の上映も予定している。
22	「スウィング・ロンドン」: 60 年代、ロンドンで大衆的なユースカルチャーが爆発する。ストリート主導のファッションは、モードの都パリさえをもリードする勢いを見せる。マリー・クワントのミニスカート、トゥイギー、美容師をヘアデザイナーへ昇格させたヴィダル・サスーン等のデザインに触れる。また、1950 年代半ば以降のロンドンでのポップアートが、この時代にどうつながったかも再検証する。

23	「60 年代のパリ・ファッション」: スウィング・ロンドンの攻勢に対し、パリのファッションはどのような新たな動きを見せたか。クレージュ、イヴ・サンローラン、ピエール・カルダンを中心に、パリ・モードの変革の方向性をトレースする。
24	「60 年代のサウンドデザイン」: 60 年代半ば以降、ポップミュージックの新たな可能性が、録音される楽曲のサウンドデザインというかたちで大いに探求されるようになる。それに先立つ現代音楽の空間意識、マーティン・デニーのサウンドスケープ、フィル・スペクターの音の壁を検証。そして 60 年代に至ってのビーチボーイズの「ペット・サウンズ」や、ビートルズの「Sgt ペッパーズ」等の意義を確認する。
25	「アンビルトとグラフィック・デザインとしての建築」: 建築家の設計＝デザイン活動は、建物を現実に建てることだけにあるのではない。むしろ、グラフィックやイメージや情報のデザインとしての建築こそが、未来へ向けた都市や建築の自由なビジョンを提示する。そうした考えのアンビルトの思想が、60 年代に活発化する。アーキグラム、ロバート・ヴェンチュリ、メタボリズム、スーパーグラフィックス等のデザインを振り返る。
26	「BIBA とクラシカル・エレガンス」: 近代のキーワードは、「進化」や「進歩」や「新しさ」だったはずだ。しかし、60 年代後半、過去をノスタルジックに振り返ることが「新しさ」となる逆説が、大衆的なレベルでファッションや映画等に生じてくる。そうした転回について、主にロンドンの伝説的なブランド BIBA のデザインを顧みながら、考察する。
27	「アンチ・デザイン」: 70 年代には、慣例的なグッド・デザインや良き趣味を嫌うアンチ・デザインが、パンクミュージックともクロスしつつ台頭する。また、90 年代前半には、汚いブアなデザインとしての「グランジ」も注目される。それらの効果を、音楽も参照しながら検討してゆく。
28	「北欧デザインの可能性」: デンマーク、フィンランド、スウェーデンのデザインの魅力に触れる。アルネ・ヤコブセン、アールト、マリメッコをはじめとするデザインと、それを成立させた条件について考える。
29	「70 年代以降の建築デザイン」: 70 年代になると建築では、モダニズムのデザインに意図的・戦略的に抗うポストモダンのデザインが隆盛を極めてゆく。歴史的引用、多様で表層的な装飾、イメージの過剰さに走るそれらのデザインの特徴を確認するとともに、それ以降の脱構築のデザインや襷建築、ライト・コンストラクションについても考察してゆく。
30	「グローバリゼーション下の新たなデザイン概念」: グローバルなデジタル情報資本主義の現代に、デザインはいかなる概念や営みに変質してきているのか？ デザインのこれからの可能性も考えるべく、ブルース・マウやレム・コールハースといった新しいタイプのデザイナーの活動をケーススタディする。また、アイコン建築やビルバオ・エフェクト、BIMについても見てゆく。

科目名	デザイン史	年次	0	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					

授業目的と到達目標

近代から現代までのデザインの変遷を概観する。デザインを、新たに強く問題化したり、大きく変容させたり、加速して前進させたり、逆行もしくは反復した歴史的に重要な事例を、リプレイしてゆく。それはまた、デザインという視点から、技術・メディア・社会・文化・精神等の史変容を辿る試みともなる。そうしたデザインの歴史や、デザインと歴史との関係について、基礎的な理解を得ること。また、デザインへの批評眼や理論の体得が、目標となる。

授業概要

【対面授業】デザインとは何かについて、まず(再)問題提起を行う。そして、近代という時代性のなかで、デザインが重要な問題として浮上してきた経緯を確認する。その後、それがどのような曲折を経つつ、進展していったかを現代までフォロー。最後に、近代とポスト近代の双方の事後的ステージに入った現代において、デザインがいかなる新たな変質と可能性を示しつつあるかを考察する。以上を、図版や映像資料を適宜活用しながら、進めてゆく。

受講上の注意

明るく楽しく元気に受講して下さい。授業内のみで「学習」を受動的に完結させるのではなく、自ら積極的に「学外」(本、図版、モノ、インターネット、まち、等々)へアクセスして、自己を活性化させてゆくこと。なお、授業への理解を深めるために、世界史の基礎知識をメンテナンスすることも必要とされる。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
期末テスト(筆記)	80
平常点	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	

教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	世界デザイン史		
出版社名	美術出版社	著者名	阿部公正ほか
参考書名2	デザイン史入門		
出版社名	晃洋書房	著者名	T. ハウフェ著 藪亨訳
参考書名3	デザインの小さな哲学		
出版社名	鹿島出版会	著者名	V.フルッサー著 瀧本雅志訳
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	「イントロダクション:デザインとは何か?」:「デザイン」とは何かについて、デザイン史やデザイン論の主要な著書をいくつか紹介しながら、(再)問題提起してゆく。この問いの「解答」を固定的に示すのではなく、「デザイン」が実に重要な「近代」の「問題」となって登場することをまずは確認してみたい。アートとデザインの違い(の有無)についても、考察する。		
2	「近代デザイン前史」:産業化の勃興以前に、「デザイン」という問題意識は存在したかどうかを考察する。フランス革命前のファッション、シェーカー派の家具、ウェッジウッドの陶器等が、その中心として検討される。		

3	「産業革命と万国博覧会」: 技術の発達、いかに産業に応用され、それがデザインの生産や流通や消費条件を大きく変えていったかを振り返る。また、デザインの展示という概念を加速させた万国博覧会の 19 世紀における意義を、パッサージュやデパートの空間デザインとあわせて捉えてゆく。
4	「ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動」: ウィリアム・モリスを中心に、そこから、ひとつの近代運動としてのデザイン活動がテイクオフしていった意義を顧みる。また、モリスによる壁紙・ステンドグラス・家具・金工・書物等について具体的に検討する。
5	「マッキントッシュとグラスゴー派」: アーツ・アンド・クラフツ運動が唯美化したグラスゴー派のデザインを取り上げる。とりわけ、特異な才能を発揮したマッキントッシュの作品にスポットをあて。彼に見られるモダニズムの徴候についても確認を行う。
6	「アール・ヌーヴォー①」: 19 世紀末のヨーロッパに登場したアール・ヌーヴォーの全体像をまずは捉える。続けて、ブリュッセル、パリにおけるその具体例を概観してゆく。注目される固有名は、アンリ・ヴァン・ド・ヴェルド、エクトール・ギマール、ミュシャ、ルネ・ラリック等。ボナールら、美術史との交錯にも目を向ける。
7	「アール・ヌーヴォー②」: フランスのナンシー、イギリス、アメリカに登場したアール・ヌーヴォーを検討する。とりわけ重要性をもつ人物は、オーブリ・ビアズリー、エミール・ガレ、テイファニー等となるだろう。
8	「ユーゲント・シュティルとダルムシュタット芸術家村」: アール・ヌーヴォーと同時期にドイツに現れた新傾向(ドイツでのアール・ヌーヴォー)について見てゆく。雑誌では、『パン』や『ユーゲント』の意義、またユートピア的なデザイン活動が実践されたダルムシュタット芸術家コロニーの可能性を検討する。
9	「ウィーン分離派とウィーン工房」: 過去の様式からの訣別＝分離を宣言し、1897 年にウィーンでクリムトを中心に結成された分離派の活動を振り返る。また、オットー・ヴァグナーの建築、ヨーゼフ・ホフマンとコロマン・モーザーが主導したウィーン工房の製品を検討する。さらには、『装飾と犯罪』等の文章で、強烈な装飾批判を展開したアドルフ・ロースにも注目してゆく。
10	「モダニズム建築の先駆者たちとドイツ工作連盟」: 帝国ホテルや芦屋川の旧・山邑邸などで、日本とも馴染みの深いアメリカ人建築家フランク・ロイド・ライトに見られる早初のモダニズムのベクトルを検討する。また、近代運動としてのデザインを、より産業生産へ適合させる改革を進めた活動のひとつであるドイツ工作連盟について見てゆく。
11	「バウハウス①」: トータルな近代デザインの学校にして、その最大の実験場ともなったバウハウスは、1919 年にワイマールに創立された。その設立当初の状況や意図、実際の運営プログラムはどうであったかに注目する。
12	「バウハウス②」: デッサウに移転した 1925 年以降の第 2 期、1932 年～33 年のベルリンでの第 3 期で、バウハウスがどう変容していったかを、具体的なデザインの成果を見ながら考察する。また、アメリカでのその活動の継続や、戦後のウルム造形大学についても概説する。

13	「デ・ステイル／表現主義／アール・デコ」: デ・ステイルは、1917～31 年にかけてオランダのドゥースブルフが刊行した雑誌名、及びそれに関わった人物たちのグループ。モンドリアンやファン・デル・レックの抽象絵画との関わりや、リートフェルトの家具や建築についても理解の端緒を開く。
14	「ロシア・アヴァンギャルドとデザイン」: 革命前後のロシアの前衛運動について、生活変革のためのデザインという視点から、その結果的な挫折に至るまでを辿ってゆく。ロシア構成主義のみならず、絶対主義の非デザインについても、その思想に触れてゆく。
15	「アール・デコ」: アール・デコとは、1925 年にパリで開かれた博覧会に顕著な装飾スタイルをいう。アール・ヌーヴォーとの違いに注目しながら、それらが 1920 年代のデザインでいかなる意味を持ったかを、ル・コルビュジエの言説や表現主義とも比較しながら、振り返る。
16	「印刷メディアとグラフィック・デザインの進展」: 左記の問題について、グーテンベルクの活版印刷術以降の変遷を概観しながら、特に 19 世紀末から第一次大戦前までのベル・エポック期の成果に焦点を当てる。
17	「前期の内容のまとめ＋前期の復習テスト」: 後期 2 週目にあたるこの回の授業では、前期の内容を確認し、またあわせて、後期 3 週目以降の授業につなげるためのテストを行う。
18	「インダストリアル・デザイナーの登場とスタイリング」: インダストリアル・デザインという概念が最初に浮上してくる当時のアメリカのデザイン状況を顧みる。考察されるのは、摩天楼、流線型、メトロポリス、オーガニック・デザイン、レイモンド・ローウィ等。
19	「インターナショナル・スタイルと MoMA」: 1929 年に開館し、絵画や彫刻のみならず、写真や映画、ひいては建築や製品のデザインまでもいち早くその対象とした NY 近代美術館の功罪を探る。とりわけ、1932 年に開催された「近代建築: 国際展」により、いかに近代運動としての建築が、デザインやスタイルの問題に変換されたかを再考する。
20	「50～60 年代イタリアとドイツのデザイン」: 第二次大戦による荒廃にも関わらず、またたく間にデザイン大国となったイタリアの戦後 20 年を検討する。また、やはり敗戦国であるドイツのデザイン面における復興を、1940 年代末以降の「グーテ・フォルム」の概念や 1953 年に開学したウルム造形大学に焦点を当てつつ考察する。
21	「アメリカ的生活様式とカリフォルニア・モダン」: 50 年代アメリカの家庭の豊かさを演出した諸デザインを見てゆく。また、特にその注目すべき例として、西海岸で展開されたモダニズムの地方変形版としてのカリフォルニア・デザインにスポットをあてる。これについては、イームズ夫妻、ケーススタディ・ハウスの住宅を中心に触れてゆく。また、イームズの映像作品の上映も予定している。
22	「スウィング・ロンドン」: 60 年代、ロンドンで大衆的なユースカルチャーが爆発する。ストリート主導のファッションは、モードの都パリさえをもリードする勢いを見せる。マリー・クワントのミニスカート、トゥイギー、美容師をヘアデザイナーへ昇格させたヴィダル・サスーン等のデザインに触れる。また、1950 年代半ば以降のロンドンでのポップアートが、この時代にどうつながったかも再検証する。

23	「60 年代のパリ・ファッション」: スウィング・ロンドンの攻勢に対し、パリのファッションはどのような新たな動きを見せたか。クレージュ、イヴ・サンローラン、ピエール・カルダンを中心に、パリ・モードの変革の方向性をトレースする。
24	「60 年代のサウンドデザイン」: 60 年代半ば以降、ポップミュージックの新たな可能性が、録音される楽曲のサウンドデザインというかたちで大いに探求されるようになる。それに先立つ現代音楽の空間意識、マーティン・デニーのサウンドスケープ、フィル・スペクターの音の壁を検証。そして 60 年代に至ってのビーチボーイズの「ペット・サウンズ」や、ビートルズの「Sgt ペッパーズ」等の意義を確認する。
25	「アンビルトとグラフィック・デザインとしての建築」: 建築家の設計＝デザイン活動は、建物を現実に建てることだけにあるのではない。むしろ、グラフィックやイメージや情報のデザインとしての建築こそが、未来へ向けた都市や建築の自由なビジョンを提示する。そうした考えのアンビルトの思想が、60 年代に活発化する。アーキグラム、ロバート・ヴェンチュリ、メタボリズム、スーパーグラフィックス等のデザインを振り返る。
26	「BIBA とクラシカル・エレガンス」: 近代のキーワードは、「進化」や「進歩」や「新しさ」だったはずだ。しかし、60 年代後半、過去をノスタルジックに振り返ることが「新しさ」となる逆説が、大衆的なレベルでファッションや映画等に生じてくる。そうした転回について、主にロンドンの伝説的なブランド BIBA のデザインを顧みながら、考察する。
27	「アンチ・デザイン」: 70 年代には、慣例的なグッド・デザインや良き趣味を嫌うアンチ・デザインが、パンクミュージックともクロスしつつ台頭する。また、90 年代前半には、汚いブアなデザインとしての「グランジ」も注目される。それらの効果を、音楽も参照しながら検討してゆく。
28	「北欧デザインの可能性」: デンマーク、フィンランド、スウェーデンのデザインの魅力に触れる。アルネ・ヤコブセン、アールト、マリメッコをはじめとするデザインと、それを成立させた条件について考える。
29	「70 年代以降の建築デザイン」: 70 年代になると建築では、モダニズムのデザインに意図的・戦略的に抗うポストモダンのデザインが隆盛を極めてゆく。歴史的引用、多様で表層的な装飾、イメージの過剰さに走るそれらのデザインの特徴を確認するとともに、それ以降の脱構築のデザインや襞建築、ライト・コンストラクションについても考察してゆく。
30	「グローバリゼーション下の新たなデザイン概念」: グローバルなデジタル情報資本主義の現代に、デザインはいかなる概念や営みに変質してきているのか？ デザインのこれからの可能性も考えるべく、ブルース・マウやレム・コールハースといった新しいタイプのデザイナーの活動をケーススタディする。また、アイコン建築やビルバオ・エフェクト、BIMについても見てゆく。

科目名	デザイン史	年次	0	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					

授業目的と到達目標

近代から現代までのデザインの変遷を概観する。デザインを、新たに強く問題化したり、大きく変容させたり、加速して前進させたり、逆行もしくは反復した歴史的に重要な事例を、リプレイしてゆく。それはまた、デザインという視点から、技術・メディア・社会・文化・精神等の史変容を辿る試みともなる。そうしたデザインの歴史や、デザインと歴史との関係について、基礎的な理解を得ること。また、デザインへの批評眼や理論の体得が、目標となる。

授業概要

【対面授業】デザインとは何かについて、まず(再)問題提起を行う。そして、近代という時代性のなかで、デザインが重要な問題として浮上してきた経緯を確認する。その後、それがどのような曲折を経つつ、進展していったかを現代までフォロー。最後に、近代とポスト近代の双方の事後的ステージに入った現代において、デザインがいかなる新たな変質と可能性を示しつつあるかを考察する。以上を、図版や映像資料を適宜活用しながら、進めてゆく。

受講上の注意

明るく楽しく元気に受講して下さい。授業内のみで「学習」を受動的に完結させるのではなく、自ら積極的に「学外」(本、図版、モノ、インターネット、まち、等々)へアクセスして、自己を活性化させてゆくこと。なお、授業への理解を深めるために、世界史の基礎知識をメンテナンスすることも必要とされる。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
期末テスト(筆記)	80
平常点	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	

教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	世界デザイン史		
出版社名	美術出版社	著者名	阿部公正ほか
参考書名2	デザイン史入門		
出版社名	晃洋書房	著者名	T. ハウフェ著 藪亨訳
参考書名3	デザインの小さな哲学		
出版社名	鹿島出版会	著者名	V.フルッサー著 瀧本雅志訳
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	「イントロダクション:デザインとは何か?」:「デザイン」とは何かについて、デザイン史やデザイン論の主要な著書をいくつか紹介しながら、(再)問題提起してゆく。この問いの「解答」を固定的に示すのではなく、「デザイン」が実に重要な「近代」の「問題」となって登場することをまずは確認してみたい。アートとデザインの違い(の有無)についても、考察する。		
2	「近代デザイン前史」:産業化の勃興以前に、「デザイン」という問題意識は存在したかどうかを考察する。フランス革命前のファッション、シェーカー派の家具、ウェッジウッドの陶器等が、その中心として検討される。		

3	「産業革命と万国博覧会」: 技術の発達、いかに産業に応用され、それがデザインの生産や流通や消費条件を大きく変えていったかを振り返る。また、デザインの展示という概念を加速させた万国博覧会の 19 世紀における意義を、パッサージュやデパートの空間デザインとあわせて捉えてゆく。
4	「ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動」: ウィリアム・モリスを中心に、そこから、ひとつの近代運動としてのデザイン活動がテイクオフしていった意義を顧みる。また、モリスによる壁紙・ステンドグラス・家具・金工・書物等について具体的に検討する。
5	「マッキントッシュとグラスゴー派」: アーツ・アンド・クラフツ運動が唯美化したグラスゴー派のデザインを取り上げる。とりわけ、特異な才能を発揮したマッキントッシュの作品にスポットをあて。彼に見られるモダニズムの徴候についても確認を行う。
6	「アール・ヌーヴォー①」: 19 世紀末のヨーロッパに登場したアール・ヌーヴォーの全体像をまずは捉える。続けて、ブリュッセル、パリにおけるその具体例を概観してゆく。注目される固有名は、アンリ・ヴァン・ド・ヴェルド、エクトール・ギマール、ミュシャ、ルネ・ラリック等。ボナールら、美術史との交錯にも目を向ける。
7	「アール・ヌーヴォー②」: フランスのナンシー、イギリス、アメリカに登場したアール・ヌーヴォーを検討する。とりわけ重要性をもつ人物は、オーブリ・ビアズリー、エミール・ガレ、テイファニー等となるだろう。
8	「ユーゲント・シュティルとダルムシュタット芸術家村」: アール・ヌーヴォーと同時期にドイツに現れた新傾向(ドイツでのアール・ヌーヴォー)について見てゆく。雑誌では、『パン』や『ユーゲント』の意義、またユートピア的なデザイン活動が実践されたダルムシュタット芸術家コロニーの可能性を検討する。
9	「ウィーン分離派とウィーン工房」: 過去の様式からの訣別＝分離を宣言し、1897 年にウィーンでクリムトを中心に結成された分離派の活動を振り返る。また、オットー・ヴァグナーの建築、ヨーゼフ・ホフマンとコロマン・モーザーが主導したウィーン工房の製品を検討する。さらには、『装飾と犯罪』等の文章で、強烈な装飾批判を展開したアドルフ・ロースにも注目してゆく。
10	「モダニズム建築の先駆者たちとドイツ工作連盟」: 帝国ホテルや芦屋川の旧・山邑邸などで、日本とも馴染みの深いアメリカ人建築家フランク・ロイド・ライトに見られる早初のモダニズムのベクトルを検討する。また、近代運動としてのデザインを、より産業生産へ適合させる改革を進めた活動のひとつであるドイツ工作連盟について見てゆく。
11	「バウハウス①」: トータルな近代デザインの学校にして、その最大の実験場ともなったバウハウスは、1919 年にワイマールに創立された。その設立当初の状況や意図、実際の運営プログラムはどうであったかに注目する。
12	「バウハウス②」: デッサウに移転した 1925 年以降の第 2 期、1932 年～33 年のベルリンでの第 3 期で、バウハウスがどう変容していったかを、具体的なデザインの成果を見ながら考察する。また、アメリカでのその活動の継続や、戦後のウルム造形大学についても概説する。

13	「デ・ステイル／表現主義／アール・デコ」: デ・ステイルは、1917～31 年にかけてオランダのドゥースブルフが刊行した雑誌名、及びそれに関わった人物たちのグループ。モンドリアンやファン・デル・レックの抽象絵画との関わりや、リートフェルトの家具や建築についても理解の端緒を開く。
14	「ロシア・アヴァンギャルドとデザイン」: 革命前後のロシアの前衛運動について、生活変革のためのデザインという視点から、その結果的な挫折に至るまでを辿ってゆく。ロシア構成主義のみならず、絶対主義の非デザインについても、その思想に触れてゆく。
15	「アール・デコ」: アール・デコとは、1925 年にパリで開かれた博覧会に顕著な装飾スタイルをいう。アール・ヌーヴォーとの違いに注目しながら、それらが 1920 年代のデザインでいかなる意味を持ったかを、ル・コルビュジエの言説や表現主義とも比較しながら、振り返る。
16	「印刷メディアとグラフィック・デザインの進展」: 左記の問題について、グーテンベルクの活版印刷術以降の変遷を概観しながら、特に 19 世紀末から第一次大戦前までのベル・エポック期の成果に焦点を当てる。
17	「前期の内容のまとめ＋前期の復習テスト」: 後期 2 週目にあたるこの回の授業では、前期の内容を確認し、またあわせて、後期 3 週目以降の授業につなげるためのテストを行う。
18	「インダストリアル・デザイナーの登場とスタイリング」: インダストリアル・デザインという概念が最初に浮上してくる当時のアメリカのデザイン状況を顧みる。考察されるのは、摩天楼、流線型、メトロポリス、オーガニック・デザイン、レイモンド・ローウィ等。
19	「インターナショナル・スタイルと MoMA」: 1929 年に開館し、絵画や彫刻のみならず、写真や映画、ひいては建築や製品のデザインまでもいち早くその対象とした NY 近代美術館の功罪を探る。とりわけ、1932 年に開催された「近代建築: 国際展」により、いかに近代運動としての建築が、デザインやスタイルの問題に変換されたかを再考する。
20	「50～60 年代イタリアとドイツのデザイン」: 第二次大戦による荒廃にも関わらず、またたく間にデザイン大国となったイタリアの戦後 20 年を検討する。また、やはり敗戦国であるドイツのデザイン面における復興を、1940 年代末以降の「グーテ・フォルム」の概念や 1953 年に開学したウルム造形大学に焦点を当てつつ考察する。
21	「アメリカ的生活様式とカリフォルニア・モダン」: 50 年代アメリカの家庭の豊かさを演出した諸デザインを見てゆく。また、特にその注目すべき例として、西海岸で展開されたモダニズムの地方変形版としてのカリフォルニア・デザインにスポットをあてる。これについては、イームズ夫妻、ケーススタディ・ハウスの住宅を中心に触れてゆく。また、イームズの映像作品の上映も予定している。
22	「スウィング・ロンドン」: 60 年代、ロンドンで大衆的なユースカルチャーが爆発する。ストリート主導のファッションは、モードの都パリさえをもリードする勢いを見せる。マリー・クワントのミニスカート、トゥイギー、美容師をヘアデザイナーへ昇格させたヴィダル・サスーン等のデザインに触れる。また、1950 年代半ば以降のロンドンでのポップアートが、この時代にどうつながったかも再検証する。

23	「60 年代のパリ・ファッション」: スウィング・ロンドンの攻勢に対し、パリのファッションはどのような新たな動きを見せたか。クレージュ、イヴ・サンローラン、ピエール・カルダンを中心に、パリ・モードの変革の方向性をトレースする。
24	「60 年代のサウンドデザイン」: 60 年代半ば以降、ポップミュージックの新たな可能性が、録音される楽曲のサウンドデザインというかたちで大いに探求されるようになる。それに先立つ現代音楽の空間意識、マーティン・デニーのサウンドスケープ、フィル・スペクターの音の壁を検証。そして 60 年代に至ってのビーチボーイズの「ペット・サウンズ」や、ビートルズの「Sgt ペッパーズ」等の意義を確認する。
25	「アンビルトとグラフィック・デザインとしての建築」: 建築家の設計＝デザイン活動は、建物を現実に建てることだけにあるのではない。むしろ、グラフィックやイメージや情報のデザインとしての建築こそが、未来へ向けた都市や建築の自由なビジョンを提示する。そうした考えのアンビルトの思想が、60 年代に活発化する。アーキグラム、ロバート・ヴェンチュリ、メタボリズム、スーパーグラフィックス等のデザインを振り返る。
26	「BIBA とクラシカル・エレガンス」: 近代のキーワードは、「進化」や「進歩」や「新しさ」だったはずだ。しかし、60 年代後半、過去をノスタルジックに振り返ることが「新しさ」となる逆説が、大衆的なレベルでファッションや映画等に生じてくる。そうした転回について、主にロンドンの伝説的なブランド BIBA のデザインを顧みながら、考察する。
27	「アンチ・デザイン」: 70 年代には、慣例的なグッド・デザインや良き趣味を嫌うアンチ・デザインが、パンクミュージックともクロスしつつ台頭する。また、90 年代前半には、汚いブアなデザインとしての「グランジ」も注目される。それらの効果を、音楽も参照しながら検討してゆく。
28	「北欧デザインの可能性」: デンマーク、フィンランド、スウェーデンのデザインの魅力に触れる。アルネ・ヤコブセン、アールト、マリメッコをはじめとするデザインと、それを成立させた条件について考える。
29	「70 年代以降の建築デザイン」: 70 年代になると建築では、モダニズムのデザインに意図的・戦略的に抗うポストモダンのデザインが隆盛を極めてゆく。歴史的引用、多様で表層的な装飾、イメージの過剰さに走るそれらのデザインの特徴を確認するとともに、それ以降の脱構築のデザインや襷建築、ライト・コンストラクションについても考察してゆく。
30	「グローバリゼーション下の新たなデザイン概念」: グローバルなデジタル情報資本主義の現代に、デザインはいかなる概念や営みに変質してきているのか？ デザインのこれからの可能性も考えるべく、ブルース・マウやレム・コールハースといった新しいタイプのデザイナーの活動をケーススタディする。また、アイコン建築やビルバオ・エフェクト、BIMについても見てゆく。

科目名	東洋美術史		年次	0	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期		形態	講義		
教員名	田林 啓					
クラス名						
授業目的と到達目標						
東洋美術史へ関心を持ち、東洋美術に関する具体的なイメージを持つこと。						
授業概要						
【対面授業】 各回で一つの作品を中心に話を進める。中国美術史を主とし、中国美術と 他地域の美術との関係性を読み解いていく。授業は、東洋美術史の研究方 法紹介、各地域の美術作品の特性の把握、各時代における中国美術の特性 の把握、中国美術と他地域作品との関連性というように大きく4つのテー マを設けて進める。これらを踏まえて後半では日本の美術作品も扱ってい く。 扱う作品は、教員が学芸員として実際に展示した或いは自らが研究したも のを主軸とする。						
受講上の注意						
・授業中の私語は禁じます。・学期末(前期・後期ともに)の最終授業日に筆記試験を実施します。 単位取得には筆記試験の受験が必須条件です。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
前期筆記試験				40		
後期筆記試験				40		
受講態度				20		
教科書情報						
教科書1	毎回の授業で配布するプリント					
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
美術館に学芸員として勤務。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	東洋美術史の対象地域、研究方法及び授業の進め方、評価方法についての説明		
2	シルクロードとは 中国と他地域との影響関係(1) シルクロード上の各地域及び作品についての概要		
3	各地の石窟(洞窟)寺院(1) 中国と他地域との影響関係(2) 中国・雲岡石窟、龍門石窟、敦煌莫高窟についての概要		
4	各地の石窟(洞窟)寺院(2) 中国と他地域との影響関係(3) 西域・キジル石窟、インド・アジャンター石窟についての概要		
5	秦・兵馬俑 中国美術史概論(1) 兵馬俑を主に取り上げて、中国の戦国、秦時代の美術についてみていきます		

6	昇仙図(天界に昇る様子を描く絵画、馬王堆帛画) 中国美術史概論(2) 昇仙図を主に取り上げて、中国の前漢時代の美術についてみていきます
7	博山炉(仙人の世界を表す香炉) 中国美術史概論(3) 博山炉を主に取り上げて、中国の後漢時代の美術についてみていきます
8	洛神賦図 中国美術史概論(4) 洛神賦図を主に取り上げて、中国の魏晉時代の美術についてみていきます
9	雲岡石窟(洞窟) 中国美術史概論(5) 雲岡石窟を主に取り上げて、中国の南北朝時代前半の美術についてみていきます
10	龍門石窟(洞窟) 中国美術史概論(6) 龍門石窟を主に取り上げて、中国の南北朝時代後半の美術についてみていきます
11	潼関税村壁画墓 中国美術史概論(7) 潼関税村壁画墓を主に取り上げて、中国の隋時代の美術についてみていきます
12	白鶴美術館所蔵の銀器 中国美術史概論(8) 白鶴美術館所蔵の銀器を主に取り上げて、中国の唐時代前半の美術についてみていきます
13	法門寺地下宮出土の美術 中国美術史概論(9) 法門寺地下宮出土の美術を主に取り上げて、中国の唐時代後半の美術についてみていきます
14	清凉寺蔵釈迦如来像 中国美術史概論(10) 清凉寺蔵釈迦如来像を主に取り上げて、中国の北宋時代の美術についてみていきます
15	大徳寺他蔵五百羅漢図 中国美術史概論(11) 大徳寺他蔵五百羅漢図を主に取り上げて、中国の南宋時代の美術についてみていきます
16	敦煌莫高窟の美術(1) 中国の美術各論(1) 世界遺産敦煌莫高窟の主な洞窟を取り上げて、莫高窟について詳しくみていきます
17	敦煌莫高窟の美術(2) 中国の美術各論(2) 世界遺産敦煌莫高窟から発見された主な作品を取り上げて、敦煌の美術について詳しくみていきます
18	法隆寺の至宝① 玉虫厨子 東洋美術と日本美術(1) 法隆寺蔵の玉虫厨子を主に取り上げて、そこにみられる東洋美術との影響関係についてみていきます
19	法隆寺の至宝② 釈迦三尊像 東洋美術と日本美術(2) 法隆寺蔵の釈迦三尊像を主に取り上げて、そこにみられる東洋美術との影響関係についてみていきます
20	聖徳太子の絵画① 聖徳太子絵伝 東洋美術と日本美術(3) 聖徳太子絵伝を主に取り上げて、説話図における東洋美術との影響関係についてみていきます
21	聖徳太子の絵画② 聖徳太子勝鬘経講讃図 東洋美術と日本美術(4) 勝鬘経講讃図を主に取り上げて、仏画における東洋美術との影響関係についてみていきます

22	東大寺戒壇院四天王像 東洋美術と日本美術(5) 戒壇院四天王像を主に取り上げて、塑像における東洋美術との影響関係についてみていきます
23	薬師寺薬師三尊像 東洋美術と日本美術(6) 薬師寺薬師三尊像を主に取り上げて、銅像における東洋美術との影響関係についてみていきます
24	正倉院宝物 東洋美術と日本美術(7) 正倉院宝物を主に取り上げて、工芸品における東洋美術との影響関係についてみていきます
25	興福寺阿修羅像 東洋美術と日本美術(8) 興福寺阿修羅像を主に取り上げて、乾漆像における東洋美術との影響関係についてみていきます
26	当麻曼荼羅 東洋美術と日本美術(9) 当麻曼荼羅を主に取り上げて、浄土図における日本美術と東洋美術との影響関係についてみていきます
27	東寺立体曼荼羅(密教仏像群) 東洋美術と日本美術(10) 東寺立体曼荼羅を主に取り上げて、密教美術における東洋美術との影響関係についてみていきます
28	平等院鳳凰堂の堂内装飾(荘厳具) 東洋美術と日本美術(11) 平等院鳳凰堂の堂内装飾を主に取り上げて、荘厳具における東洋美術との影響関係についてみていきます
29	東大寺南大門の力士像 東洋美術と日本美術(12) 東大寺南大門の力士像を主に取り上げて、力士表現や木像における東洋美術との影響関係についてみていきます
30	総まとめ

科目名	東洋美術史		年次	0	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期		形態	講義		
教員名	田林 啓					
クラス名						
授業目的と到達目標						
東洋美術史へ関心を持ち、東洋美術に関する具体的なイメージを持つこと。						
授業概要						
【対面授業】 各回で一つの作品を中心に話を進める。中国美術史を主とし、中国美術と 他地域の美術との関係性を読み解いていく。授業は、東洋美術史の研究方 法紹介、各地域の美術作品の特性の把握、各時代における中国美術の特性 の把握、中国美術と他地域作品との関連性というように大きく4つのテー マを設けて進める。これらを踏まえて後半では日本の美術作品も扱っていき く。 扱う作品は、教員が学芸員として実際に展示した或いは自らが研究したも のを主軸とする。						
受講上の注意						
・授業中の私語は禁じます。・学期末(前期・後期ともに)の最終授業日に筆記試験を実施します。 単位取得には筆記試験の受験が必須条件です。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
受講態度				20		
前期筆記試験				40		
後期筆記試験				40		
教科書情報						
教科書1	毎回の授業で配布するプリント					
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
美術館に学芸員として勤務。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	東洋美術史の対象地域、研究方法及び授業の進め方、評価方法についての説明		
2	シルクロードとは 中国と他地域との影響関係(1) シルクロード上の各地域及び作品についての概要		
3	各地の石窟(洞窟)寺院(1) 中国と他地域との影響関係(2) 中国・雲岡石窟、龍門石窟、敦煌莫高窟についての概要		
4	各地の石窟(洞窟)寺院(2) 中国と他地域との影響関係(3) 西域・キジル石窟、インド・アジャンター石窟についての概要		
5	秦・兵馬俑 中国美術史概論(1) 兵馬俑を主に取り上げて、中国の戦国、秦時代の美術についてみていきます		

6	昇仙図(天界に昇る様子を描く絵画、馬王堆帛画) 中国美術史概論(2) 昇仙図を主に取り上げて、中国の前漢時代の美術についてみていきます
7	博山炉(仙人の世界を表す香炉) 中国美術史概論(3) 博山炉を主に取り上げて、中国の後漢時代の美術についてみていきます
8	洛神賦図 中国美術史概論(4) 洛神賦図を主に取り上げて、中国の魏晉時代の美術についてみていきます
9	雲岡石窟(洞窟) 中国美術史概論(5) 雲岡石窟を主に取り上げて、中国の南北朝時代前半の美術についてみていきます
10	龍門石窟(洞窟) 中国美術史概論(6) 龍門石窟を主に取り上げて、中国の南北朝時代後半の美術についてみていきます
11	潼関税村壁画墓 中国美術史概論(7) 潼関税村壁画墓を主に取り上げて、中国の隋時代の美術についてみていきます
12	白鶴美術館所蔵の銀器 中国美術史概論(8) 白鶴美術館所蔵の銀器を主に取り上げて、中国の唐時代前半の美術についてみていきます
13	法門寺地下宮出土の美術 中国美術史概論(9) 法門寺地下宮出土の美術を主に取り上げて、中国の唐時代後半の美術についてみていきます
14	清凉寺蔵釈迦如来像 中国美術史概論(10) 清凉寺蔵釈迦如来像を主に取り上げて、中国の北宋時代の美術についてみていきます
15	大徳寺他蔵五百羅漢図 中国美術史概論(11) 大徳寺他蔵五百羅漢図を主に取り上げて、中国の南宋時代の美術についてみていきます
16	敦煌莫高窟の美術(1) 中国の美術各論(1) 世界遺産敦煌莫高窟の主な洞窟を取り上げて、莫高窟について詳しくみていきます
17	敦煌莫高窟の美術(2) 中国の美術各論(2) 世界遺産敦煌莫高窟から発見された主な作品を取り上げて、敦煌の美術について詳しくみていきます
18	法隆寺の至宝① 玉虫厨子 東洋美術と日本美術(1) 法隆寺蔵の玉虫厨子を主に取り上げて、そこにみられる東洋美術との影響関係についてみていきます
19	法隆寺の至宝② 釈迦三尊像 東洋美術と日本美術(2) 法隆寺蔵の釈迦三尊像を主に取り上げて、そこにみられる東洋美術との影響関係についてみていきます
20	聖徳太子の絵画① 聖徳太子絵伝 東洋美術と日本美術(3) 聖徳太子絵伝を主に取り上げて、説話図における東洋美術との影響関係についてみていきます
21	聖徳太子の絵画② 聖徳太子勝鬘経講讃図 東洋美術と日本美術(4) 勝鬘経講讃図を主に取り上げて、仏画における東洋美術との影響関係についてみていきます

22	東大寺戒壇院四天王像 東洋美術と日本美術(5) 戒壇院四天王像を主に取り上げて、塑像における東洋美術との影響関係についてみていきます
23	薬師寺薬師三尊像 東洋美術と日本美術(6) 薬師寺薬師三尊像を主に取り上げて、銅像における東洋美術との影響関係についてみていきます
24	正倉院宝物 東洋美術と日本美術(7) 正倉院宝物を主に取り上げて、工芸品における東洋美術との影響関係についてみていきます
25	興福寺阿修羅像 東洋美術と日本美術(8) 興福寺阿修羅像を主に取り上げて、乾漆像における東洋美術との影響関係についてみていきます
26	当麻曼荼羅 東洋美術と日本美術(9) 当麻曼荼羅を主に取り上げて、浄土図における日本美術と東洋美術との影響関係についてみていきます
27	東寺立体曼荼羅(密教仏像群) 東洋美術と日本美術(10) 東寺立体曼荼羅を主に取り上げて、密教美術における東洋美術との影響関係についてみていきます
28	平等院鳳凰堂の堂内装飾(荘厳具) 東洋美術と日本美術(11) 平等院鳳凰堂の堂内装飾を主に取り上げて、荘厳具における東洋美術との影響関係についてみていきます
29	東大寺南大門の力士像 東洋美術と日本美術(12) 東大寺南大門の力士像を主に取り上げて、力士表現や木像における東洋美術との影響関係についてみていきます
30	総まとめ

科目名	陶芸論	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	東野 真紀				
クラス名					

授業目的と到達目標

陶芸の歴史を学び、土器や陶器や磁器といった焼物の魅力を学び、日本の文化の多様性と普遍性について概観することを目的とする。また陶芸に関して、美術工芸、文化と広く学ぶことにより、新しい視野で考えることができるよう、知識を増やす様々な経験を増やすよう、歴史の文脈を知って、作品を作るときの自身の立場を考えるようになる。

授業概要

対面授業。日本の陶芸について、縄文時代から現代に至るまでの歴史を、社会的・文化的な背景を考えながら、その特徴をとらえる。縄文土器、渡来した須恵器、茶の湯とともに洗練された中世の工芸、近世の磁器の意匠などについて説明する。また可能な状況であれば、武者小路千家の教職を持つ教員とともに茶の湯点前の体験をする。

受講上の注意

レポートを必ず提出すること。陶芸のみならず、日本の美術や工芸に関する展覧会を積極的に見に行くこと。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
受講態度・小レポート	50
レポート	50

教科書情報

教科書1	増補新装〔カラー版〕日本やきもの史		
出版社名	美術出版社	著者名	荒川正明
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【対面】 陶芸史概説 日本の歴史の大きな流れを捉える。		
2	【対面】 縄文土器について 長い歴史を持ち、強い個性を持つ縄文土器について学ぶ。		
3	【対面】 弥生土器について 技法的には大きく変化をしないながらも、変化のあった弥生土器について学ぶ。		
4	【対面】 須恵器について アジアの文化・陶芸の影響について考える。		
5	【対面】 中世の文化と陶芸について		
6	【対面】 茶の湯の文化と陶芸について 1		
7	【対面】 茶の湯の文化と陶芸について 2		
8	【対面】 茶の湯の文化と陶芸について 3		
9	【対面】 近世の陶芸について 1		
10	【対面】 近世の陶芸について 2		

11	【対面】 近世の陶芸について 3
12	【対面】 近代の陶芸について1
13	【対面】 近代の陶芸について2
14	【対面】 現代の陶芸について
15	【対面】 授業のまとめ・レポート発表

科目名	日本画実習 I	年次	1	単位数	3
授業期間	2022 年度 後期	形態	実習		
教員名	久世 直幸、諸星 美喜				
クラス名					
授業目的と到達目標					
① 日本画制作の基礎知識(素材、道具、制作手順など)を習得します。 ② 制作の基礎となる写生(デッサン)の重要性を学び、観察力や表現力の向上を計ります。 ③ 水干絵の具や岩絵の具、金属箔による制作を通し、日本画独特の画材や表現への興味を育みます。					
授業概要					
【対面授業】 モチーフへの素直な観察に基づいた写生(デッサン)を軸として、日本画材料や道具、制作工程についての知識と経験の獲得をめざします。また古典研究課題や作品見本、現代作家の紹介を行い、日本画独特の表現の可能性を考えます。 教員の画家活動の源泉である素描やスケッチの経験を活かし、写生のスキルや制作への展開方法の習得をめざします。					
受講上の注意					
・各課題で必要な画材を事前にお知らせしますので、持参して下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題作品			70		
制作姿勢			30		
教科書情報					
教科書1	適宜授業内でプリントを配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
久世直幸の実務経験について {久世直幸オフィシャルサイト,https://kuzenaoyuki.com} {一般社団法人 創画会,https://www.sogakai.or.jp} {諸星美喜の実務経験について {諸星美喜オフィシャルサイト,https://www.miki-morohoshi.com} {公益社団法人 日展,https://nitten.or.jp/artwork/exh191093} {大阪芸術大学,https://www.osakageidai.ac.jp/geidai//rese			
特記事項			
教員実務経験			
久世直幸: 日本画家・創画会会員、諸星美喜: 日本画家・日展会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサン1		
2	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサン2		
3	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き1		
4	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き2		
5	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写1		
6	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写2		

7	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写3
8	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写4
9	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写5
10	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写6 仕上げ
11	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンと下地作成1
12	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンと下地作成2
13	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンと下地作成3
14	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き1
15	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き2
16	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写1
17	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写2
18	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写3
19	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写4
20	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写5
21	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写6 仕上げ
22	合評 日本画制作①と②、各デッサンを合わせて講評会を実施
23	< 初年次教育 > 初回授業 防犯・防災について(富田林警察)・心身のケアと健康管理(キャンパスサポートルーム) 展示ホール・収蔵庫・学芸員資格について(博物館) 図書館・展示ホール・体育館ギャラリー・インターネットルーム・体育館・トレーニングルーム・キャンパスサポートルーム・保健室・食堂・学生課・教務課等の学内見学 「大学生活の目標と行動計画」を基礎とし前期の目標や大学での学びについてクラスディスカッション。

科目名	日本画実習 I	年次	1	単位数	3
授業期間	2022 年度 後期	形態	実習		
教員名	久世 直幸、諸星 美喜				
クラス名					
授業目的と到達目標					
① 日本画制作の基礎知識(素材、道具、制作手順など)を習得します。 ② 制作の基礎となる写生(デッサン)の重要性を学び、観察力や表現力の向上を計ります。 ③ 水干絵の具や岩絵の具、金属箔による制作を通し、日本画独特の画材や表現への興味を育みます。					
授業概要					
【対面授業】 モチーフへの素直な観察に基づいた写生(デッサン)を軸として、日本画材料や道具、制作工程についての知識と経験の獲得をめざします。また古典研究課題や作品見本、現代作家の紹介を行い、日本画独特の表現の可能性を考えます。 教員の画家活動の源泉である素描やスケッチの経験を活かし、写生のスキルや制作への展開方法の習得をめざします。					
受講上の注意					
・各課題で必要な画材を事前にお知らせしますので、持参して下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題作品			70		
制作姿勢			30		
教科書情報					
教科書1	適宜授業内でプリントを配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
久世直幸の実務経験について {久世直幸オフィシャルサイト, https://kuzenaoyuki.com } {一般社団法人 創画会, https://www.sogakai.or.jp } 諸星美喜の実務経験について {諸星美喜オフィシャルサイト, https://www.miki-morohoshi.com } {公益社団法人 日展, https://nitten.or.jp/artwork/exh191093 } {大阪芸術大学, https://www.osakageidai.ac.jp/geidai/rese }			
特記事項			
教員実務経験			
久世直幸: 日本画家・創画会会員、諸星美喜: 日本画家・日展会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサン1		
2	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサン2		
3	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き1		
4	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き2		
5	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写1		
6	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写2		

7	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写3
8	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写4
9	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写5
10	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写6 仕上げ
11	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンと下地作成1
12	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンと下地作成2
13	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンと下地作成3
14	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き1
15	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き2
16	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写1
17	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写2
18	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写3
19	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写4
20	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写5
21	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写6 仕上げ
22	合評 日本画制作①と②、各デッサンを合わせて講評会を実施
23	< 初年次教育 > 初回授業 防犯・防災について(富田林警察)・心身のケアと健康管理(キャンパスサポートルーム) 展示ホール・収蔵庫・学芸員資格について(博物館) 図書館・展示ホール・体育館ギャラリー・インターネットルーム・体育館・トレーニングルーム・キャンパスサポートルーム・保健室・食堂・学生課・教務課等の学内見学 「大学生活の目標と行動計画」を基礎とし前期の目標や大学での学びについてクラスディスカッション。

科目名	日本画実習 I	年次	1	単位数	3
授業期間	2022 年度 前期	形態	実習		
教員名	久世 直幸、諸星 美喜				
クラス名					
授業目的と到達目標					
① 日本画制作の基礎知識(素材、道具、制作手順など)を習得します。 ② 制作の基礎となる写生(デッサン)の重要性を学び、観察力や表現力の向上を計ります。 ③ 水干絵の具や岩絵の具、金属箔による制作を通し、日本画独特の画材や表現への興味を育みます。					
授業概要					
【対面授業】 モチーフへの素直な観察に基づいた写生(デッサン)を軸として、日本画材料や道具、制作工程についての知識と経験の獲得をめざします。また古典研究課題や作品見本、現代作家の紹介を行い、日本画独特の表現の可能性を考えます。 教員の画家活動の源泉である素描やスケッチの経験を活かし、写生のスキルや制作への展開方法の習得をめざします。					
受講上の注意					
・各課題で必要な画材を事前にお知らせしますので、持参して下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題作品			70		
制作姿勢			30		
教科書情報					
教科書1	適宜授業内でプリントを配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
久世直幸の実務経験について {久世直幸オフィシャルサイト,https://kuzenaoyuki.com} {一般社団法人 創画会,https://www.sogakai.or.jp} {諸星美喜の実務経験について {諸星美喜オフィシャルサイト,https://www.miki morohoshi.com} {公益社団法人 日展,https://nitten.or.jp/artwork/exh191093} {大阪芸術大学,https://www.osakageidai.ac.jp/geidai//rese			
特記事項			
教員実務経験			
久世直幸: 日本画家・創画会会員、諸星美喜: 日本画家・日展会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサン1		
2	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサン2		
3	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き1		
4	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き2		
5	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写1		
6	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写2		

7	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写3
8	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写4
9	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写5
10	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写6 仕上げ
11	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンと下地作成1
12	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンと下地作成2
13	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンと下地作成3
14	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き1
15	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き2
16	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写1
17	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写2
18	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写3
19	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写4
20	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写5
21	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写6 仕上げ
22	合評 日本画制作①と②、各デッサンを合わせて講評会を実施
23	< 初年次教育 > 初回授業 防犯・防災について(富田林警察)・心身のケアと健康管理(キャンパスサポートルーム) 展示ホール・収蔵庫・学芸員資格について(博物館) 図書館・展示ホール・体育館ギャラリー・インターネットルーム・体育館・トレーニングルーム・キャンパスサポートルーム・保健室・食堂・学生課・教務課等の学内見学 「大学生活の目標と行動計画」を基礎とし前期の目標や大学での学びについてクラスディスカッション。

科目名	日本画実習Ⅰ	年次	1	単位数	3
授業期間	2022 年度 前期	形態	実習		
教員名	久世 直幸、諸星 美喜				
クラス名					

授業目的と到達目標

① 日本画制作の基礎知識(素材、道具、制作手順など)を習得します。|② 制作の基礎となる写生(デッサン)の重要性を学び、観察力や表現力の向上を計ります。|③ 水干絵の具や岩絵の具、金属箔による制作を通し、日本画独特の画材や表現への興味を育みます。|

授業概要

【対面授業】|モチーフへの素直な観察に基づいた写生(デッサン)を軸として、日本画材料や道具、制作工程についての知識と経験の獲得をめざします。また古典研究課題や作品見本、現代作家の紹介を行い、日本画独特の表現の可能性を考えます。|教員の画家活動の源泉である素描やスケッチの経験を活かし、写生のスキルや制作への展開方法の習得をめざします。|

受講上の注意

・各課題で必要な画材を事前にお知らせしますので、持参して下さい。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題作品	70
制作姿勢	30

教科書情報

教科書1	適宜授業内でプリントを配布します。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
久世直幸の実務経験について {久世直幸オフィシャルサイト, https://kuzenaoyuki.com } {一般社団法人 創画会, https://www.sogakai.or.jp } 諸星美喜の実務経験について {諸星美喜オフィシャルサイト, https://www.miki-morohoshi.com } {公益社団法人 日展, https://nitten.or.jp/artwork/exh191093 } {大阪芸術大学, https://www.osakageidai.ac.jp/geidai/rese }			
特記事項			
教員実務経験			
久世直幸: 日本画家・創画会会員、諸星美喜: 日本画家・日展会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサン1		
2	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサン2		
3	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き1		
4	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き2		
5	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写1		
6	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写2		

7	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写3
8	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写4
9	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写5
10	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写6 仕上げ
11	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンと下地作成1
12	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンと下地作成2
13	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンと下地作成3
14	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き1
15	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き2
16	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写1
17	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写2
18	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写3
19	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写4
20	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写5
21	日本画制作②「貝殻、ガラス器、ドライフラワー」 彩色描写6 仕上げ
22	合評 日本画制作①と②、各デッサンを合わせて講評会を実施
23	< 初年次教育 > 初回授業 防犯・防災について(富田林警察)・心身のケアと健康管理(キャンパスサポートルーム) 展示ホール・収蔵庫・学芸員資格について(博物館) 図書館・展示ホール・体育館ギャラリー・インターネットルーム・体育館・トレーニングルーム・キャンパスサポートルーム・保健室・食堂・学生課・教務課等の学内見学 「大学生活の目標と行動計画」を基礎とし前期の目標や大学での学びについてクラスディスカッション。

科目名	日本美術史	年次	0	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	瀧 朝子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
現在に伝わる美術作品の鑑賞を通して、美術における歴史的・文化的な価値観を考え、日本文化を捉えていく。「文化財」「美術品」の歴史を日本におけるコレクションや美術館の成り立ちとともに見ていく。日本美術史を通して、日本文化の西洋や東洋の中での位置づけにも視野を広げる内容とする。					
授業概要					
対面授業 日本における美術とはどのようなものか、日本におけるコレクションや美術館の成り立ちから考えるとともに、文物の鑑賞の歴史から「美術」の概念について考察する。また、仏教工芸や陶磁器、漆器など、現在まで伝えられてきた文物の鑑賞及び理解を通して、日本美術のあり方や意義について学ぶとともに、日本文化及び美術が東アジアや西洋とどのように関わりながら展開してきたか考える。					
受講上の注意					
授業にて紹介する近隣の美術館・博物館などを各自で積極的に参観し、実際に作品を自らの目で見て鑑賞するようにして自主的に内容を深めること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
期末試験			50		
期末試験			50		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
参考資料は適宜提示する。			
教員実務経験			
美術館学芸員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	「日本美術史」講義の概要		
2	「美術」の概念について		
3	コレクションの成り立ち－西洋－		
4	コレクションの成り立ち－日本－		
5	日本における美術館の成り立ち①		
6	日本における美術館の成り立ち②		
7	美術品の鑑賞史①		
8	美術品の鑑賞史②		
9	仏教工芸①		

10	仏教美術②
11	仏教美術③
12	金属工芸①
13	金属工芸②
14	金属工芸③
15	まとめ・期末試験
16	金属工芸④
17	陶磁器①
18	陶磁器②
19	陶磁器③
20	陶磁器④
21	陶磁器⑤
22	陶磁器⑥
23	陶磁器⑦
24	漆工芸①
25	漆工芸②
26	漆工芸③
27	漆工芸④
28	漆工芸⑤
29	漆工芸⑥
30	まとめ・期末試験

科目名	日本美術史	年次	0	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	瀧 朝子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
現在に伝わる美術作品の鑑賞を通して、美術における歴史的・文化的な価値観を考え、日本文化を捉えていく。「文化財」「美術品」の歴史を日本におけるコレクションや美術館の成り立ちとともに見ていく。日本美術史を通して、日本文化の西洋や東洋の中での位置づけにも視野を広げる内容とする。					
授業概要					
対面授業 日本における美術とはどのようなものか、日本におけるコレクションや美術館の成り立ちから考えるとともに、文物の鑑賞の歴史から「美術」の概念について考察する。また、仏教工芸や陶磁器、漆器など、現在まで伝えられてきた文物の鑑賞及び理解を通して、日本美術のあり方や意義について学ぶとともに、日本文化及び美術が東アジアや西洋とどのように関わりながら展開してきたか考える。					
受講上の注意					
授業にて紹介する近隣の美術館・博物館などを各自で積極的に参観し、実際に作品を自らの目で見て鑑賞するようにして自主的に内容を深めること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
期末試験			50		
期末試験			50		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
参考資料は適宜提示する。			
教員実務経験			
美術館学芸員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	「日本美術史」講義の概要		
2	「美術」の概念について		
3	コレクションの成り立ち－西洋－		
4	コレクションの成り立ち－日本－		
5	日本における美術館の成り立ち①		
6	日本における美術館の成り立ち②		
7	美術品の鑑賞史①		
8	美術品の鑑賞史②		
9	仏教工芸①		

10	仏教美術②
11	仏教美術③
12	金属工芸①
13	金属工芸②
14	金属工芸③
15	まとめ・期末試験
16	金属工芸④
17	陶磁器①
18	陶磁器②
19	陶磁器③
20	陶磁器④
21	陶磁器⑤
22	陶磁器⑥
23	陶磁器⑦
24	漆工芸①
25	漆工芸②
26	漆工芸③
27	漆工芸④
28	漆工芸⑤
29	漆工芸⑥
30	まとめ・期末試験

科目名	日本美術史		年次	0	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期		形態	講義		
教員名	五十嵐 公一					
クラス名						
授業目的と到達目標						
日本では多くの優れた作品が作られてきました。この授業ではそれらの作品を時代の流れに沿って紹介してゆきます。日本美術史は実に面白い学問です。その面白さを伝えること、そして興味を持ってもらうことが授業目的であり到達目標です。						
授業概要						
対面授業 授業では、先ず作品が生まれた時代背景を説明します。それを踏まえ、画像を見てもらいながら多くの作品を紹介してゆきます。作品がどのような状況で生まれ、どのような意味を持っているのかを知ってもらいたいと思います。						
受講上の注意						
2/3 以上の授業に出席しないと単位が取得できません。注意してください。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
毎回の授業で示した課題				50		
年度末のレポート				50		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						

参考書名1	美術出版ライブラリー 歴史篇 日本美術史		
出版社名	美術出版社	著者名	
参考書名2	天皇の美術史 全6巻		
出版社名	吉川弘文館	著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	01 縄文・弥生時代 ・火焰型土器、遮光器土偶など		
2	02 古墳時代 ・高松塚古墳、キトラ古墳など		
3	03 飛鳥・白鳳時代 ・釈迦三尊像(法隆寺)、弥勒菩薩像(野中寺)など		
4	04 奈良時代:薬師寺と興福寺 ・薬師寺東塔、阿修羅像(興福寺)など		
5	05 奈良時代:東大寺と正倉院 ・不空羂索観音像(東大寺)、鳥毛立女屏風(正倉院)など		
6	06 奈良時代:鑑真来日と唐招提寺 ・鑑真和上像(唐招提寺)、唐招提寺金堂諸像など		
7	07 平安時代:最澄と空海 ・東寺講堂諸像、灌頂歴名(神護寺)など		
8	08 平安時代:摂関政治と平等院 ・平等院鳳凰堂、九体阿弥陀如来像(浄瑠璃寺)など		
9	09 平安時代:院政期の美術 1 ・薬師如来像(仁和寺)、阿弥陀三尊像(長岳寺)など		
10	10 平安時代:院政期の美術 2 ・普賢菩薩像(東京国立博物館)、平家納経(厳島神社)など		
11	11 平安時代:絵巻 ・源氏物語絵巻(徳川美術館・五島美術館)、伴大納言絵巻(出光美術館)など		

12	12 鎌倉・南北朝時代:運慶と快慶 ・大日如来像(円成寺)、阿弥陀三尊像(浄土寺)など
13	13 神護寺三像の問題 ・伝源頼朝像・伝平重盛像・伝藤原光能像(神護寺)
14	14 鎌倉・南北朝時代:天皇と武家 1 ・後鳥羽天皇像(水無瀬神宮)、隨身庭騎絵巻(大倉集古館)など
15	15 鎌倉・南北朝時代:天皇と武家 2 ・伊勢物語絵巻(久保惣記念美術館)、春日権現縁起巻(三の丸尚蔵館)など
16	16 室町時代:足利将軍家と美術 ・足利義満像(鹿苑寺)、融通念仏縁起絵巻(禅林寺)など
17	17 室町時代:雪舟等揚 ・四季山水図(毛利博物館)、天橋立図(京都国立博物館)など
18	18 室町時代:狩野派の登場 ・大徳寺大仙院障壁画、四季花鳥図屏風(白鶴美術館)など
19	19 安土桃山時代:永徳と等伯 ・唐獅子図屏風(三の丸尚蔵館)、松林図屏風(東京国立博物館)など
20	20 江戸時代:豊臣から徳川へ 1 ・二条城障壁画、名古屋城障壁画など
21	21 江戸時代:豊臣から徳川へ 2 ・妙心寺天球院障壁画、雪汀水禽図屏風など
22	22 江戸時代:琳派 1 ・風神雷神図屏風(建仁寺)、紅白梅図屏風(MOA美術館)など
23	23 江戸時代:琳派 2 ・夏秋草図屏風(東京国立博物館)、夏秋溪流図屏風(根津美術館)など
24	24 江戸時代:浮世絵 1 ・喜多川歌麿、東洲斎写楽ほか
25	25 江戸時代:浮世絵 2 ・葛飾北斎、歌川広重ほか
26	26 江戸時代:18世紀の京都 1 ・雪松図屏風(三井記念美術館)、無量寺障壁画など
27	27 江戸時代:18世紀後半の京都 2 ・動植綵絵(三の丸尚蔵館)、雲龍図(ボストン美術館)など
28	28 江戸時代:京都御所 ・京都御所障壁画など
29	29 明治時代:日本画と洋画 ・鮭(東京藝術大学)、無我(東京国立博物館)など
30	30 大正時代以降 ・序の舞(東京藝術大学)、立てる像(神奈川県立近代美術館)など

科目名	日本美術史		年次	0	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期		形態	講義		
教員名	五十嵐 公一					
クラス名						
授業目的と到達目標						
日本では多くの優れた作品が作られてきました。この授業ではそれらの作品を時代の流れに沿って紹介してゆきます。日本美術史は実に面白い学問です。その面白さを伝えること、そして興味を持ってもらうことが授業目的であり到達目標です。						
授業概要						
対面授業 授業では、先ず作品が生まれた時代背景を説明します。それを踏まえ、画像を見てもらいながら多くの作品を紹介してゆきます。作品がどのような状況で生まれ、どのような意味を持っているのかを知ってもらいたいと思います。						
受講上の注意						
2/3 以上の授業に出席しないと単位が取得できません。注意してください。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
毎回の授業で示した課題				50		
年度末のレポート				50		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						

参考書名1	美術出版ライブラリー 歴史篇 日本美術史		
出版社名	美術出版社	著者名	
参考書名2	天皇の美術史 全6巻		
出版社名	吉川弘文館	著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	01 縄文・弥生時代 ・火焰型土器、遮光器土偶など		
2	02 古墳時代 ・高松塚古墳、キトラ古墳など		
3	03 飛鳥・白鳳時代 ・釈迦三尊像(法隆寺)、弥勒菩薩像(野中寺)など		
4	04 奈良時代:薬師寺と興福寺 ・薬師寺東塔、阿修羅像(興福寺)など		
5	05 奈良時代:東大寺と正倉院 ・不空羂索観音像(東大寺)、鳥毛立女屏風(正倉院)など		
6	06 奈良時代:鑑真来日と唐招提寺 ・鑑真和上像(唐招提寺)、唐招提寺金堂諸像など		
7	07 平安時代:最澄と空海 ・東寺講堂諸像、灌頂歴名(神護寺)など		
8	08 平安時代:摂関政治と平等院 ・平等院鳳凰堂、九体阿弥陀如来像(浄瑠璃寺)など		
9	09 平安時代:院政期の美術 1 ・薬師如来像(仁和寺)、阿弥陀三尊像(長岳寺)など		
10	10 平安時代:院政期の美術 2 ・普賢菩薩像(東京国立博物館)、平家納経(厳島神社)など		
11	11 平安時代:絵巻 ・源氏物語絵巻(徳川美術館・五島美術館)、伴大納言絵巻(出光美術館)など		

12	12 鎌倉・南北朝時代:運慶と快慶 ・大日如来像(円成寺)、阿弥陀三尊像(浄土寺)など
13	13 神護寺三像の問題 ・伝源頼朝像・伝平重盛像・伝藤原光能像(神護寺)
14	14 鎌倉・南北朝時代:天皇と武家 1 ・後鳥羽天皇像(水無瀬神宮)、隨身庭騎絵巻(大倉集古館)など
15	15 鎌倉・南北朝時代:天皇と武家 2 ・伊勢物語絵巻(久保惣記念美術館)、春日権現縁起巻(三の丸尚蔵館)など
16	16 室町時代:足利将軍家と美術 ・足利義満像(鹿苑寺)、融通念仏縁起絵巻(禅林寺)など
17	17 室町時代:雪舟等揚 ・四季山水図(毛利博物館)、天橋立図(京都国立博物館)など
18	18 室町時代:狩野派の登場 ・大徳寺大仙院障壁画、四季花鳥図屏風(白鶴美術館)など
19	19 安土桃山時代:永徳と等伯 ・唐獅子図屏風(三の丸尚蔵館)、松林図屏風(東京国立博物館)など
20	20 江戸時代:豊臣から徳川へ 1 ・二条城障壁画、名古屋城障壁画など
21	21 江戸時代:豊臣から徳川へ 2 ・妙心寺天球院障壁画、雪汀水禽図屏風など
22	22 江戸時代:琳派 1 ・風神雷神図屏風(建仁寺)、紅白梅図屏風(MOA美術館)など
23	23 江戸時代:琳派 2 ・夏秋草図屏風(東京国立博物館)、夏秋溪流図屏風(根津美術館)など
24	24 江戸時代:浮世絵 1 ・喜多川歌麿、東洲斎写楽ほか
25	25 江戸時代:浮世絵 2 ・葛飾北斎、歌川広重ほか
26	26 江戸時代:18世紀の京都 1 ・雪松図屏風(三井記念美術館)、無量寺障壁画など
27	27 江戸時代:18世紀後半の京都 2 ・動植綵絵(三の丸尚蔵館)、雲龍図(ボストン美術館)など
28	28 江戸時代:京都御所 ・京都御所障壁画など
29	29 明治時代:日本画と洋画 ・鮭(東京藝術大学)、無我(東京国立博物館)など
30	30 大正時代以降 ・序の舞(東京藝術大学)、立てる像(神奈川県立近代美術館)など

科目名	日本美術史		年次	0	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期		形態	講義		
教員名	河田 昌之					
クラス名						
授業目的と到達目標						
日本美術を知っていますか?一般に、美術は、自然や生活、政治経済や思想、または海外文化の影響などを受けて形成されます。日本の美術も例外ではなく、独自の美意識が作品に投影されています。具体的な作品をとおして、造形の意義や特徴を学び、作品解説ができるほど日本の美術が好きになることを目指します。						
授業概要						
過去に製作され現在も観ることができる日本美術の作品を取り上げ、パワーポイントの画像を提示しながら、講義します。						
受講上の注意						
講義で取り上げた作品を、できるだけ展覧会に出向いて観賞することを勧めます。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
レポート(定期試験として)				50		
レポート(平常課題)				30		
平常時の授業態度				20		
教科書情報						
教科書1	使用しません。					
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1	日本美術史入門					

出版社名	平凡社	著者名	河野元昭監修
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	日本美術史を学ぶにあたっての基礎知識や時代区分など		
2	縄文時代の美術・・・生活環境、縄文式土器や土偶などの祭祀と美術について		
3	弥生時代の美術・・・生活環境、弥生式土器や青銅器など、ムラの機能と美術について		
4	古墳時代の美術・・・中国との関わり、埴輪、副葬品、古墳壁画など		
5	飛鳥時代の美術 1・・・仏教伝来、仏像、伽藍、寺院など、仏教美術について美術につて		
6	飛鳥時代の美術 2・・・高松塚古墳、工芸品など、海外美術との関わりについて		
7	飛鳥時代の美術 2・・・高松塚古墳、工芸品など、海外美術との関わりについて		
8	奈良時代後期(天平)の美術 1・・・法隆寺、仏像など、仏教美術について		
9	奈良時代後期(天平)の美術 2・・・正倉院の仏教美術や工芸品を中心に		
10	平安時代前期(貞観)の美術 1・・・空海と最澄、真言宗と天台宗など、密教美術について		
11	平安時代前期(貞観)の美術 2・・・三筆と三蹟(さんせき)など、書について		
12	平安時代後期(藤原)の美術 1・・・浄土教、J道長と紫式部など、王朝の美術工芸について		
13	平安時代後期(藤原)の美術 2・・・源氏物語絵巻、伴大納言絵巻、鳥獣人物戯画など		

14	鎌倉時代の美術 1・・・源頼朝と鎌倉、武家文化、似絵(にせえ)など、美術の新生面
15	鎌倉時代の美術 2・・・運慶、快慶、寺院建築など、仏教美術について
16	鎌倉時代の美術 3・・・藤原定家と古典、物語絵、書など、文芸と美術について
17	室町時代の美術 1・・・足利将軍家と中国美術コレクションなど、外来文化の需要について
18	室町時代の美術 2・・・禅宗、雪舟、水墨画、墨蹟(ぼくせき)など、禅林の美術について
19	室町時代の美術 3・・・お伽草子絵など、庶民の美術について
20	桃山時代の美術 1・・・信長、秀吉と戦国武将の美意識、城郭建築など、武士と美術に
21	桃山時代の美術 2・・・千利休、茶の湯など、茶の美術について
22	桃山時代の美術 3・・・金箔と障壁画や屏風など、狩野派と町絵師について
23	江戸時代前期の美術 1・・・俵屋宗達と本阿弥光悦など、装飾と書のコラボの美について
24	江戸時代前期の美術 2・・・南蛮美術と文化など、異国の文物への関心と流行について
25	江戸時代前期の美術 3・・・四条河原遊楽図、歌舞伎図など初期風俗画について
26	江戸時代中期の美術 1・・・尾形光琳と乾山など、琳派の美術について
27	江戸時代中期の美術 2・・・池大雅、与謝蕪村などの文人画と円山応挙などの写生画派について
28	江戸時代後期の美術 1・・・鈴木春信、喜多川歌麿、葛飾北斎、歌川広重など、浮世絵について
29	江戸時代後期の美術 2・・・長沢蘆雪、伊藤若冲、曾我蕭白など、異風の絵師たちについて
30	近代の美術・・・明治期以降の美術の動向

科目名	日本美術史		年次	0	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期		形態	講義		
教員名	河田 昌之					
クラス名						
授業目的と到達目標						
日本美術を知っていますか?一般に、美術は、自然や生活、政治経済や思想、または海外文化の影響などを受けて形成されます。日本の美術も例外ではなく、独自の美意識が作品に投影されています。具体的な作品をとおして、造形の意義や特徴を学び、作品解説ができるほど日本の美術が好きになることを目指します。						
授業概要						
過去に製作され現在も観ることができる日本美術の作品を取り上げ、パワーポイントの画像を提示しながら講義します						
受講上の注意						
講義で取り上げた作品を、できるだけ展覧会に出向いて観賞することを勧めます。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
レポート(定期試験として)				50		
レポート(平常課題)				30		
平常時の授業態度				20		
教科書情報						
教科書1	使用しません。					
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1	日本美術史入門					

出版社名	平凡社	著者名	河野元昭監修
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	日本美術史を学ぶにあたっての基礎知識や時代区分など		
2	縄文時代の美術・・・生活環境、縄文式土器や土偶などの祭祀と美術について		
3	弥生時代の美術・・・生活環境、弥生式土器や青銅器など、ムラの機能と美術について		
4	古墳時代の美術・・・中国との関わり、埴輪、副葬品、古墳壁画など		
5	飛鳥時代の美術 1・・・仏教伝来、仏像、伽藍、寺院など、仏教美術について美術につて		
6	飛鳥時代の美術 2・・・高松塚古墳、工芸品など、海外美術との関わりについて		
7	飛鳥時代の美術 2・・・高松塚古墳、工芸品など、海外美術との関わりについて		
8	奈良時代後期(天平)の美術 1・・・法隆寺、仏像など、仏教美術について		
9	奈良時代後期(天平)の美術 2・・・正倉院の仏教美術や工芸品を中心に		
10	平安時代前期(貞観)の美術 1・・・空海と最澄、真言宗と天台宗など、密教美術について		
11	平安時代前期(貞観)の美術 2・・・三筆と三蹟(さんせき)など、書について		
12	平安時代後期(藤原)の美術 1・・・浄土教、J道長と紫式部など、王朝の美術工芸について		
13	平安時代後期(藤原)の美術 2・・・源氏物語絵巻、伴大納言絵巻、鳥獣人物戯画など		

14	鎌倉時代の美術 1・・・源頼朝と鎌倉、武家文化、似絵(にせえ)など、美術の新生面
15	鎌倉時代の美術 2・・・運慶、快慶、寺院建築など、仏教美術について
16	鎌倉時代の美術 3・・・藤原定家と古典、物語絵、書など、文芸と美術について
17	室町時代の美術 1・・・足利将軍家と中国美術コレクションなど、外来文化の需要について
18	室町時代の美術 2・・・禅宗、雪舟、水墨画、墨蹟(ぼくせき)など、禅林の美術について
19	室町時代の美術 3・・・お伽草子絵など、庶民の美術について
20	桃山時代の美術 1・・・信長、秀吉と戦国武将の美意識、城郭建築など、武士と美術に
21	桃山時代の美術 2・・・千利休、茶の湯など、茶の美術について
22	桃山時代の美術 3・・・金箔と障壁画や屏風など、狩野派と町絵師について
23	江戸時代前期の美術 1・・・俵屋宗達と本阿弥光悦など、装飾と書のコラボの美について
24	江戸時代前期の美術 2・・・南蛮美術と文化など、異国の文物への関心と流行について
25	江戸時代前期の美術 3・・・四条河原遊楽図、歌舞伎図など初期風俗画について
26	江戸時代中期の美術 1・・・尾形光琳と乾山など、琳派の美術について
27	江戸時代中期の美術 2・・・池大雅、与謝蕪村などの文人画と円山応挙などの写生画派について
28	江戸時代後期の美術 1・・・鈴木春信、喜多川歌麿、葛飾北斎、歌川広重など、浮世絵について
29	江戸時代後期の美術 2・・・長沢蘆雪、伊藤若冲、曾我蕭白など、異風の絵師たちについて
30	近代の美術・・・明治期以降の美術の動向

科目名	版画実習 I		年次	1	単位数	3
授業期間	2022 年度 後期		形態	実習		
教員名	安井 寿磨子、梅田 美里					
クラス名						
授業目的と到達目標						
版画制作に必要とする基礎知識や技術を習得すると共に、円滑な大学生活をサポートする。						
授業概要						
対面授業 版画の成り立ちや歴史を学び、それぞれの版種の表現方法や技法を習得する。担当教員はアーティストとしての経験を活かし、版表現の魅力を指導する。						
受講上の注意						
美術館や画廊等で開催されている展覧会の作家や作品研究。欠席届は教員にメールし、次回の実習について確認する。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
課題作品				70		
制作への取り組み				30		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
アーティスト、版画家			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	< 火曜日 > 1. 版画の説明・ラフスケッチ テーマ「自分」 2. 孔版 課題説明 エスキース・版下作成 3. 孔版 製版・刷り 4. 孔版 刷り・解版 5. 凸版の説明・課題説明 6. 凸版 エスキース・彫り 7. 凸版 彫り・摺り 8. デジタル機器を使用した作品制作の説明 9. 課題作品の合評 < 木曜日 > 1. 平版の説明 テーマ「幻想風景」エスキース 2. 平版 描画 3. 平版 描画		

	4. 平版 製版
	5. メゾチントの説明 テーマ「明暗の世界」エスキース
	6. メゾチント 描画
	7. メゾチント 刷り
	8. ドライポ

科目名	版画実習 I		年次	1	単位数	3
授業期間	2022 年度 前期		形態	実習		
教員名	安井 寿磨子、梅田 美里					
クラス名						
授業目的と到達目標						
版画制作に必要とする基礎知識や技術を習得すると共に、円滑な大学生活をサポートする。						
授業概要						
対面授業 版画の成り立ちや歴史を学び、それぞれの版種の表現方法や技法を習得する。担当教員はアーティストとしての経験を活かし、版表現の魅力を指導する。						
受講上の注意						
美術館や画廊等で開催されている展覧会の作家や作品研究。欠席届は教員にメールし、次回の実習について確認する。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
課題作品				70		
制作への取り組み				30		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
アーティスト、版画家			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	< 火曜日 > 1. 版画の説明・ラフスケッチ テーマ「自分」 2. 孔版 課題説明 エスキース・版下作成 3. 孔版 製版・刷り 4. 孔版 刷り・解版 5. 凸版の説明・課題説明 6. 凸版 エスキース・彫り 7. 凸版 彫り・摺り 8. デジタル機器を使用した作品制作の説明 9. 課題作品の合評 < 木曜日 > 1. 平版の説明 テーマ「幻想風景」エスキース 2. 平版 描画 3. 平版 描画		

	4. 平版 製版
	5. メゾチントの説明 テーマ「明暗の世界」エスキース
	6. メゾチント 描画
	7. メゾチント 刷り
	8. ドライポイ

科目名	版画実習 I		年次	1	単位数	3
授業期間	2022 年度 前期		形態	実習		
教員名	安井 寿磨子、梅田 美里					
クラス名						
授業目的と到達目標						
版画制作に必要とする基礎知識や技術を習得すると共に、円滑な大学生活をサポートする。						
授業概要						
対面授業 版画の成り立ちや歴史を学び、それぞれの版種の表現方法や技法を習得する。担当教員はアーティストとしての経験を活かし、版表現の魅力を指導する。						
受講上の注意						
美術館や画廊等で開催されている展覧会の作家や作品研究。欠席届は教員にメールし、次回の実習について確認する。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
課題作品				70		
制作への取り組み				30		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
アーティスト、版画家			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	< 火曜日 > 1. 版画の説明・ラフスケッチ テーマ「自分」 2. 孔版 課題説明 エスキース・版下作成 3. 孔版 製版・刷り 4. 孔版 刷り・解版 5. 凸版の説明・課題説明 6. 凸版 エスキース・彫り 7. 凸版 彫り・摺り 8. デジタル機器を使用した作品制作の説明 9. 課題作品の合評 < 木曜日 > 1. 平版の説明 テーマ「幻想風景」エスキース 2. 平版 描画 3. 平版 描画		

	4. 平版 製版
	5. メゾチントの説明 テーマ「明暗の世界」エスキース
	6. メゾチント 描画
	7. メゾチント 刷り
	8. ドライポイ

科目名	版画実習 I		年次	1	単位数	3
授業期間	2022 年度 後期		形態	実習		
教員名	安井 寿磨子、梅田 美里					
クラス名						
授業目的と到達目標						
版画制作に必要とする基礎知識や技術を習得すると共に、円滑な大学生活をサポートする。						
授業概要						
対面授業 版画の成り立ちや歴史を学び、それぞれの版種の表現方法や技法を習得する。担当教員はアーティストとしての経験を活かし、版表現の魅力を指導する。						
受講上の注意						
美術館や画廊等で開催されている展覧会の作家や作品研究。欠席届は教員にメールし、次回の実習について確認する。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
課題作品				70		
制作への取り組み				30		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
アーティスト、版画家			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	< 火曜日 > 1. 版画の説明・ラフスケッチ テーマ「自分」 2. 孔版 課題説明 エスキース・版下作成 3. 孔版 製版・刷り 4. 孔版 刷り・解版 5. 凸版の説明・課題説明 6. 凸版 エスキース・彫り 7. 凸版 彫り・摺り 8. デジタル機器を使用した作品制作の説明 9. 課題作品の合評 < 木曜日 > 1. 平版の説明 テーマ「幻想風景」エスキース 2. 平版 描画 3. 平版 描画		

	4. 平版 製版
	5. メゾチントの説明 テーマ「明暗の世界」エスキース
	6. メゾチント 描画
	7. メゾチント 刷り
	8. ドライポイ

科目名	美術科指導法Ⅰ	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標

「美術教育」には二つの意味が含まれている。「美術の教育」と「美術による教育」すなわち美術という「技術」教育と、美術という「芸術」を通じての人間形成である。美術科指導法Ⅰでは、美術科教育に関する基礎知識の学びと、模擬授業を通して中学校・高等学校の美術科の指導方法の理解を深める。また、作品制作により評価の場面を設定した学習指導案の作成や作品鑑賞会を通して主体的・対話的で深い学びが創造できる資質の向上を図る。

授業概要

対面授業で行います。中学校学習指導要領解説美術編・高等学校学習指導要領解説芸術編、美術編を理解し、適切な指導と評価計画が作成できる資質の獲得をめざす。美術の表現の知識・技能や鑑賞指導の教材研究と指導方法及び評価方法の研究活動を推進する。美術史の専門性を高めるため、国内外の美術作品や文化遺産についての理解を深め、鑑賞授業の進め方を研究する。

受講上の注意

参考資料や収集資料を丁寧に整理し、授業研究に有効に活用する。わかりやすい授業づくりはどう取り組むかを常に考える習慣をつける。美術科の専門性を高めると意識を持って授業に参加する。授業開始には遅刻せず、はじめと終わりの挨拶はきちんと行う。求められる教師像となる資質の獲得をめざして根気よく取り組む。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
美術科自己進捗評価の記録、美術科学習のまとめ	20
美術科学習指導案	10
模擬授業の評価点	10
作品点・レポート 1.2.3.	30
期末筆記試験	30

教科書情報

教科書1	中学校学習指導要領解説美術編
------	----------------

出版社名	日本文教出版 株式会社	著者名	文部科学省
教科書2	新版日文・美術 1 (美術との出会い)		
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	村上尚徳 他 6 名
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名 1	美術資料(大阪府版)		
出版社名	株式会社 秀学社	著者名	京都市立芸術大学 美術教育研究会
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校教諭 教育委員会指導部中学校教育課指導主事 中学校校長 日本教育美術連盟名誉理事			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	美術科指導法Ⅰの授業目的と到達目標を理解する。教科書研究 1 美術1美術との出会いを研究する。		
2	教科書研究 2 表現および鑑賞の調和のとれた年間学習指導計画作成の重要性を理解する。		
3	美術科学習指導要領を学ぶ。私が考える美術科年間指導計画を作成し提出する。		

4	パソコンなども活用し、私の考える「美術科学習指導案」を研究する。
5	教育実習・校種の美術科学習指導案を完成して提出する。模擬授業の進め方を研究する。
6	模擬授業 1 ⇒ 学習指導案をもとに模擬授業を行う。評価シートで他者の模擬授業を評価する。 模擬授業は表現・鑑賞の領域、パソコン・視聴覚機器の活用等の班分けを行い実施する。
7	模擬授業 2 ⇒ 学習指導案をもとに模擬授業を行う。評価シートで他者の模擬授業を評価する。
8	模擬授業 3 ⇒ 学習指導案をもとに模擬授業を行う。評価シートで他者の模擬授業を評価する。
9	模擬授業 4 ⇒ 学習指導案をもとに模擬授業を行う。評価シートで他者の模擬授業を評価する。
10	模擬授業を振り返り、正しい美術科指導案の作成と、分かりやすい授業について考える。 授業中の態度評価や、制作過程の評価など、評価の観点を活用した総合的な評価を考える。
11	授業者が作品制作を通して評価のあり方を考える。評価の場面や観点を設定した指導案を作成する。 考案した授業の指導と評価について、授業者がしっかりとした授業・評価の計画をたてる。
12	作品制作の要点 1 ⇒ 身近な自然物や人工物などをモデルにそっくりの形状に模造する。
13	作品制作の要点 2 ⇒ 模造した自然物や人工物が本物に近づくよう彩色を工夫する。
14	作品制作の要点 3 ⇒ 模造した自然物や人工物をより本物に近づける最終仕上げを行う。
15	作品鑑賞会 ⇒ 完成作品を相互鑑賞する。全員が作品を鑑賞し 5 作品を選ぶ。 選択された作品制作者は作品制作の工夫点などを紹介する。

科目名	美術科指導法Ⅰ	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標

「美術教育」には二つの意味が含まれている。「美術の教育」と「美術による教育」すなわち美術という「技術」教育と、美術という「芸術」を通じての人間形成である。美術科指導法Ⅰでは、美術科教育に関する基礎知識の学びと、模擬授業を通して中学校・高等学校の美術科の指導方法の理解を深める。また、作品制作により評価の場面を設定した学習指導案の作成や作品鑑賞会を通して主体的・対話的で深い学びが創造できる資質の向上を図る。

授業概要

対面授業で行います。中学校学習指導要領解説美術編・高等学校学習指導要領解説芸術編、美術編を理解し、適切な指導と評価計画が作成できる資質の獲得をめざす。美術の表現の知識・技能や鑑賞指導の教材研究と指導方法及び評価方法の研究活動を推進する。美術史の専門性を高めるため、国内外の美術作品や文化遺産についての理解を深め、鑑賞授業の進め方を研究する。

受講上の注意

参考資料や収集資料を丁寧に整理し、授業研究に有効に活用する。わかりやすい授業づくりはどう取り組むかを常に考える習慣をつける。美術科の専門性を高めるという意識を持って授業に参加する。授業開始には遅刻せず、はじめと終わりの挨拶はきっちりと行う。求められる教師像となる資質の獲得をめざして根気よく取り組む。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
美術科自己進捗評価の記録、美術科学習のまとめ	20
美術科学習指導案	10
模擬授業の評価点	10
作品点・レポート 1.2.3.	30
期末試験	30

教科書情報

教科書1	中学校学習指導要領解説美術編
------	----------------

出版社名	日本文教出版 株式会社	著者名	文部科学省
教科書2	新版日文・美術 1 (美術との出会い)		
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	村上尚徳 他 6 名
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名 1	美術資料(大阪府版)		
出版社名	株式会社 秀学社	著者名	京都市立芸術大学 美術教育研究会
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校教諭 教育委員会指導部中学校教育課指導主事 中学校校長 日本教育美術連盟名誉理事			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	美術科指導法Ⅰの授業目的と到達目標を理解する。教科書研究 1 美術1美術との出会いを研究する。		
2	教科書研究 2 表現および鑑賞の調和のとれた年間学習指導計画作成の重要性を理解する。		
3	美術科学習指導要領を学ぶ。私が考える美術科年間指導計画を作成し提出する。		

4	パソコンなども活用し、私の考える「美術科学習指導案」を研究する。
5	教育実習・校種の美術科学習指導案を完成して提出する。模擬授業の進め方を研究する。
6	模擬授業 1 ⇒ 学習指導案をもとに模擬授業を行う。評価シートで他者の模擬授業を評価する。 模擬授業は表現・鑑賞の領域、パソコン・視聴覚機器の活用等の班分けを行い実施する。
7	模擬授業 2 ⇒ 学習指導案をもとに模擬授業を行う。模評価シートで他者の模擬授業を評価する。
8	模擬授業 3 ⇒ 学習指導案をもとに模擬授業を行う。評価シートで他者の模擬授業を評価する。
9	模擬授業 4 ⇒ 学習指導案をもとに模擬授業を行う。評価シートで他者の模擬授業を評価する。
10	模擬授業を振り返り、正しい美術科指導案の作成と、分かりやすい授業について考える。 授業中の態度評価や、制作過程の評価など、評価の観点を活用した総合的な評価を考える。
11	授業者が作品制作を通して評価のあり方を考える。評価の観点を設定した美術科学習指導案を作成する。
12	作品制作の要点 1 ⇒ 身近な自然物や人工物などをモデルにそっくりの形状に模造する。
13	作品制作の要点 2 ⇒ 模造した自然物や人工物が本物に近づくよう彩色を工夫する。
14	作品制作の要点 3 ⇒ 模造した自然物や人工物をより本物に近づける最終仕上げを行う。
15	作品鑑賞会 ⇒ 完成作品を相互鑑賞する。全員が作品を鑑賞し 5 作品を選ぶ。 選択された作品制作者は作品制作の工夫点などを紹介する。

科目名	美術科指導法Ⅰ	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標

「美術教育」には二つの意味が含まれている。「美術の教育」と「美術による教育」すなわち美術という「技術」教育と、美術という「芸術」を通じての人間形成である。美術科指導法Ⅰでは、美術科教育に関する基礎知識の学びと、模擬授業を通して中学校・高等学校の美術科の指導方法の理解を深める。また、作品制作により評価の場面を設定した学習指導案の作成や作品鑑賞会を通して主体的・対話的で深い学びが創造できる資質の向上を図る。

授業概要

対面授業で行います。中学校学習指導要領解説美術編・高等学校学習指導要領解説芸術編、美術編を理解し、適切な指導と評価計画が作成できる資質の獲得をめざす。美術の表現の知識・技能や鑑賞指導の教材研究と指導方法及び評価方法の研究活動を推進する。美術史の専門性を高めるため、国内外の美術作品や文化遺産についての理解を深め、鑑賞授業の進め方を研究する。

受講上の注意

参考資料や収集資料を丁寧に整理し、授業研究に有効に活用する。わかりやすい授業づくりはどう取り組むかを常に考える習慣をつける。美術科の専門性を高めるという意識を持って授業に参加する。授業開始には遅刻せず、はじめと終わりの挨拶はきっちりと行う。求められる教師像となる資質の獲得をめざして根気よく取り組む。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
美術科自己進捗評価の記録、美術科学習のまとめ	20
美術科学習指導案	10
模擬授業の評価点	10
作品点・レポート 1.2.3.	30
期末試験	30

教科書情報

教科書1	中学校学習指導要領解説美術編
------	----------------

出版社名	日本文教出版 株式会社	著者名	文部科学省
教科書2	新版日文・美術 1 (美術との出会い)		
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	村上尚徳 他 6 名
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	美術資料(大阪府版)		
出版社名	株式会社 秀学社	著者名	京都市立芸術大学 美術教育研究会
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校教諭 教育委員会指導部中学校教育課指導主事 中学校校長 日本教育美術連盟名誉理事			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	美術科指導法Ⅰの授業目的と到達目標を理解する。教科書研究 1 美術1美術との出会いを研究する。		
2	教科書研究 2 表現および鑑賞の調和のとれた年間学習指導計画作成の重要性を理解する。		
3	美術科学習指導要領を学ぶ。私が考える美術科年間指導計画を作成し提出する。		

4	パソコンなども活用し、私の考える「美術科学習指導案」を研究する。
5	教育実習・校種の美術科学習指導案を完成して提出する。模擬授業の進め方を研究する。
6	模擬授業 1 ⇒ 学習指導案をもとに模擬授業を行う。評価シートで他者の模擬授業を評価する。 模擬授業は表現・鑑賞の領域、パソコン・視聴覚機器の活用等の班分けを行い実施する。
7	模擬授業 2 ⇒ 学習指導案をもとに模擬授業を行う。模評価シートで他者の模擬授業を評価する。
8	模擬授業 3 ⇒ 学習指導案をもとに模擬授業を行う。評価シートで他者の模擬授業を評価する。
9	模擬授業 4 ⇒ 学習指導案をもとに模擬授業を行う。評価シートで他者の模擬授業を評価する。
10	模擬授業を振り返り、正しい美術科指導案の作成と、分かりやすい授業について考える。 授業中の態度評価や、制作過程の評価など、評価の観点を活用した総合的な評価を考える。
11	授業者が作品制作を通して評価のあり方を考える。評価の観点を設定した美術科学習指導案を作成する。
12	作品制作の要点 1 ⇒ 身近な自然物や人工物などをモデルにそっくりの形状に模造する。
13	作品制作の要点 2 ⇒ 模造した自然物や人工物が本物に近づくよう彩色を工夫する。
14	作品制作の要点 3 ⇒ 模造した自然物や人工物をより本物に近づける最終仕上げを行う。
15	作品鑑賞会 ⇒ 完成作品を相互鑑賞する。全員が作品を鑑賞し 5 作品を選ぶ。 選択された作品制作者は作品制作の工夫点などを紹介する。

科目名	美術科指導法Ⅱ	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
「美術教育」には二つの意味が含まれている。「美術の教育」と「美術による教育」すなわち美術という「技術」教育と、美術という「芸術」を通じての人間形成である。美術科指導法Ⅱでは美術科教育に関する基礎知識の学びと、模擬授業を通して中学校・高等学校の美術科の指導方法の理解を深める。また、鑑賞映像の視聴を通してこれからの鑑賞教育をどう取り組むかを考察する。さらに、美術史の学びを深め、鑑賞授業の学習指導案を作成し、楽しくわかりやすい鑑賞の授業と評価が創造できる資質の向上を図る。					
授業概要					
対面授業で行います。中学校学習指導要領解説美術編・高等学校学習指導要領解説芸術編・美術編をよく理解し、適切な指導計画と評価計画が作成できる資質の獲得をめざす。美術の表現の知識・技能や鑑賞指導の教材研究と指導方法及び評価方法の研究活動を推進する。美術史の専門性を高めるために、国内外の代表的な美術作品や遺産についての理解を深め鑑賞授業の進め方を研究する。					
受講上の注意					
参考資料や資料収集を丁寧に行い、授業研究に有効に活用する。わかりやすい授業づくりはどう取り組むかを常に考える習慣をつける。美術科の専門性を高めるという意識を持って授業に参加する。授業開始には遅刻せず、はじめと終わりの挨拶をきっちり行う。美術教師に求められる教師像となるための資質の獲得をめざして根気強く取り組む。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
鑑賞教育のワークシート、鑑賞教育レポート			20		
美術科学習指導案(鑑賞教育)			10		
模擬授業の評価点			10		
美術教育レポート1.2.3.			30		
期末筆記試験			30		
教科書情報					
教科書1	中学校学習指導要領解説美術編				

出版社名	日本文教出版 株式会社	著者名	文部科学省
教科書2	新版日文・美術 2.3 上(学びの実感と広がり)		
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	村上尚徳 他 6 名
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	美術資料(大阪府版)		
出版社名	株式会社 秀学社	著者名	京都市立芸術大学 美術教育研究会
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校教諭 教育委員会指導部中学校教育課指導主事 中学校校長 日本教育美術連盟名誉理事			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	美術科の鑑賞教育はどのように進めるのか 1 ⇒ 鑑賞映像「ゲルニカを味わう」を視聴する。 ビジュアル・シンキング・ストラテジーズ(Visual Thinking Strategies)を紹介する。		
2	美術教育の鑑賞教育はどのように進めるのか 2 ⇒ 美術館とつながる鑑賞教材「アートカード」を使って。 国立の美術館の所蔵作品を活用した、アートカードを活用して鑑賞を楽しみながら学ぶ。		

3	美術科の鑑賞教育はどのように進めるのか 3 ⇒ 日本の美術作品を鑑賞しこれからの鑑賞教育を考える。 教科書、美術 2・3 上 学びの実感と広がりを参考に、鑑賞教育について考える。
4	美術科教員に求められる資質 ⇒ 教員採用試験の概要を知る。美術科教員の専門性と資質を理解する。 学習指導要領解説美術編を熟読し、これからの美術教育を考える。
5	美術科の鑑賞教育をどのように進めるのか 5 ⇒ 西洋の美術を鑑賞し、これからの鑑賞教育を考える。 教科書 美術 2・3 下 学びの探求と未来を参考に、鑑賞教育について考える。
6	鑑賞教育を進めるため、生徒の興味関心考えた美術科の鑑賞教育指導案を作成する。教科書・美術 2・3 上 学びの実感と広がり 美術 2・3 下 学びの探求と未来などを参考に鑑賞教育の進め方を考える。
7	美術科の鑑賞領域の模擬授業 1 ⇒ 各自が模擬授業を行い、授業を相互評価する。 参考作品の提示グループ。導入と展開を中心に授業を行う。
8	美術科の鑑賞領域の模擬授業 2 ⇒ 各自が模擬授業を行い、授業を相互評価する。 ワークシートの活用グループ。導入と展開を中心に模擬授業する。
9	美術科の鑑賞領域の模擬授業 3 ⇒ 各自が模擬授業を行い、授業を相互評価する。 視聴覚機器の活用グループ。導入と展開を中心に模擬授業を行う。
10	美術科の鑑賞領域の模擬授業 4 ⇒ 各自が模擬授業を行い、授業を相互評価する。 パワーポイントの活用グループ。導入と展開を中心に模擬授業を行う。
11	美術科の鑑賞領域の模擬授業 5 ⇒ 各自が模擬授業を行い、授業を相互評価する。予備日として設定する。 鑑賞授業のあり方について考える。
12	美術教育の変遷とこれからの美術教育 1 ⇒ 美術教育の歴史と体系について。 美術教育とは何か。日本における「美術の教育」
13	美術教育の変遷とこれからの美術教育 2 ⇒ 美術教育の歴史と体系について。 「臨画」と「自由画」・鉛筆画時代、毛筆画時代、教育的図画時代、自由画教育の使命。
14	美術教育の変遷とこれからの美術教育 3 ⇒ 美術科の鑑賞教育の進め方。 期末筆記試験 後期の講義内容の理解度をはかる。
15	美術教育の変遷とこれからの美術教育 4 ⇒ 生活や社会の中で美術文化と豊かに関わる資質・能力とは。 美術教育と美術・アート、

科目名	美術科指導法Ⅱ	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標

「美術教育」には二つの意味が含まれている。「美術の教育」と「美術による教育」すなわち美術という「技術」教育と、美術という「芸術」を通じての人間形成である。美術科指導法Ⅱでは美術科教育に関する基礎知識の学びと、模擬授業を通して中学校・高等学校の美術科の指導方法の理解を深める。また、鑑賞映像の視聴を通してこれからの鑑賞教育をどう取り組むかを考察する。さらに、美術史の学びを深め、鑑賞授業の学習指導案を作成し、楽しくわかりやすい鑑賞の授業と評価が創造できる資質の向上を図る。|

授業概要

対面授業で行います。中学校学習指導要領解説美術編・高等学校学習指導要領解説芸術編・美術編をよく理解し、適切な指導計画と評価計画が作成できる資質の獲得をめざす。美術の表現の知識・技能や鑑賞指導の教材研究と指導方法及び評価方法の研究活動を推進する。美術史の専門性を高めるために、国内外の代表的な美術作品や遺産についての理解を深め鑑賞授業の進め方を研究する。|

受講上の注意

参考資料や資料収集を丁寧に行い、授業研究に有効に活用する。わかりやすい授業づくりはどう取り組むかを常に考える習慣をつける。美術科の専門性を高めると意識を持って授業に参加する。授業開始には遅刻せず、はじめと終わりの挨拶をきっちり行う。美術教師に求められる教師像となるための資質の獲得をめざして根気強く取り組む。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
鑑賞教育のワークシート、鑑賞教育レポート	20
美術科学習指導案(鑑賞教育)	10
模擬授業の評価点	10
美術教育レポート 1.2.3.	30
期末筆記試験	30

教科書情報

教科書1	中学校学習指導要領解説美術編
------	----------------

出版社名	日本文教出版 株式会社	著者名	文部科学省
教科書2	新版日文・美術 2.3 上(学びの実感と広がり)		
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	村上尚徳 他 6 名
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	美術資料(大阪府版)		
出版社名	株式会社 秀学社	著者名	京都市立芸術大学 美術教育研究会
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校教諭 教育委員会指導部中学校教育課指導主事 中学校校長 日本教育美術連盟名誉理事			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	美術科の鑑賞教育はどのように進めるのか 1 ⇒ 鑑賞映像「ゲルニカを味わう」を視聴する。 ビジュアル・シンキング・ストラテジーズ(Visual Thinking Strategies)を紹介する。		
2	美術教育の鑑賞教育はどのように進めるのか 2 ⇒ 美術館とつながる鑑賞教材「アートカード」を使って。 国立の美術館の所蔵作品を活用した、アートカードを活用して鑑賞を楽しみながら学ぶ。		

3	美術科の鑑賞教育はどのように進めるのか 3 ⇒ 日本の美術作品を鑑賞しこれからの鑑賞教育を考える。 教科書、美術 2・3 上 学びの実感と広がり参考に、鑑賞教育について考える。
4	美術科教員に求められる資質 ⇒ 教員採用試験の概要を知る。美術科教員の専門性と資質を理解する。 学習指導要領解説美術編を熟読し、これからの美術教育を考える。
5	美術科の鑑賞教育をどのように進めるのか 5 ⇒ 西洋の美術を鑑賞し、これからの鑑賞教育を考える。 教科書 美術 2・3 下 学びの探求と未来を参考に、鑑賞教育について考える。
6	鑑賞教育を進めるため、生徒の興味関心考えた美術科の鑑賞教育指導案を作成する。教科書・美術 2・3 上 学びの実感と広がり 美術 2・3 下 学びの探求と未来などを参考に鑑賞教育の進め方を考える。
7	美術科の鑑賞領域の模擬授業 1 ⇒ 各自が模擬授業を行い、授業を相互評価する。 参考作品の提示グループ。導入と展開を中心に授業を行う。
8	美術科の鑑賞領域の模擬授業 2 ⇒ 各自が模擬授業を行い、授業を相互評価する。 ワークシートの活用グループ。導入と展開を中心に模擬授業する。
9	美術科の鑑賞領域の模擬授業 3 ⇒ 各自が模擬授業を行い、授業を相互評価する。 視聴覚機器の活用グループ。導入と展開を中心に模擬授業を行う。
10	美術科の鑑賞領域の模擬授業 4 ⇒ 各自が模擬授業を行い、授業を相互評価する。 パワーポイントの活用グループ。導入と展開を中心に模擬授業を行う。
11	美術科の鑑賞領域の模擬授業 5 ⇒ 各自が模擬授業を行い、授業を相互評価する。予備日として設定する。 鑑賞授業のあり方について考える。
12	美術教育の変遷とこれからの美術教育 1 ⇒ 美術教育の歴史と体系について。 美術教育とは何か。日本における「美術の教育」
13	美術教育の変遷とこれからの美術教育 2 ⇒ 美術教育の歴史と体系について。 「臨画」と「自由画」・鉛筆画時代、毛筆画時代、教育的図画時代、自由画教育の使命。
14	美術教育の変遷とこれからの美術教育 3 ⇒ 美術科の鑑賞教育の進め方。 期末筆記試験 後期の講義内容の理解度をはかる。
15	美術教育の変遷とこれからの美術教育 4 ⇒ 生活や社会の中で美術文化と豊かに関わる資質・能力とは。 美術教育と美術・アート、

科目名	美術科指導法Ⅱ	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標

「美術教育」には二つの意味が含まれている。「美術の教育」と「美術による教育」すなわち美術という「技術」教育と、美術という「芸術」を通じての人間形成である。美術科指導法Ⅱでは美術科教育に関する基礎知識の学びと、模擬授業を通して中学校・高等学校の美術科の指導方法の理解を深める。また、鑑賞映像の視聴を通してこれからの鑑賞教育をどう取り組むかを考察する。さらに、美術史の学びを深め、鑑賞授業の学習指導案を作成し、楽しくわかりやすい鑑賞の授業と評価が創造できる資質の向上を図る。|

授業概要

対面授業で行います。中学校学習指導要領解説美術編・高等学校学習指導要領解説芸術編・美術編をよく理解し、適切な指導計画と評価計画が作成できる資質の獲得をめざす。美術の表現の知識・技能や鑑賞指導の教材研究と指導方法及び評価方法の研究活動を推進する。美術史の専門性を高めるために、国内外の代表的な美術作品や遺産についての理解を深め鑑賞授業の進め方を研究する。|

受講上の注意

参考資料や資料収集を丁寧に行い、授業研究に有効に活用する。わかりやすい授業づくりはどう取り組むかを常に考える習慣をつける。美術科の専門性を高めると意識を持って授業に参加する。授業開始には遅刻せず、はじめと終わりの挨拶をきっちり行う。美術教師に求められる教師像となるための資質の獲得をめざして根気強く取り組む。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
鑑賞教育のワークシート、鑑賞教育レポート	20
美術科学習指導案(鑑賞教育)	10
模擬授業の評価点	10
美術教育レポート 1.2.3.	30
期末筆記試験	30

教科書情報

教科書1	中学校学習指導要領解説美術編
------	----------------

出版社名	日本文教出版 株式会社	著者名	文部科学省
教科書2	新版日文・美術 2.3 上(学びの実感と広がり)		
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	村上尚徳 他 6 名
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	美術資料(大阪府版)		
出版社名	株式会社 秀学社	著者名	京都市立芸術大学 美術教育研究会
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校教諭 教育委員会指導部中学校教育課指導主事 中学校校長 日本教育美術連盟名誉理事			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	美術科の鑑賞教育はどのように進めるのか 1 ⇒ 鑑賞映像「ゲルニカを味わう」を視聴する。 ビジュアル・シンキング・ストラテジーズ(Visual Thinking Strategies)を紹介する。		
2	美術教育の鑑賞教育はどのように進めるのか 2 ⇒ 美術館とつながる鑑賞教材「アートカード」を使って。 国立の美術館の所蔵作品を活用した、アートカードを活用して鑑賞を楽しみながら学ぶ。		

3	美術科の鑑賞教育はどのように進めるのか 3 ⇒ 日本の美術作品を鑑賞しこれからの鑑賞教育を考える。 教科書、美術 2・3 上 学びの実感と広がり参考に、鑑賞教育について考える。
4	美術科教員に求められる資質 ⇒ 教員採用試験の概要を知る。美術科教員の専門性と資質を理解する。 学習指導要領解説美術編を熟読し、これからの美術教育を考える。
5	美術科の鑑賞教育をどのように進めるのか 5 ⇒ 西洋の美術を鑑賞し、これからの鑑賞教育を考える。 教科書 美術 2・3 下 学びの探求と未来を参考に、鑑賞教育について考える。
6	鑑賞教育を進めるため、生徒の興味関心考えた美術科の鑑賞教育指導案を作成する。教科書・美術 2・3 上 学びの実感と広がり 美術 2・3 下 学びの探求と未来などを参考に鑑賞教育の進め方を考える。
7	美術科の鑑賞領域の模擬授業 1 ⇒ 各自が模擬授業を行い、授業を相互評価する。 参考作品の提示グループ。導入と展開を中心に授業を行う。
8	美術科の鑑賞領域の模擬授業 2 ⇒ 各自が模擬授業を行い、授業を相互評価する。 ワークシートの活用グループ。導入と展開を中心に模擬授業する。
9	美術科の鑑賞領域の模擬授業 3 ⇒ 各自が模擬授業を行い、授業を相互評価する。 視聴覚機器の活用グループ。導入と展開を中心に模擬授業を行う。
10	美術科の鑑賞領域の模擬授業 4 ⇒ 各自が模擬授業を行い、授業を相互評価する。 パワーポイントの活用グループ。導入と展開を中心に模擬授業を行う。
11	美術科の鑑賞領域の模擬授業 5 ⇒ 各自が模擬授業を行い、授業を相互評価する。予備日として設定する。 鑑賞授業のあり方について考える。
12	美術教育の変遷とこれからの美術教育 1 ⇒ 美術教育の歴史と体系について。 美術教育とは何か。日本における「美術の教育」
13	美術教育の変遷とこれからの美術教育 2 ⇒ 美術教育の歴史と体系について。 「臨画」と「自由画」・鉛筆画時代、毛筆画時代、教育的図画時代、自由画教育の使命。
14	美術教育の変遷とこれからの美術教育 3 ⇒ 美術科の鑑賞教育の進め方。 期末筆記試験 後期の講義内容の理解度をはかる。
15	美術教育の変遷とこれからの美術教育 4 ⇒ 生活や社会の中で美術文化と豊かに関わる資質・能力とは。 美術教育と美術・アート、

科目名	美術科指導法Ⅲ	年次	3	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標

中学校学習指導要領美術編の教科の目標には「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、創造的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す」と示されている。美術科指導法Ⅲでは、美術科教育に関する基礎知識の学びと実践研究を通して中学校・高等学校の美術科指導の理解を深め、模擬授業や相互鑑賞会を通じて、主体的・対話的で深い学びが実践できる資質の獲得をめざす。

授業概要

対面授業で行います。学習指導要領をよく理解し、適切な学習指導案が作成できる資質の獲得をめざす。美術の表現の知識・技能や鑑賞指導の研究を深めるための教材研究と指導方法および評価方法の研究活動を推進する。美術史の専門性を高めるため、国内外の美術作品や文化遺産等の美術史的知識と現代美術に関する知識の習得を図る。

受講上の注意

中学校学習指導要領美術編・高等学校学習指導要領芸術編・美術編をよく理解し、正しい学習指導案を作成できる資質の獲得をめざす。美術の表現の知識・技能や鑑賞指導の研究を深めるための教材研究と、指導と評価の研究活動を推進する。国内外の代表的な美術作品についての美術史の理解を深める。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
美術科学習指導案	10
模擬授業の評価点	10
美術科自己進捗評価の記録、美術科学習のまとめ、篆刻作品点	30
美術教育レポート 1.2. 3	20
期末筆記試験	30

教科書情報

教科書1	中学校学習指導要領解説美術編		
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	文部科学省

教科書2	新版日文・美術 2.3 下 (学びの探求と未来)		
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	村上尚徳 他 6 名
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	美術資料(大阪府版)		
出版社名	株式会社 秀学社	著者名	京都市立芸術大学美術教育研究会
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校教諭 教育委員会指導部中学校教育課指導主事 中学校校長 日本教育美術連盟名誉理事			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	美術科指導法Ⅲの授業目標と到達目標を知る。授業の方針と授業の概要について理解する。 学習指導要領・美術編を学ぶ。美術科の目標を理解する。		
2	美術科の目標を十分に理解し、B 様式で分かりやすい美術科学習指導案を作成する。パソコンを活用し、 読みやすく、理解しやすい学習指導案を作成する。ワークシートや補助資料を添付するのも良い。		

3	模擬授業 1 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。他者の模擬授業を 5 段階で評価する。 PC スライドショー、視聴覚機器の活用、参考資料提示 等の グループ分けを行い円滑に進行する。
4	模擬授業 2 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。他者の模擬授業を 5 段階で評価する。 様々な美術科学習指導案を参考に、美術科の指導と評価を考える。
5	模擬授業 3 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。他者の模擬授業を 5 段階で評価する。 導入時の話し方、参考作品の提示。展開時の生徒の学習活動をどう支援するかを考える。
6	模擬授業 4 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。予備日。美術科学習指導案の記入の仕方や 評価の観点、評価の場面等を指導案に反映する。展開時の生徒への励ましの言葉や机間指導を考える。
7	篆刻をつくる 1 ⇒ 自ら作品を制作することで評価の観点を盛り込んだ美術科学習指導案の作成を考える。 美術科自己進捗評価の記録 (Fine arts check card) に記入することで毎週の学習態度を自己評価する。
8	篆刻をつくる 2 ⇒ 自ら作品を制作することで評価を考える。篆刻の印面デザインや、印面のためし押しを レポート 1.2.として確認する。記入して提出することで制作過程を評価することを学ぶ。
9	篆刻をつくる 3 ⇒ 自ら作品を制作することで評価を考える。篆刻制作の学習の流れを 10 段階に整理し制作 過程の各段階の目標を明確にして、自己評価する。(10 段階ステップ学習)
10	篆刻をつくる 4 ⇒ 授業での参考作品の提示や自己進捗評価の記録など、総合的な評価について考える。 ワークシートの活用研究。美術科学習の記録に記入することで、題材の振り返りや学習のまとめを行う。
11	篆刻をつくる 5 ⇒ 篆刻作品相互鑑賞会を行う。履修者の各自が展示作品のベスト 5 を選び付箋を貼る。 完成した篆刻作品を相互に鑑賞し、篆刻作品の工夫点や制作の意図などを発表し相互評価を行う。
12	美術鑑賞教材の研究 1 ⇒ 日本・西洋美術のながれや、鑑賞の DVD 映像による鑑賞授業や美術館における ギャラリートーク、対話型鑑賞について学ぶ。
13	美術鑑賞教材の研究 2 ⇒ 日本の美術、浮世絵作品の研究や Japonism について学ぶ。DVD 映像による鑑賞 授業や美術館における対話型鑑賞を学ぶ。
14	美術科指導法Ⅲの振り返り ⇒ 授業 今後の鑑賞教育のあり方について。授業内期末試験 ⇒ 美術科指導法 Ⅲの理解度をはかり、今後の授業改善に活用する。期末試験は美術科指導法Ⅲの授業内容から出題する。
15	美術や美術文化を学び、豊かな人生を送るために美術科として育てる力と美術教育について考える。 美術教育関係者の言葉、各界のスペシャリストの造形表現・図画工作・美術教育への言葉を学ぶ。

科目名	美術科指導法Ⅲ	年次	3	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標

中学校学習指導要領美術編の教科の目標には「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、創造的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す」と示されている。美術科指導法Ⅲでは、美術科教育に関する基礎知識の学びと実践研究を通して中学校・高等学校の美術科指導の理解を深め、模擬授業や相互鑑賞会を通じて、主体的・対話的で深い学びが実践できる資質の獲得をめざす。

授業概要

対面授業で行います。学習指導要領をよく理解し、適切な学習指導案が作成できる資質の獲得をめざす。美術の表現の知識・技能や鑑賞指導の研究を深めるための教材研究と指導方法および評価方法の研究活動を推進する。美術史の専門性を高めるため、国内外の美術作品や文化遺産等の美術史的知識と現代美術に関する知識の習得を図る。

受講上の注意

中学校学習指導要領美術編・高等学校学習指導要領芸術編・美術編をよく理解し、正しい学習指導案を作成できる資質の獲得をめざす。美術の表現の知識・技能や鑑賞指導の研究を深めるための教材研究と、指導と評価の研究活動を推進する。国内外の代表的な美術作品についての美術史の理解を深める。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
美術科学習指導案	10
模擬授業の評価点	10
美術科自己進捗評価の記録、美術科学習のまとめ、篆刻作品点	30
美術教育レポート 1.2. 3	20
期末筆記試験	30

教科書情報

教科書1	中学校学習指導要領解説美術編		
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	文部科学省

教科書2	新版日文・美術 2.3 下 (学びの探求と未来)		
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	村上尚徳 他 6 名
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	美術資料(大阪府版)		
出版社名	株式会社 秀学社	著者名	京都市立芸術大学美術教育研究会
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校教諭 教育委員会指導部中学校教育課指導主事 中学校校長 日本教育美術連盟名誉理事			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	美術科指導法Ⅲの授業目標と到達目標を知る。授業の方針と授業の概要について理解する。 学習指導要領・美術編を学ぶ。美術科の目標を理解する。		
2	美術科の目標を十分に理解し、B 様式で分かりやすい美術科学習指導案を作成する。パソコンを活用し、 読みやすく、理解しやすい学習指導案を作成する。ワークシートや補助資料を添付するのも良い。		

3	模擬授業 1 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。他者の模擬授業を 5 段階で評価する。 PC スライドショー、視聴覚機器の活用、参考資料提示 等の グループ分けを行い円滑に進行する。
4	模擬授業 2 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。他者の模擬授業を 5 段階で評価する。 様々な美術科学習指導案を参考に、美術科の指導と評価を考える。
5	模擬授業 3 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。他者の模擬授業を 5 段階で評価する。 導入時の話し方、参考作品の提示。展開時の生徒の学習活動をどう支援するかを考える。
6	模擬授業 4 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。予備日。美術科学習指導案の記入の仕方や 評価の観点、評価の場面等を指導案に反映する。展開時の生徒への励ましの言葉や机間指導を考える。
7	篆刻をつくる 1 ⇒ 自ら作品を制作することで評価の観点を盛り込んだ美術科学習指導案の作成を考える。 美術科自己進捗評価の記録 (Fine arts check card) に記入することで毎週の学習態度を自己評価する。
8	篆刻をつくる 2 ⇒ 自ら作品を制作することで評価を考える。篆刻の印面デザインや、印面のためし押しを レポート 1.2.として確認する。記入して提出することで制作過程を評価することを学ぶ。
9	篆刻をつくる 3 ⇒ 自ら作品を制作することで評価を考える。篆刻制作の学習の流れを 10 段階に整理し制作 過程の各段階の目標を明確にして、自己評価する。(10 段階ステップ学習)
10	篆刻をつくる 4 ⇒ 授業での参考作品の提示や自己進捗評価の記録など、総合的な評価について考える。 ワークシートの活用研究。美術科学習の記録に記入することで、題材の振り返りや学習のまとめを行う。
11	篆刻をつくる 5 ⇒ 篆刻作品相互鑑賞会を行う。履修者の各自が展示作品のベスト 5 を選び付箋を貼る。 完成した篆刻作品を相互に鑑賞し、篆刻作品の工夫点や制作の意図などを発表し相互評価を行う。
12	美術鑑賞教材の研究 1 ⇒ 日本・西洋美術のながれや、鑑賞の DVD 映像による鑑賞授業や美術館における ギャラリートーク、対話型鑑賞について学ぶ。
13	美術鑑賞教材の研究 2 ⇒ 日本の美術、浮世絵作品の研究や Japonism について学ぶ。DVD 映像による鑑賞 授業や美術館における対話型鑑賞を学ぶ。
14	美術科指導法Ⅲの振り返り ⇒ 授業 今後の鑑賞教育のあり方について。授業内期末試験 ⇒ 美術科指導法 Ⅲの理解度をはかり、今後の授業改善に活用する。期末試験は美術科指導法Ⅲの授業内容から出題する。
15	美術や美術文化を学び、豊かな人生を送るために美術科として育てる力と美術教育について考える。 美術教育関係者の言葉、各界のスペシャリストの造形表現・図画工作・美術教育への言葉を学ぶ。

科目名	美術科指導法Ⅲ	年次	3	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標

中学校学習指導要領美術編の教科の目標には「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、創造的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す」と示されている。美術科指導法Ⅲでは、美術科教育に関する基礎知識の学びと実践研究を通して中学校・高等学校の美術科指導の理解を深め、模擬授業や相互鑑賞会を通じて、主体的・対話的で深い学びが実践できる資質の獲得をめざす。

授業概要

対面授業で行います。学習指導要領をよく理解し、適切な学習指導案が作成できる資質の獲得をめざす。美術の表現の知識・技能や鑑賞指導の研究を深めるための教材研究と指導方法および評価方法の研究活動を推進する。美術史の専門性を高めるため、国内外の美術作品や文化遺産等の美術史的知識と現代美術に関する知識の習得を図る。

受講上の注意

中学校学習指導要領美術編・高等学校学習指導要領芸術編・美術編をよく理解し、正しい学習指導案を作成できる資質の獲得をめざす。美術の表現の知識・技能や鑑賞指導の研究を深めるための教材研究と、指導と評価の研究活動を推進する。国内外の代表的な美術作品についての美術史の理解を深める。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
美術科学習指導案	10
模擬授業の評価点	10
美術科自己進捗評価の記録、美術科学習のまとめ、篆刻作品点	30
美術教育レポート 1.2. 3	20
期末筆記試験	30

教科書情報

教科書1	中学校学習指導要領解説美術編		
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	文部科学省

教科書2	新版日文・美術 2.3 下 (学びの探求と未来)		
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	村上尚徳 他 6 名
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	美術資料(大阪府版)		
出版社名	株式会社 秀学社	著者名	京都市立芸術大学美術教育研究会
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校教諭 教育委員会指導部中学校教育課指導主事 中学校校長 日本教育美術連盟名誉理事			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	美術科指導法Ⅲの授業目標と到達目標を知る。授業の方針と授業の概要について理解する。 学習指導要領・美術編を学ぶ。美術科の目標を理解する。		
2	美術科の目標を十分に理解し、B 様式で分かりやすい美術科学習指導案を作成する。パソコンを活用し、 読みやすく、理解しやすい学習指導案を作成する。ワークシートや補助資料を添付するのも良い。		

3	模擬授業 1 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。他者の模擬授業を 5 段階で評価する。 PC スライドショー、視聴覚機器の活用、参考資料提示 等の グループ分けを行い円滑に進行する。
4	模擬授業 2 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。他者の模擬授業を 5 段階で評価する。 様々な美術科学習指導案を参考に、美術科の指導と評価を考える。
5	模擬授業 3 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。他者の模擬授業を 5 段階で評価する。 導入時の話し方、参考作品の提示。展開時の生徒の学習活動をどう支援するかを考える。
6	模擬授業 4 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。予備日。美術科学習指導案の記入の仕方や 評価の観点、評価の場面等を指導案に反映する。展開時の生徒への励ましの言葉や机間指導を考える。
7	篆刻をつくる 1 ⇒ 自ら作品を制作することで評価の観点を盛り込んだ美術科学習指導案の作成を考える。 美術科自己進捗評価の記録 (Fine arts check card) に記入することで毎週の学習態度を自己評価する。
8	篆刻をつくる 2 ⇒ 自ら作品を制作することで評価を考える。篆刻の印面デザインや、印面のためし押しを レポート 1.2.として確認する。記入して提出することで制作過程を評価することを学ぶ。
9	篆刻をつくる 3 ⇒ 自ら作品を制作することで評価を考える。篆刻制作の学習の流れを 10 段階に整理し制作 過程の各段階の目標を明確にして、自己評価する。(10 段階ステップ学習)
10	篆刻をつくる 4 ⇒ 授業での参考作品の提示や自己進捗評価の記録など、総合的な評価について考える。 ワークシートの活用研究。美術科学習の記録に記入することで、題材の振り返りや学習のまとめを行う。
11	篆刻をつくる 5 ⇒ 篆刻作品相互鑑賞会を行う。履修者の各自が展示作品のベスト 5 を選び付箋を貼る。 完成した篆刻作品を相互に鑑賞し、篆刻作品の工夫点や制作の意図などを発表し相互評価を行う。
12	美術鑑賞教材の研究 1 ⇒ 日本・西洋美術のながれや、鑑賞の DVD 映像による鑑賞授業や美術館における ギャラリートーク、対話型鑑賞について学ぶ。
13	美術鑑賞教材の研究 2 ⇒ 日本の美術、浮世絵作品の研究や Japonism について学ぶ。DVD 映像による鑑賞 授業や美術館における対話型鑑賞を学ぶ。
14	美術科指導法Ⅲの振り返り ⇒ 授業 今後の鑑賞教育のあり方について。授業内期末試験 ⇒ 美術科指導法 Ⅲの理解度をはかり、今後の授業改善に活用する。期末試験は美術科指導法Ⅲの授業内容から出題する。
15	美術や美術文化を学び、豊かな人生を送るために美術科として育てる力と美術教育について考える。 美術教育関係者の言葉、各界のスペシャリストの造形表現・図画工作・美術教育への言葉を学ぶ。

科目名	美術科指導法Ⅳ	年次	3	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	田中 圭一				
クラス名	【19以降生対象】 中学免許必須 高校免許選択				
授業目的と到達目標					
美術科指導法Ⅳでは、美術科教育に関する基礎知識の学びと実践研究を通して、中学校・高等学校の美術科の指導方法の理解と研究を進める。具体的には、「指導と評価の場面を考察した学習指導案」を作成した模擬授業や作品制作等を通して質の高い授業が創造できる資質・能力の育成を目指す。					
授業概要					
「対面授業」 ○新学習指導要領を理解し適切な指導計画及び評価計画を作成する。 ○美術教育における基礎的な知識・技能を身につけ、教材研究と指導方法および評価方法を研究する。 ○学習指導案を作成し、グループ発表形式の模擬授業により、生徒にとって「わかりやす授業」「楽しい授業」とは何かを考察する。 ○作品制作等を通じて指導と評価についての研究を深め、教材化を図る。					
受講上の注意					
○美術科を指導する教師としての専門性を高めるという意識をもって参加する。 ○配布資料はきちんとファイルし、教科書とともに毎時間持参する。 ○模擬授業を行う時の参考作品や説明資料及び演習での材料・道具などは各自が準備する。 ○「振り返りシート」等、記録する習慣をつけ、授業の成果と課題を明確にできるよう整理する。 ○授業の始業には遅刻せず、はじめと終わりの挨拶をきっちりと行う。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
模擬授業			25		
美術科学習指導案			25		
主体的に授業に取り組む態度及びレポート等			20		
作品制作			30		
教科書情報					
教科書1	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 美術編				
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	文部科学省		
教科書2					

出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
○公立中学校美術科教諭 ○教育委員会指導主事 ○公立中学校教頭 ○公立中学校校長 ○公立小学校校長(現職) ○行動美術協会会員 ○日本美術家連盟会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	○「美術科指導法Ⅲ」ガイダンス 授業目的と到達目標を知る。 授業の方針と授業の概要について理解する。		
2	○新学習指導要領解説美術編の内容について 改訂の背景と意義について理解する。		
3	○学習指導計画等について 各学年の年間指導計画及び美術科学習指導案について理解する。		
4	○美術科学習指導案作成 自分の得意題材の美術科学習指導案を作成し提出する。		

5	○模擬授業1 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う。 わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。
6	○模擬授業2 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う。 わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。
7	○模擬授業3 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う。 わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。
8	○模擬授業4 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う。 わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。
9	○表現教材の研究→「音楽と美術のハーモニー」～音・形・色～ 抽象表現を通して表現の多様性を学ぶ。
10	○表現教材の研究→「自画像」1 デッサンで自画像を描く。 作品制作から評価の観点を考える。
11	○表現教材の研究→「自画像」2 前時のデッサンをもとに水彩絵の具等で心象を含めた自画像を制作する。 作品の制作に集中させる言葉がけを考える。
12	○表現教材の研究→「自画像」3 制作意欲を高める工夫について考える。 技法について工夫する。
13	○表現教材の研究→「自画像」4 制作された作品を展示する。 作品制作の過程について発表し相互評価を行う。
14	○鑑賞教材の研究1 映像等による鑑賞、アートカードを使った鑑賞、美術館を活用した鑑賞、対話型鑑賞等について学ぶ。
15	○鑑賞教材の研究2 学習環境の整備や校内作品展示の工夫等について学ぶ。 ○美術科経営の理念について 学校現場で活躍する先輩教員から学ぶ。 ○授業全体の振り返りとまとめ

科目名	美術科指導法Ⅳ	年次	3	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	田中 圭一				
クラス名	【19以降生対象】 中学免許必須 高校免許選択				
授業目的と到達目標					
美術科指導法Ⅳでは、美術科教育に関する基礎知識の学びと実践研究を通して、中学校・高等学校の美術科の指導方法の理解と研究を進める。具体的には、「指導と評価の場面を考察した学習指導案」を作成した模擬授業や作品制作等を通して質の高い授業が創造できる資質・能力の育成を目指す。					
授業概要					
「対面授業」 ○新学習指導要領を理解し適切な指導計画及び評価計画を作成する。 ○美術教育における基礎的な知識・技能を身につけ、教材研究と指導方法および評価方法を研究する。 ○学習指導案を作成し、グループ発表形式の模擬授業により、生徒にとって「わかりやす授業」「楽しい授業」とは何かを考察する。 ○作品制作等を通じて指導と評価についての研究を深め、教材化を図る。					
受講上の注意					
○美術科を指導する教師としての専門性を高めるという意識をもって参加する。 ○配布資料はきちんとファイルし、教科書とともに毎時間持参する。 ○模擬授業を行う時の参考作品や説明資料及び演習での材料・道具などは各自が準備する。 ○「振り返りシート」等、記録する習慣をつけ、授業の成果と課題を明確にできるよう整理する。 ○授業の始業には遅刻せず、はじめと終わりの挨拶をきっちりと行う。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
模擬授業			25		
美術科学習指導案			25		
主体的に授業に取り組む態度及びレポート等			20		
作品制作			30		
教科書情報					
教科書1	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 美術編				
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	文部科学省		
教科書2					

出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
◯公立中学校美術科教諭 ◯教育委員会指導主事 ◯公立中学校教頭 ◯公立中学校校長 ◯公立小学校校長(現職) ◯行動美術協会会員 ◯日本美術家連盟会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	◯「美術科指導法Ⅲ」ガイダンス 授業目的と到達目標を知る。 授業の方針と授業の概要について理解する。		
2	◯新学習指導要領解説美術編の内容について 改訂の背景と意義について理解する。		
3	◯学習指導計画等について 各学年の年間指導計画及び美術科学習指導案について理解する。		
4	◯美術科学習指導案作成 自分の得意題材の美術科学習指導案を作成し提出する。		

5	○模擬授業1 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う。 わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。
6	○模擬授業2 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う。 わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。
7	○模擬授業3 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う。 わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。
8	○模擬授業4 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う。 わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。
9	○表現教材の研究→「音楽と美術のハーモニー」～音・形・色～ 抽象表現を通して表現の多様性を学ぶ。
10	○表現教材の研究→「自画像」1 デッサンで自画像を描く。 作品制作から評価の観点を考える。
11	○表現教材の研究→「自画像」2 前時のデッサンをもとに水彩絵の具等で心象を含めた自画像を制作する。 作品の制作に集中させる言葉がけを考える。
12	○表現教材の研究→「自画像」3 制作意欲を高める工夫について考える。 技法について工夫する。
13	○表現教材の研究→「自画像」4 制作された作品を展示する。 作品制作の過程について発表し相互評価を行う。
14	○鑑賞教材の研究1 映像等による鑑賞、アートカードを使った鑑賞、美術館を活用した鑑賞、対話型鑑賞等について学ぶ。
15	○鑑賞教材の研究2 学習環境の整備や校内作品展示の工夫等について学ぶ。 ○美術科経営の理念について 学校現場で活躍する先輩教員から学ぶ。 ○授業全体の振り返りとまとめ

科目名	美術科指導法Ⅳ	年次	3	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	田中 圭一				
クラス名	【19以降生対象】 中学免許必須 高校免許選択				
授業目的と到達目標					
美術科指導法Ⅳでは、美術科教育に関する基礎知識の学びと実践研究を通して、中学校・高等学校の美術科の指導方法の理解と研究を進める。具体的には、「指導と評価の場面を考察した学習指導案」を作成した模擬授業や作品制作等を通して質の高い授業が創造できる資質・能力の育成を目指す。					
授業概要					
「対面授業」 ○新学習指導要領を理解し適切な指導計画及び評価計画を作成する。 ○美術教育における基礎的な知識・技能を身につけ、教材研究と指導方法および評価方法を研究する。 ○学習指導案を作成し、グループ発表形式の模擬授業により、生徒にとって「わかりやす授業」「楽しい授業」とは何かを考察する。 ○作品制作等を通じて指導と評価についての研究を深め、教材化を図る。					
受講上の注意					
○美術科を指導する教師としての専門性を高めるという意識をもって参加する。 ○配布資料はきちんとファイルし、教科書とともに毎時間持参する。 ○模擬授業を行う時の参考作品や説明資料及び演習での材料・道具などは各自が準備する。 ○「振り返りシート」等、記録する習慣をつけ、授業の成果と課題を明確にできるよう整理する。 ○授業の始業には遅刻せず、はじめと終わりの挨拶をきっちりと行う。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
模擬授業			25		
美術科学習指導案			25		
主体的に授業に取り組む態度及びレポート等			20		
作品制作			30		
教科書情報					
教科書1	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 美術編				
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	文部科学省		
教科書2					

出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
○公立中学校美術科教諭 ○教育委員会指導主事 ○公立中学校教頭 ○公立中学校校長 ○公立小学校校長(現職) ○行動美術協会会員 ○日本美術家連盟会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	○「美術科指導法Ⅲ」ガイダンス 授業目的と到達目標を知る。 授業の方針と授業の概要について理解する。		
2	○新学習指導要領解説美術編の内容について 改訂の背景と意義について理解する。		
3	○学習指導計画等について 各学年の年間指導計画及び美術科学習指導案について理解する。		
4	○美術科学習指導案作成 自分の得意題材の美術科学習指導案を作成し提出する。		

5	○模擬授業1 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う。 わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。
6	○模擬授業2 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う。 わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。
7	○模擬授業3 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う。 わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。
8	○模擬授業4 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う。 わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。
9	○表現教材の研究→「音楽と美術のハーモニー」～音・形・色～ 抽象表現を通して表現の多様性を学ぶ。
10	○表現教材の研究→「自画像」1 デッサンで自画像を描く。 作品制作から評価の観点を考える。
11	○表現教材の研究→「自画像」2 前時のデッサンをもとに水彩絵の具等で心象を含めた自画像を制作する。 作品の制作に集中させる言葉がけを考える。
12	○表現教材の研究→「自画像」3 制作意欲を高める工夫について考える。 技法について工夫する。
13	○表現教材の研究→「自画像」4 制作された作品を展示する。 作品制作の過程について発表し相互評価を行う。
14	○鑑賞教材の研究1 映像等による鑑賞、アートカードを使った鑑賞、美術館を活用した鑑賞、対話型鑑賞等について学ぶ。
15	○鑑賞教材の研究2 学習環境の整備や校内作品展示の工夫等について学ぶ。 ○美術科経営の理念について 学校現場で活躍する先輩教員から学ぶ。 ○授業全体の振り返りとまとめ

科目名	美術鑑賞論	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名	【18以降生対象】				
授業目的と到達目標					
美術作品を幅広く受け入れて、それぞれの良さを味わい、造形への理解を深めるとともに、美術への関心を高めることが授業目的である。その過程で、多くの作品に触れながら自己を発見し、造形思考を磨いて豊かな鑑賞力を身につけることが到達目標である。					
授業概要					
対面授業で行う。西洋の美術、日本の美術、前衛美術、身近な美術を鑑賞対象とし、豊富な視覚資料をスライドショーで提示して「考えながら見る」習慣を徐々に身に着けさせていく。その際に比較鑑賞や細部鑑賞を活用して、作品の造形的本質に迫っていく。教師の問いかけに受講生が答える対話形式で理解を深めていく授業形態なので、受講生には積極的な意見発表が求められる。なお、授業者は長年にわたり鑑賞教育に携わり、著書や多数の論文を執筆している。					
受講上の注意					
事前に予備知識を入れる必要はありませんが、とにかく授業に集中して参加し、気づいたことや考えたことをメモしておき、レポート作成に備えてください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
3回の授業レポートと授業に取り組む姿勢を総合して評価する。			100		
教科書情報					
教科書1	美との対話－鑑賞への誘い－				
出版社名	日本文教出版	著者名	泉谷淑夫		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	日本美術 101 西洋美術 101		
出版社名	三元社	著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
全部の講義に出席していても「授業のまとめレポート」の記述内容から、著しく学んでいないと判断された場合は 不可になります。 3 回のレポートの合格ラインはいずれも 60%です。			
教員実務経験			
教員は長年にわたって絵画制作と並行して、実践的な鑑賞教育について研究し、著書や論文も著している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 美術鑑賞入門 比較鑑賞トレーニング		
2	西洋美術入門① 『ヴァン・エイクの超絶技巧』 油絵の完成者と称されるヴァン・エイクを取り上げ て、細部鑑賞を駆使して 初期作品から代表作までアプローチし、100 年後のホルバインとの細密画 対決も試みる。		
3	西洋美術入門② 『カラヴァッジョの光と闇』 バロックの創始者カラヴァッジョを取り上げ、人生と画 業の「光と闇」に スポットを当てる。画業では彼が開発した対比明暗法と写實的描写力に肉薄す る。		

4	西洋美術入門③『比較鑑賞で読み解くミレーの《落穂拾い》』日本でもよく知られた名画《落穂拾い》に焦点を当て、様々な類似作との比較鑑賞を通して、ミレーの《落穂拾い》の造形的本質と作者の作画意図を読み解いていく。
5	授業のまとめレポート① 西洋美術の3回の講義のそれぞれから「学んだことや考えたこと」を文章記述する。「好きな作品」調査(必ず教科書を用意しておくこと)
6	日本美術入門①『UKB52って何?』美術の世界では単体作品で鑑賞者に訴えかけるものと、集合作品で訴えかけるものがある。ここでは後者の例として意外性に富んだ作を取り上げ、現代的視点からアプローチしていく。
7	日本美術入門②『どっちがスゴイ? 応挙 VS 若冲』日本美術が熟成した江戸時代中期の代表的絵師、円山応挙と伊藤若冲。この二人の作品を徹底比較鑑賞し、どちらがスゴイのかを受講生に判定してもらう90分。
8	日本美術入門③『歌麿美人画 人気の秘密』浮世絵版画を当時の出版事情から読み解いていく企画で、歌麿の美人画に焦点を当て、比較鑑賞でその代表作の人気の秘密に迫り、今も変わらぬファン心理を明らかにしていく。
9	授業のまとめレポート② 日本美術の3回の講義のそれぞれから「学んだことや考えたこと」を文章記述する。DVD鑑賞: 講義に関係した内容のDVDを上映し、視聴する。
10	前衛美術入門①『時代錯誤? ダリの宗教画』シュルレアリストのダリが後半生に描いた宗教画に焦点を当て、ダリを宗教画に導いた経緯を詳しく紹介し、宗教画の代表作をじっくりと鑑賞していく。
11	前衛美術入門②『リクテンスタインの冷めた革命』西洋近代美術トラブル史を紹介した後、マンガを芸術に変えたリクテンスタインのマジックを、マンガの原画との比較鑑賞を通して種明かししていく。
12	身近な美術入門①『ロックウエルの演出を読み解く』ロックウエルはまず情景写真を撮り、そこから下絵を起こして完成作へと向かっていく。そこで元写真や下絵と完成作との比較鑑賞で、ロックウエルの演出意図を読み解いていく。
13	身近な美術入門②『文字なし絵本への招待』絵本への新しいアプローチと絵本の鑑賞法を紹介した後、文字なし絵本の秀作をいくつか紹介し、受講生とともにじっくり読み解いていく。
14	授業のまとめレポート③ 前衛美術入門の2回の講義と身近な美術入門の2回の講義のそれぞれから「学んだことや考えたこと」を文章記述する。DVD鑑賞: 講義に関係した内容のDVDを上映し、視聴する。
15	好きな作品調査のまとめ 好きな作品調査の結果から傾向分析をし、人気の高かったいくつかの作品について解説する 授業アンケート: 11回の講義に関する独自のアンケートを実施する。

科目名	美術鑑賞論	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名	【18以降生対象】				
授業目的と到達目標					
美術作品を幅広く受け入れて、それぞれの良さを味わい、造形への理解を深めるとともに、美術への関心を高めることが授業目的である。その過程で、多くの作品に触れながら自己を発見し、造形思考を磨いて豊かな鑑賞力を身につけることが到達目標である。					
授業概要					
対面授業で行う。西洋の美術、日本の美術、前衛美術、身近な美術を鑑賞対象とし、豊富な視覚資料をスライドショーで提示して「考えながら見る」習慣を徐々に身に着けさせていく。その際に比較鑑賞や細部鑑賞を活用して、作品の造形的本質に迫っていく。教師の問いかけに受講生が答える対話形式で理解を深めていく授業形態なので、受講生には積極的な意見発表が求められる。なお、授業者は長年にわたり鑑賞教育に携わり、著書や多数の論文を執筆している。					
受講上の注意					
事前に予備知識を入れる必要はありませんが、とにかく授業に集中して参加し、気づいたことや考えたことをメモしておき、レポート作成に備えてください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
3回の授業レポートと授業に取り組む姿勢を総合して評価する。			100		
教科書情報					
教科書1	美との対話－鑑賞への誘い－				
出版社名	日本文教出版	著者名	泉谷淑夫		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	日本美術 101 西洋美術 101		
出版社名	三元社	著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
全部の講義に出席していても「授業のまとめレポート」の記述内容から、著しく学んでいないと判断された場合は不可になります。 3 回のレポートの合格ラインはいずれも 60%です。			
教員実務経験			
教員は長年にわたり画家としての立場から美術鑑賞教育の実践研究に取り組んでいて、著書、論文、講演などを通して、 美術鑑賞教育の必要性や重要性を説いている。有効な鑑賞の手法として、スライドショーによる比較鑑賞と対話型鑑賞 を組み合わせた形態を開発している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 美術鑑賞入門 比較鑑賞トレーニング		
2	西洋美術入門① 『ヴァン・エイクの超絶技巧』 油絵の完成者と称されるヴァン・エイクを取り上げて、細部鑑賞を駆使して 初期作品から代表作までアプローチし、100 年後のホルバインとの細密画対決も試みる。		

3	西洋美術入門②『カラヴァッジョの光と闇』 バロックの創始者カラヴァッジョを取り上げ、人生と画業の「光と闇」にスポットを当てる。画業では彼が開発した対比明暗法と写實的描写力に肉薄する。
4	西洋美術入門③『比較鑑賞で読み解くミレーの《落穂拾い》』 日本でもよく知られた名画《落穂拾い》に焦点を当て、様々な類似作との比較鑑賞を通して、ミレーの《落穂拾い》の造形的本質と作者の作画意図を読み解いていく。
5	授業のまとめレポート① 西洋美術の3回の講義のそれぞれから「学んだことや考えたこと」を文章記述する。「好きな作品」調査(必ず教科書を用意しておくこと)
6	日本美術入門①『UKB52って何?』 美術の世界では単体作品で鑑賞者に訴えかけるものと、集合作品で訴えかけるものがある。ここでは後者の例として意外性に富んだ作を取り上げ、現代的視点からアプローチしていく。
7	日本美術入門②『どっちがスゴイ? 応挙 VS 若冲』 日本美術が熟成した江戸時代中期の代表的絵師、円山応挙と伊藤若冲。この二人の作品を徹底比較鑑賞し、どちらがスゴイのかを受講生に判定してもらう90分。
8	日本美術入門③『歌麿美人画 人気の秘密』 浮世絵版画を当時の出版事情から読み解いていく企画で、歌麿の美人画に焦点を当て、比較鑑賞でその代表作の人気の秘密に迫り、今も変わらぬファン心理を明らかにしていく。
9	授業のまとめレポート② 日本美術の3回の講義のそれぞれから「学んだことや考えたこと」を文章記述する。DVD鑑賞:講義に関係した内容のDVDを上映し、視聴する。
10	前衛美術入門①『時代錯誤?ダリの宗教画』 シュルレアリストのダリが後半生に描いた宗教画に焦点を当て、ダリを宗教画に導いた経緯を詳しく紹介し、宗教画の代表作をじっくりと鑑賞していく。
11	前衛美術入門②『リクテンスタインの冷めた革命』 西洋近代美術トラブル史を紹介した後、マンガを芸術に変えたリクテンスタインのマジックを、マンガの原画との比較鑑賞を通して種明かししていく。
12	身近な美術入門①『ロックウエルの演出を読み解く』 ロックウエルはまず情景写真を撮り、そこから下絵を起こして完成作へと向かっていく。そこで元写真や下絵と完成作との比較鑑賞で、ロックウエルの演出意図を読み解いていく。
13	身近な美術入門②『文字なし絵本への招待』 絵本への新しいアプローチと絵本の鑑賞法を紹介した後、文字なし絵本の秀作をいくつか紹介し、受講生とともにじっくり読み解いていく。
14	授業のまとめレポート③ 前衛美術入門の2回の講義と身近な美術入門の2回の講義のそれぞれから「学んだことや考えたこと」を文章記述する。DVD鑑賞:講義に関係した内容のDVDを上映し、視聴する。

15	好きな作品調査のまとめ 好きな作品調査の結果から傾向分析をし、人気の高かったいくつかの作品について解説する 授業アンケート:11回の講義に関する独自のアンケートを実施する。
----	--

科目名	美術特論Ⅰ	年次	0	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	高瀬 博文				
クラス名					

授業目的と到達目標

前期:アンフォルム(不定形)の観点から現代美術を考える|後期:徹底操作／二重の転倒の観点から美術作品を考える

授業概要

対面授業||現代美術は単に見えるものを問題としているのではなく、見えるもののリ|アリティが成立するときに忘却されてしまう何かを問題にしていると言える。それは見えるものの身体であるが、見えないものである。|しかしその見えないものは見えるものを通してしか提示しえないところに|大きな困難があるだろう。又そこに面白さもある。授業ではこうした観点|から現代美術を理論的に考える。

受講上の注意

しっかりと授業に出席し、授業での話と教科書によって理解を深めて下さい。板書を行いますので、自分のノートに要点を写して下さい。||教科書がないと受講に支障が出る可能性がありますので、必ず購入しておいて下さい。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
平常点(授業中のスタンプ獲得数による)	50
テスト(学年末に一回)	50

教科書情報

教科書1	造形原理		
出版社名	大阪芸術大学	著者名	高瀬博文
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	イントロダクション:なぜ美術が存在するのか		
2	アンフォルムとは何か(ジョルジュ・パタイユ)		
3	アンフォルムと水平性1.古典美術～垂直性 vs.現代美術～水平性		
4	アンフォルムと水平性2. ジャクソン・ポロックのアクションペインティング		
5	アンフォルムと水平性3. ポロックによる無意識の表現		
6	アンフォルムと水平性4. ポロック以降の水平性の表現(ウォーホルなど)		
7	アンフォルムと視線1. 視線とは何か(対象 a としての視線)		
8	アンフォルムと視線2. シンディ・シャーマンの作品における視線の現れ		
9	アンフォルムと水平性3. エドゥアール・マネ、フリードリッヒ・ターナーによる視線の表現		
10	アンフォルムと水平性4. 視線を問題化することの意味		

11	アンフォルムと無意識1. 無意識の作用とはなにか
12	アンフォルムと無意識2. 無意識の観点から見たマルセル・デュシャンの芸術史的意味
13	アンフォルムと無意識3. デュシャンの「彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁さえも」
14	アンフォルムと無意識4. その他の作家における無意識の問題化をめぐって
15	前期まとめ
16	ジークムント・フロイトの考える強迫反復と徹底操作
17	「残酷な神が支配する」(萩尾望都)などにみる強迫反復と徹底操作
18	徹底操作としての美術作品の制作
19	絵画におけるエネルギー解放論的観点 vs. 絵画における徹底操作
20	文学作品に見られる徹底操作をめぐって(ステファヌ・マラルメ)
21	イマヌエル・カントの美学思想に現れた徹底操作1.
22	イマヌエル・カントの美学思想に現れた徹底操作2.
23	荒川修作の作品における徹底操作1. (「意味のメカニズム」)
24	荒川修作の作品における徹底操作2. (「Iのための習作」など)
25	バーネット・ニューマンにみられる徹底操作
26	フランシス・ベーコンにおける徹底操作
27	ダニエル・ビュランにみられる徹底操作
28	美術作品の徹底操作＝二重の転倒1. 二重の転倒とは何か
29	美術作品の徹底操作＝二重の転倒2. 二重の転倒がなぜ必要なのか、後期まとめ
30	この一年間の授業内容に関する今後の展望

科目名	美術特論Ⅱ		年次	0	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期		形態	講義		
教員名	河田 昌之					
クラス名						
授業目的と到達目標						
独自の美を形成している日本美術の特質を講義します。作品解説ができるほど日本の美術が好きになることを目指します。						
授業概要						
日本の美術の名作を順次取り上げ、パワーポイントを併用しながら講義します。						
受講上の注意						
展覧会等で実際の作品をできるだけたくさん観ることを勧めます。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
レポート(定期試験として)				50		
レポート(平常課題)				30		
平常の授業態度				20		
教科書情報						
教科書1	使用しません。					
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						
出版社名		著者名				

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
登録博物館の学芸員として、約 30 年間に展覧会の企画や美術品の収集、保管、展示等の実務にあたり、そのうちの約 10 年間は館長として組織運営や対外的な交流などの美術館マネジメント分野にも携わった経験を基にして、美術品に関する具体的な事例を提示しながら、実社会で応用できる「生きた情報」を盛り込んで講義します。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	平安時代の美術(1)やまと絵		
2	平安時代の美術(2)やまと絵		
3	平安時代の美術(3)やまと絵		
4	平安時代の美術(4)仏画		
5	平安時代の美術(5)仏画		
6	平安時代の美術(6)料紙装飾		
7	平安時代の美術(7)料紙装飾		
8	鎌倉時代の美術(1)似絵		
9	鎌倉時代の美術(2)似絵		
10	鎌倉時代の美術(3)似絵		
11	鎌倉時代の美術(4)やまと絵		

12	鎌倉時代の美術(5)やまと絵
13	鎌倉時代の美術(6)その他
14	鎌倉時代の美術(7)その他
15	室町時代の美術(1)水墨画
16	室町時代の美術(2)水墨画
17	室町時代の美術(3)水墨画
18	室町時代の美術(4)水墨画
19	室町時代の美術(5)墨蹟
20	室町時代の美術(6)やまと絵
21	室町時代の美術(7)やまと絵
22	江戸時代の美術(1)風俗画 洛中洛外図
23	江戸時代の美術(2)風俗画 初期洋風画
24	江戸時代の美術(3)風俗画 その他
25	江戸時代の美術(4)装飾画派 俵屋宗達
26	江戸時代の美術(5)琳派 1 尾形光琳
27	江戸時代の美術(6)琳派 2 酒井抱一
28	江戸時代の美術(7)文人画
29	江戸時代の美術(8)円山・四条派
30	江戸時代の美術(9)浮世絵版画

科目名	美術特論Ⅲ	年次	3	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	石井 元章				
クラス名					
授業目的と到達目標					
ルネサンス期イタリアの彫刻をフィレンツェを中心に概観する。それぞれの時代・作家が追求した造形課題を理解することで、美術の見方・考え方を養う。また、美術作品、特に公的性格を持つことの多い彫刻作品を通じて、造形作品に込められた社会的・個人的メッセージを読み解く訓練を行う。					
授業概要					
【対面授業】主に 15・16 世紀のフィレンツェ彫刻の流れを、それぞれの作品分析を行いながら、概観する。13 世紀のニコラ・ピサーノを出発点として、フィリッポ・ブルネッレスキ、ロレンツォ・ギベルティ、ドナテッロなどルネサンス彫刻の創始者の業績を抑え、それが 15 世紀後半に活躍する作家たちを通じていかにミケランジェロに受け継がれていくかを追う。 ついで同時代のヴェネツィア彫刻について概説する。					
受講上の注意					
一般的な世界史の基礎知識を持っていることが望ましいので、高校の教科書を再読するか、『もういちど読む山川世界史』などを使って予め勉強しておくこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合 (%)		
学年末試験 (2/3 の出席が受験の前提)			100		
教科書情報					
教科書1	ルネサンスの彫刻 15・16 世紀のイタリア (絶版の可能性あり、ネット通販で購入したり、図書館で閲覧したりすることが望ましい)				
出版社名	ブリュッケ	著者名	石井元章		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	新装版 西洋美術解説事典(絶版の可能性あり、ネット通販で購入したり、図書館で閲覧したりすることが望ましい)		
出版社名	ジェイムズ・ホール	著者名	河出書房新社
参考書名2	小学館世界美術大全集		
出版社名	小学館	著者名	
参考書名3	西洋絵画の主題物語 I 聖書編 II 神話編		
出版社名	美術出版社	著者名	諸川春樹監修
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	「オリエンテーション 1」 ミケランジェロ作《ダヴィデ》を例に取り、図像と文献の関係の中で、特殊な図像が生まれる背景を社会的コンテキストの中から理解する。		
2	「オリエンテーション 2」 彫刻作品の持つ「三次元性」と「素材」について考える。		
3	「キリスト教概説」 姉妹宗教と言われるユダヤ教、キリスト教、イスラム教の関連を考え、その中で何故キリスト教は生まれなくてはならなかったのか、すなわち、神はキリストを通じてどのように人々を救済しようとしたのかを理解する。その中で「ゴルゴタ」や「受肉」の意味も解説される。		
4	「アンドレア・ピサーノ《フィレンツェ洗礼堂青銅扉》1」 フィレンツェの街の作りをその発展史の中に理解する。「洗礼者聖ヨハネの物語」の典拠を追いながら、それがアンドレア・ピサーノの作品でどのように表現されているかを具体的に追跡する。《キリストの洗礼》までを扱う。		

5	「アンドレア・ピサーノ《フィレンツェ洗礼堂青銅扉》2」 同じ連作の《ヘロデの前の洗礼者聖ヨハネ》以降を扱う。美德の擬人像について理解する。 また、サロメの図像が時代によっていかに変容するかを考える。
6	「1401 年のコンクール」 同コンクールで最後まで選考に残ったフィリッポ・ブルネッレスキとロレンツォ・ギベルティの《イサクの犠牲》を比較し、二人の作家の持つ造形傾向の違いを認識する。作品の中に援用された古代作品について学び、「ルネサンス」という言葉の持つ意味を再認識する。
7	「ギベルティ作フィレンツェ洗礼堂青銅扉《キリストの生涯》1」 コンクールの結果、青銅扉を制作したロレンツォ・ギベルティの連作を一点ずつ検証し、そこに込められたギベルティ芸術の洗練を理解する。《ゲッセマネ(橄欖山での祈り)》までを扱う。
8	「ギベルティ作フィレンツェ洗礼堂青銅扉《キリストの生涯》2」 ロレンツォ・ギベルティの連作を一点ずつ検証し、そこに込められたギベルティ芸術の洗練を理解する。《ゲッセマネ(橄欖山での祈り)》から《ペンテコステ(聖霊降臨)》までを扱う。四教会博士、四福音書記者についても理解する
9	「ギベルティ作フィレンツェ洗礼堂青銅扉《天国の門》1」 ギベルティが続いて制作した所謂《天国の門》に表現された旧約聖書の物語を、典拠を読みながら《エサウとヤコブの物語》まで追う。
10	「ギベルティ作フィレンツェ洗礼堂青銅扉《天国の門》2」 所謂《天国の門》に表現された旧約聖書の物語を、典拠を読みながら《ソロモンとシバの女王の会見》まで追う。
11	「ヤコポ・デラ・クエルチャ 1」 フィレンツェとは異なる文化環境を持つシエナの彫刻家ヤコポ・デラ・クエルチャの前半生を追ひ、フィレンツェとの違いを認識する。
12	「ヤコポ・デラ・クエルチャ 2」 ヤコポ・デラ・クエルチャの後半生、特にボローニャ、サン・ペトロ・オ聖堂の《中央扉の浮彫》とシエナ、洗礼堂の《洗礼盤》を学び、ミケランジェロに強い影響を与えたこの作家を理解する。
13	「ドナテッロ 1」 15 世紀最高の彫刻家と考えられたドナテッロの前半生を、フィレンツェ、パルジェッロ国立美術館の《聖ゲオルギウス》まで追う。
14	「ドナテッロ 2」 ドナテッロ中期の作品群を学び、彼の芸術の革新性を理解する。
15	「ドナテッロ 3」 1443 - 1454 年のバドヴァ滞在中の作品を概観し、ヴェネト地方の彫刻にドナテッロが与えた大きな影響を理解するとともに、フィレンツェ共和国帰国後の晩年の作品を学ぶ。
16	「15 世紀のフィレンツェの彫刻工房 1」 15 世紀フィレンツェ共和国で活動したデラ・ロツピア工房、ロッセリーノ工房などの作品を学ぶ。
17	「15 世紀のフィレンツェ彫刻工房 2」 ミーノ・ダ・フィエーゾレとフィレンツェの肖像彫刻について学ぶ。
18	「15 世紀のフィレンツェ彫刻工房 3」 イル・ヴェルロッキオ工房、デル・ポツライウオーロ工房について学ぶ。

19	「ミケランジェロ 1」 ミケランジェロ・ブオナルローティの作品を、特に古代作品との関連で解説する。 第一回は著名な第一の《ピエタ》までを扱う。
20	「ミケランジェロ 2」 ミケランジェロ・ブオナルローティの作品を、特に古代作品との関連で解説する。 第二回は続く時代を《ドーニ家の丸板絵》までを扱う。
21	「ミケランジェロ 3」 ミケランジェロ・ブオナルローティの作品を、特に古代作品との関連で解説する。 第三回は続く時代を《システィナ礼拝堂天井画》までを扱う。
22	「ミケランジェロ 4」 ミケランジェロ・ブオナルローティの作品を、特に古代作品との関連で解説する。 第四回は続く時代を作家の死まで扱う。
23	「《ラオコーン》の発見」 1506 年 1 月 14 日にローマで発見された《ラオコーン》が同時代の作家に 与えた影響を、作品を通じて理解する。
24	「15 世紀のヴェネツィア彫刻 1」 アントニオ・リッツォとピエトロ・ロンバルドの作品について学び、15 世紀半ばまでのヴェネツィア共和国にフィレンツェ彫刻の建築的要素がどのように流入したかを理 解する。
25	「15 世紀のヴェネツィア彫刻 2」 ピエトロ・ロンバルドの二人の息子、トゥッリオとアントニオが 15 世 紀末から 16 世紀にかけて、ヴェネツィア共和国で最も優れた彫刻作品を残すことになる。今回はト ウッリオの軌跡を追う。
26	「15 世紀のヴェネツィア彫刻 2」 トゥッリオ・ロンバルドの第二回。
27	「15 世紀のヴェネツィア彫刻 3」 アントニオ・ロンバルドの作品について概説する。
28	「15 世紀のヴェネツィア彫刻 4」 アントニオ・ロンバルドの第二回。
29	「螺旋の展開 1」 古代ギリシア時代からミケランジェロを経て、ジャン・ロレンツォ・ベルニーニに至る 造形課題の認識を追う。
30	授業のまとめと筆記の学年末試験

科目名	美術特論Ⅳ	年次	3	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名	【18生対象】				

授業目的と到達目標

前期と後期で限定的なテーマを設定し、豊富な視覚飼料を駆使して絵画への理解と関心を深めていくとともに、貴重な作家研究の場にもしていくのが目的である。また、様々な作品や考え方との出会いを通して、受講生なりの絵画観や評価観を育てていくのが到達目標である。

授業概要

前期のテーマは『シュルレアリスムの絵画』、後期のテーマは『アメリカン・リアリズムの絵画』で、それぞれ代表的な画家とその作品の紹介を通して、根底にある考え方や特徴的な表現を探っていく。作品鑑賞においては対話形式を取り入れ、受講生の積極的な意見発表を求めている。前半と後半に各 1 回授業レポートが課される。

受講上の注意

準備は特に必要ないが、授業中に気づいたことや自分なりに考えたことを記録しておき、レポート作成の前に読み返して、理解の定着をはかることが望ましい。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
2 回の授業レポートと授業に取り組む姿勢を総合して評価する。	100

教科書情報

教科書1	特にありません。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	授業の中で適宜紹介します。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業者は長年にわたり、自身の制作と絡めてシュルレアリスム絵画とアメリカン・リアリズム絵画を研究している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 『シュルレアリスム入門』として、形而上的雰囲気を持った文字なし絵本と、シュル レアリスム風のマンガを紹介し、シュルレアリスム表現への導入を図る。		
2	形而上主義絵画 デ・キリコ シュルレアリスム絵画の先駆者として、1910 年代に謎に包まれた絵画を描いたデ・キリコを取り上げる。		
3	盲目の泳ぎ手 エルンスト 最大のシュルレアリストとして生涯をかけてシュルレアリスム表現を追求したエルンストを取り上げる。		
4	記号の増殖 タンギーとミロ 具象的表現が多いシュルレアリストの中にあって、記号的な抽象表現を追及したタンギーとミロを取り上げ る。		
5	予兆的ヴィジョン エルツェとエンデ あまり知られていないドイツのシュルレアリストであるエルツェとエンデを時代を映した世界を取り上げる。		

6	イメージの魔術師 マグリット 世間的にも良く知られたマグリット不思議な絵画を取り上げ、物と言葉とイメージの関係を掘り下げる。
7	日本のシュルレアリスト アイミツ他 日中戦争の最中であり、太平洋戦争の前夜でもある時代に描かれた日本のシュルレアリスム絵画を取り上げる。
8	授業レポート① 前半の授業に関し、授業全体から学んだことや感想、また授業で紹介した作家についての論述を行う。
9	偏執狂の夢 ダリ① 最も著名なシュルレアリストであるダリの 1930 年代の代表作とあまり知られえない魅力的な作品群を取り上げる。
10	明晰な幻想 ダリ② シュルレアリスト・ダリのもうひとつの顔として、1930 年代後半から 1940 年代の透明感のある作品群を取り上げる。
11	夢仙境への誘い デルヴォーとタニング 夢の中の世界を思わせる画面で知られるデルヴォーと女流シュルレアリストの代表タニングを取り上げる。
12	不条理と神話 バルテュスとクレリチ 戦後のシュルレアリストとして活躍した不条理劇のバルテュスと独自の神話的世界を描いたクレリチを取り上げる。
13	ウィーン幻想派 ハウズナー他 戦後にシュルレアリスムを復活させたウィーン幻想派の画家たちを、ハウズナーを中心に取る。
14	絵本の中のシュルレアリスム 身近な絵本の中からシュルレアリスムのテイストに満ちた3作品を取り上げ、現代におけるシュルレアリスムの大衆化を探る。
15	授業レポート② 後半の授業に関し、授業全体から学んだことや感想、また授業で紹介した作家についての論述を行う。 授業アンケート
16	ガイダンス 『アメリカ絵画入門』として西洋美術史におけるアメリカ絵画の扱いと日本におけるアメリカ絵画の紹介について考える。
17	アンドリュー・ワイエスの登場 1974 年以降の日本におけるアメリカン・リアリズム再評価のきっかけとなったアンドリュー・ワイエスを取り上げる。
18	ハドソン・リヴァー派第一世代 トマス・コールとデュランド 最初のアメリカ独自の絵画と言われるハドソン・リヴァーのコールとデュランドを取り上げる。
19	ハドソン・リヴァー派第二世代 チャーチ、ピアシュタット、モラン コールの影響を受けた第二世代の画家たち3人のスケールの大きなアメリカ風景画を取り上げる。
20	リュミニストたち ケンセツ、レーン、ヒード デュランドの影響を受けたリュミニスト(光輝派)と呼ばれる一群の画家から三人を取り上げる。
21	身近な人と物 ビンガム、ハーネット、ピート ミシシッピ河周辺の風俗を描いたビンガムとだまし絵的静物画の両巨匠ハーネットとピートを取り上げる。

22	アメリカの自然と生活 ホーマーとイーキンズ 19 世紀アメリカン・リアリズム絵画を代表する風俗画家のホーマーとそのライバルであるイーキンズを取り上げる。
23	授業レポート① 前半の授業に関し、授業全体から学んだことや感想、また授業で紹介した作家についての論述を行う。
24	リージョナリストたち ウッド、ベントンと NC.ワイエス 20 世紀アメリカの都市化に反して、地方の再生を主張したリージョナリスト(地方主義者)である三人を取り上げる。
25	イラストレーションの華形 パリッシュとデービス アメリカ美術の特色の一つイラストレーションに焦点を当て、パリッシュとデービスを取り上げる。
26	社会への視線 ベン・シャーンとシーラー 華々しい発展を遂げた 20 世紀アメリカ社会の光と影を描いた画家として、ベン・シャーンとシーラーを取り上げる。
27	アメリカの光と影 ホッパー 社会派リアリズムの巨匠として高く評価されるホッパーを取り上げ、光と影の対比が紡ぎ出す「アメリカの孤独」を探る。
28	スーパー・リアリズム エステス、ゴーイングス、クロス 1970 年代に大流行したスーパー・リアリズムの中から、卓越した技術とセンスを持つ3人を取り上げる。
29	20 世紀末のリアリズム トウッカー、ジェームズ・ワイエス、パールスタイン アメリカン・リアリズムの最新形を、個性豊かな3人の画家を取り上げて考える。
30	授業レポート② 後半の授業に関し、授業全体から学んだことや感想、また授業で紹介した作家についての論述を行う。 授業アンケート

科目名	美術論	年次	0	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	加藤 義夫				
クラス名					
授業目的と到達目標					
美術の哲学・思想を知り、自らの美的価値観や世界観を構築する基礎づくりを目的とします。現代アートを取り巻く環境、例えば美術館、ギャラリー、アートフェア、国際芸術祭、アートプロジェクトなど知り、現代のアートと社会との関係性を自分自身で認識し、自分の言葉で語れることを目標とします。					
授業概要					
対面授業 西洋美術の根幹を成すキリスト教。旧約聖書・新約聖書を知らずして西洋美術は語れません。他方、古代ギリシャ神話は、ルネサンス以降に西洋美術史に刻印された大切な物語です。多様な価値観が生まれる 20 世紀美術においては、アートと社会の関係性を探求します。現代アートの祭典や美術館、ギャラリーのシステムについてアートマネジメントの観点から解説します。					
受講上の注意					
前期に教科書「アートマネジメントを学ぶ」を読み、後期の予習としてください。復習では毎回の授業終了時に講義内容を、整理しまとめてみましょう。自身の授業感想を記述するのも良いでしょう。					
成績評価方法・基準					
種別			割合 (%)		
1,前期レポート課題「美術と旧約・新約聖書の関係性を分析する」			30		
後期のレポート課題「マルセル・デュシャンと現代アート」			20		
後期「空想美術館構想」をレポート課題として提出			50		
教科書情報					
教科書1	アートマネジメントを学ぶ				
出版社名	武蔵野美術大学武蔵野美術大学 出版局	著者名	新見隆・伊東正伸・加藤義夫・金子伸二・山出淳也		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	西洋美術史		
出版社名	美術出版社	著者名	監修=高階秀爾
参考書名2	20 世紀の美術		
出版社名	美術出版社	著者名	監修=末永照和
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
アーツスケープ, http://artscape.jp			
特記事項			
「美術論」の授業では、適宜にオリジナルプリントを配布します。教科書「アートマネジメントを学ぶ」は、前期より後期で集中的に使用します。前期に後期予習として、教科書を読んでおくことをお勧めします。また、教科書は芸大を卒業してからでも役に立つ教科書です。			
教員実務経験			
宝塚市立文化芸術センター館長・国際美術評論家連盟会員・芦屋市文化振興審議会会長・泉大津市文化芸術振興会議委員会会長・一般社団法人日本現代美術振興協会理事(ARTOSAKA 実行委員)・一般社団法人日本デザインマネジメント協会理事・民族芸術学会理事・美術館にアート贈る会理事・兵庫県立美術館評価委員・国立国際美術館評価委員・群馬青年ビエンナーレ審査委員長・「水都大阪」審査員及びアドバイザー・兵庫県展審査委員・京都賞推薦委員・VOCA 展推薦委員・美術手帖「展評」担当・日本経済新聞社「展評」担当・朝日新聞社「美術評」			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		

1	1,ガイダンス シラバスを参照して授業の進め方、成績評価の説明 聖書の物語 ― 旧約聖書と新約聖書の大まかな流れについて
2	2,西欧世界とキリスト教―part1 美術作品にみる旧約聖書の物語 ― 創世記・アダムとイヴ・ノアの箱舟・バベルの塔
3	3,西欧世界とキリスト教―part2 美術作品にみる旧約聖書の物語 ― モーセの誕生・出エジプト・十戒
4	4,西欧世界とキリスト教―part3 美術作品にみる新約聖書の物語 ― 受胎告知・最後の晩餐
5	5,西欧世界とキリスト教―part4 美術作品にみる新約聖書の物語 ― 磔刑・復活・最後の審判
6	6,古代ギリシャとルネサンス 再生という名の古典文化復興運動
7	7,古代ギリシャの神々 ゼウスとオリンポスの神々
8	8, レオナルド・ダ・ヴィンチの美術理論 万能の天才レオナルドの人生と作品について
9	9,イタリア・バロックの巨匠 カラヴァッジョ 光と影の劇的表現でバロック絵画の形成に影響を与えたカラヴァッジョについて
10	10,十七世紀のオランダとフランドル絵画の黄金期 大航海時代の巨匠たち ルーベンスとレンブラントについて
11	11,科学の発明と美術の関係について フェルメールが使った光学機器と写真の発明と美術の関係性について
12	12,近代芸術の萌芽 独創性への道 新古典主義 VS ロマン主義―理想美と個性美の対決
13	13,フランス革命がもたらす美術館のはじまりとコレクション 世界の美術館の基礎となったルーブル美術館について
14	14,万国博覧会とジャポニスム 浮世絵・琳派などの日本美術が、印象派やアール・ヌーヴォーに影響を与えた歴史
15	15,二十世紀モダンアートの礎ともいえるポスト印象派の画家たち セザンヌからピカソへ、ゴッホからマティスへ
16	16,ピカソはなぜ、20 世紀を代表する画家なのか? ピカソの秘密を探る
17	17,ピカソとマティス―破壊と創造 20 世紀最大の巨匠ピカソとマティスの物語
18	18,マルセル・デュシャンの美術理論―レディ・メイドという考え方 男性用小便器をアートに仕立て上げた男の話
19	19,シュルレアリスムのサルバドール・ダリの美術理論 ダリの視点から見る巨匠たちの成績表
20	20,アメリカのアンディ・ウォーホルと戦後ドイツのヨゼフ・ボイスの美術理論 コピーとオリジナリティを考える/社会彫刻と芸術概念の拡張という考え方

21	21,アートプロジェクト-part1/クリスト&ジャンヌクロード プロジェクトという考え方のソーシャルアート
22	22,アートプロジェクト-part2/川俣正(ニューヨーク)、大久保英治(徳島)を紹介 法律をクリアし地域社会や住民を巻き込むアートプロジェクトのプロセス
23	23,展覧会を知る part1ー国際芸術祭の紹介 ヴェネチア・ビエンナーレ(イタリア)、ドクメンタ(ドイツ)について 「越後妻有アートトリエンナーレ(新潟県)」「瀬戸内国際芸術祭(香川県)」「横浜トリエンナーレ(神奈川県)」「あいちトリエンナーレ(愛知県)」などを紹介
24	24,展覧会を知る part2ー国際芸術祭の意義と効用 都市のまちづくり、地域社会の活性化、国際文化交流、経済波及効果など
25	25,展覧会を知る part3ー展覧会のつくり方 ーから作り上げる展覧会の方法を紹介
26	26,展覧会を知る part4ーギャラリーのシステムと仕事 ギャラリーの仕事やアートマーケットとオークションについて
27	27,世界のアートフェアを紹介 全世界で展開されるアートフェアという名の美術品見本市
28	28,アーティストになる方法 アーティストになる方法の紹介。アーティストのセルフマネジメント、セルフブランディング学び、表現者として作品制作を続ける方法を導きだします。
29	29,アートを続ける方 法表現者として生き残るための方法を模索します。
30	30,アートに関係するお仕事 画家や彫刻家だけがアートに関係する仕事ではありません、さまざまな観点からアートに関係する仕事を紹介

科目名	美術論	年次	0	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	加藤 義夫				
クラス名					
授業目的と到達目標					
美術の哲学・思想を知り、自らの美的価値観や世界観を構築する基礎づくりを目的とします。現代アートを取り巻く環境、例えば美術館、ギャラリー、アートフェア、国際芸術祭、アートプロジェクトなど知り、現代のアートと社会との関係性を自分自身で認識し、自分の言葉で語れることを目標とします。					
授業概要					
対面授業 西洋美術の根幹を成すキリスト教。旧約聖書・新約聖書を知らずして西洋美術は語れません。他方、古代ギリシャ神話は、ルネサンス以降に西洋美術史に刻印された大切な物語です。多様な価値観が生まれる 20 世紀美術においては、アートと社会の関係性を探求します。現代アートの祭典や美術館、ギャラリーのシステムについてアートマネジメントの観点から解説します。					
受講上の注意					
前期に教科書「アートマネジメントを学ぶ」を読み、後期の予習としてください。復習では毎回の授業終了時に講義内容を、整理しまとめてみましょう。自身の授業感想を記述するのも良いでしょう。					
成績評価方法・基準					
種別			割合 (%)		
1,前期レポート課題「美術と旧約・新約聖書の関係性を分析する」			30		
後期のレポート課題「マルセル・デュシャンと現代アート」			20		
後期「空想美術館構想」をレポート課題として提出			50		
教科書情報					
教科書1	アートマネジメントを学ぶ				
出版社名	武蔵野美術大学出版局 ISBN コード 978-4-86463-068-9	著者名	新見隆・伊東正伸・加藤義夫・金子伸二・山出淳也		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	西洋美術史		
出版社名	美術出版社	著者名	監修=高階秀爾
参考書名2	20 世紀の美術		
出版社名	美術出版社	著者名	監修=末永照和
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
アーツスケープ, http://artscape.jp			
特記事項			
「美術論」の授業では、適宜にオリジナルプリントを配布します。教科書「アートマネジメントを学ぶ」は、前期より後期で集中的に使用します。前期に後期予習として、教科書を読んでおくことをお勧めします。また、教科書は芸大を卒業してからでも役に立つ教科書です。			
教員実務経験			
宝塚市立文化芸術センター館長・国際美術評論家連盟会員・芦屋市文化振興審議会会長・泉大津市文化芸術振興会議委員会会長・一般社団法人日本現代美術振興協会理事(ARTOSAKA 実行委員)・一般社団法人日本デザインマネジメント協会理事・民族芸術学会理事・美術館にアート贈る会理事・兵庫県立美術館評価委員・国立国際美術館評価委員・群馬青年ビエンナーレ審査委員長・「水都大阪」審査員及びアドバイザー・兵庫県展審査委員・京都賞推薦委員・VOCA 展推薦委員・美術手帖「展評」担当・日本経済新聞社「展評」担当・朝日新聞社「美術評」			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		

1	1,ガイダンス シラバスを参照して授業の進め方、成績評価の説明 聖書の物語 ― 旧約聖書と新約聖書の大まかな流れについて
2	2,西欧世界とキリスト教―part1 美術作品にみる旧約聖書の物語 ― 創世記・アダムとイヴ・ノアの箱舟・バベルの塔
3	3,西欧世界とキリスト教―part2 美術作品にみる旧約聖書の物語 ― モーセの誕生・出エジプト・十戒
4	4,西欧世界とキリスト教―part3 美術作品にみる新約聖書の物語 ― 受胎告知・最後の晩餐
5	5,西欧世界とキリスト教―part4 美術作品にみる新約聖書の物語 ― 磔刑・復活・最後の審判
6	6,古代ギリシャとルネサンス 再生という名の古典文化復興運動
7	7,古代ギリシャの神々 ゼウスとオリンポスの神々
8	8, レオナルド・ダ・ヴィンチの美術理論 万能の天才レオナルドの人生と作品について
9	9,イタリア・バロックの巨匠 カラヴァッジョ 光と影の劇的表現でバロック絵画の形成に影響を与えたカラヴァッジョについて
10	10,十七世紀のオランダとフランドル絵画の黄金期 大航海時代の巨匠たち ルーベンスとレンブラントについて
11	11,科学の発明と美術の関係について フェルメールが使った光学機器と写真の発明と美術の関係性について
12	12,近代芸術の萌芽 独創性への道 新古典主義 VS ロマン主義―理想美と個性美の対決
13	13,フランス革命がもたらす美術館のはじまりとコレクション 世界の美術館の基礎となったルーブル美術館について
14	14,万国博覧会とジャポニスム 浮世絵・琳派などの日本美術が、印象派やアール・ヌーヴォーに影響を与えた歴史
15	15,二十世紀モダンアートの礎ともいえるポスト印象派の画家たち セザンヌからピカソへ、ゴッホからマティスへ
16	16,ピカソはなぜ、20 世紀を代表する画家なのか? ピカソの秘密を探る
17	17,ピカソとマティス―破壊と創造 20 世紀最大の巨匠ピカソとマティスの物語
18	18,マルセル・デュシャンの美術理論―レディ・メイドという考え方 男性用小便器をアートに仕立て上げた男の話
19	19,シュルレアリスムのサルバドール・ダリの美術理論 ダリの視点から見る巨匠たちの成績表
20	20,アメリカのアンディ・ウォーホルと戦後ドイツのヨゼフ・ボイスの美術理論 コピーとオリジナリティを考える/社会彫刻と芸術概念の拡張という考え方

21	21,アートプロジェクト-part1/クリスト&ジャンヌクロード プロジェクトという考え方のソーシャルアート
22	22,アートプロジェクト-part2/川俣正(ニューヨーク)、大久保英治(徳島)を紹介 法律をクリアし地域社会や住民を巻き込むアートプロジェクトのプロセス
23	23,展覧会を知る part1ー国際芸術祭の紹介 ヴェネチア・ビエンナーレ(イタリア)、ドクメンタ(ドイツ)について 「越後妻有アートトリエンナーレ(新潟県)」 「瀬戸内国際芸術祭(香川県)」 「横浜トリエンナーレ(神奈川県)」 「あいちトリエンナーレ(愛知県)」などを紹介
24	24,展覧会を知る part2ー国際芸術祭の意義と効用 都市のまちづくり、地域社会の活性化、国際文化交流、経済波及効果など
25	25,展覧会を知る part3ー展覧会のつくり方 ーから作り上げる展覧会の方法を紹介
26	26,展覧会を知る part4ーギャラリーのシステムと仕事 ギャラリーの仕事やアートマーケットとオークションについて
27	27,世界のアートフェアを紹介 全世界で展開されるアートフェアという名の美術品見本市
28	28,アーティストになる方法 アーティストになる方法の紹介。アーティストのセルフマネジメント、セルフブランディング学び、表現者として作品制作を続ける方法を導きだします。
29	29,アートを続ける方 表現者として生き残るための方法を模索します。
30	30,アートに関係するお仕事 画家や彫刻家だけがアートに関係する仕事ではありません、さまざまな観点からアートに関係する仕事を紹介

科目名	服飾史	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	中野 朋子				
クラス名					

授業目的と到達目標

日本の服飾の成立過程とあり方、現在に受け継がれる「きもの」文化の発生と変遷や多様性について講義し、日本の衣服の根源と流行の創造、継承について考えることで、自身の作品制作の基礎知識、舞台衣裳等の選定の際の知識等を学び、活用することができる。

授業概要

【対面授業】日本の服飾文化に関して、中国文化の影響と日本独自の服飾文化の成立・発展、社会状況の変化と服飾文化の変容(「きもの」の成立)、染織技術の発展と流行の発生・変遷に重点をおいて授業を行う。特に、江戸時代の染織技術の発展とそれに伴う流行の発生・変遷について大阪や京都を中心とした地域に焦点を当てながら丁寧に紹介する。

受講上の注意

日本の服飾史について取り扱う講義である。そのため、西洋服飾史については授業中に論じないので注意すること。|《予習》|日本の服飾について論じるため、日本における各時代の関連と時代区分について|あらかじめ予習して授業にのぞむことが望ましい。|《復習》|授業中に紹介する作品あるいは関連する絵画作品等が掲載された書籍・図版等を|図書館等で確認することで授業内容を復習することが望ましい。|《評価》|評価は下記によって総合的に行う。|(1)授業中に実施する簡易な課題|(2)授業に取り組む姿勢|(3)期末に実施するレポート課題|なお、評価の配分は「成績評価方法・基準」に示したとおりとする。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
平常点(授業態度)	10
授業時間中に課す課題	40
期末のレポート課題	50

教科書情報

教科書1	教員作成のプリントを使用する		
出版社名		著者名	

教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	特に指定しない		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
大阪歴史博物館勤務、学芸員(工芸史、染織・服飾史担当)			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	講義のガイダンスならびに日本服飾史の概要 ・「服飾」とはなにか		
2	日本古代の服飾の推移と大陸の服飾文化の影響 ・飛鳥時代から奈良時代の服飾と中国および朝鮮半島からの影響について		
3	日本古代の服飾の推移と大陸の服飾文化の影響 ・中国および朝鮮半島からの影響について		
4	平安時代から鎌倉時代の服飾 ・束帯と女房装束の変遷		
5	武家の台頭と服飾の変容 ・武家に好まれた服飾について		

6	桃山時代の服飾 ・桃山時代に流行した服飾とそのデザインならびに加工技術について
7	江戸時代の服飾と諸工芸 ・江戸時代の服飾の大まかな変遷と服飾以外の諸工芸のデザイン傾向、両者の異同について考える
8	江戸時代前期の服飾 ・江戸時代前期の服飾の変遷や加工技術について論じる
9	江戸時代中期の服飾 ・江戸時代中期の服飾の変遷や加工技術について論じる
10	江戸時代後期の服飾 ・江戸時代後期の服飾の変遷や加工技術について論じる
11	江戸時代の大坂の服飾 ・江戸時代後期を中心に、江戸地域とは異なる大坂の服飾の好みを探る
12	江戸から明治の「舶来趣味」(外国染織の利用、相関性) ・江戸時代から明治時代に多く舶載された諸外国の染織について知り、 これらの染織品が日本の服飾にどのような影響を与えたのかについて考える
13	近代の服飾① ・明治時代になると、官僚の主導の下で推進された西洋化が人々の服飾にどのような影響を与えたのか。「きもの」「洋服」「和服」という語の成立に注目しつつ論じる。
14	近代の服飾② ・大正から昭和初期の「東京」地域と「大阪」地域の服飾流行の相違や共通点について論じる
15	服飾史講義のまとめ ・講義内容を振り返り、日本の服飾の成立過程とあり方やその多様性について振り返る

科目名	油画実習Ⅰ	年次	1	単位数	3
授業期間	2022 年度 前期	形態	実習		
教員名	森 倫章				
クラス名					

授業目的と到達目標

この授業では|① 制作を通して、油絵の具の特性を経験する。|② 制作を通して、対象の持つ「形・色・空間・構造など」を観察、発見し、見取ったもの、感じ取ったものを絵画表現| に結び付ける。|③ 美術の歴史、理論にも触れる。|④ 合評を通して、作品の鑑賞力、批評力を高めるとともにそれらを言葉にする力を養う。||①、②、③、④の経験を2年次以降の授業に生かす。 |

授業概要

【対面授業】|制作を通して絵画表現の要素としての「色彩」「形態」「空間」「構造」などを経験する。|また、描画材料、美術理論、表現技法についても具体的にふれていく。 |

受講上の注意

油彩の技法及び油彩道具に関する知識を事前に学んでおく。|美術史・美術理論にも触れておく、できるだけ実際の作品を観賞する。 |

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
総合評価	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
実務経験: 画家としての絵画制作、発表の経験を活かし指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業ガイダンス 油画実習1について(授業日程など) 油彩画について(歴史、材料、技法など)		
2	色彩研究 ① 透明水彩絵の具を作る ② 自作の透明水彩絵の具による作品の制作		
3	色彩研究 水彩絵の具によるカラーチャートの制作(重色、混色)		
4	表現研究 「風景」 水彩絵の具による		
5	表現研究 「静物」 油絵の具による(モノクローム)		
6	表現研究 「静物」 油絵の具による(モノクローム)		
7	表現研究 「自画像」 油絵の具による		
8	表現研究 「自画像」 油絵の具による		
9	表現研究 「自画像」 油絵の具による		

10	表現研究 「自画像」 分解・再構成(キュビズム的思考・表現) 表現素材、技法(コラージュ、ドローイングなど)、サイズ自由
11	表現研究 「自画像」 分解・再構成(キュビズム的思考・表現) 表現素材、技法(コラージュ、ドローイングなど)、サイズ自由
12	合評・採点 合評は学生相互の作品を鑑賞、批評することでプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を 高める
13	「人物」研究 ① キャンバス張り ② 人物クロッキー
14	「人物」研究 モデル実習 木炭デッサン
15	「人物」研究 モデル実習 油彩
16	「人物」研究 モデル実習 油彩
17	「人物」研究 モデル実習 油彩
18	「人物」研究 モデル実習 油彩
19	「人物」研究 モデル実習 油彩
20	「人物」研究 モデル実習 油彩
21	「人物」研究 モデル実習 油彩
22	合評・採点 作品記録
23	【対面】< 初年次教育 > 初回授業 防犯・防災について(富田林警察)・心身のケアと健康管理(キャンパスサポートルーム) 展示ホール・収蔵庫・学芸員資格について(博物館) 図書館・展示ホール・体育館ギャラリー・インターネットルーム・体育館・トレーニングルーム・キャンパスサポートルーム・保健室・食堂・学生課・教務課等の学内見学 「大学生活の目標と行動計画」を基礎とし前期の目標や大学での学びについてクラスディスカッション。

科目名	油画実習 I	年次	1	単位数	3
授業期間	2022 年度 前期	形態	実習		
教員名	森 倫章				
クラス名					

授業目的と到達目標

この授業では|① 制作を通して、油絵の具の特性を経験する。|② 制作を通して、対象の持つ「形・色・空間・構造など」を観察、発見し、見取ったもの、感じ取ったものを絵画表現| に結び付ける。|③ 美術の歴史、理論にも触れる。|④ 合評を通して、作品の鑑賞力、批評力を高めるとともにそれらを言葉にする力を養う。||①、②、③、④の経験を2年次以降の授業に生かす。 |

授業概要

【対面授業】|制作を通して絵画表現の要素としての「色彩」「形態」「空間」「構造」などを経験する。|また、描画材料、美術理論、表現技法についても具体的にふれていく。 |

受講上の注意

油彩の技法及び油彩道具に関する知識を事前に学んでおく。|美術史・美術理論にも触れておく、できるだけ実際の作品を観賞する。 |

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
総合評価	100

教科書情報

教科書1	
出版社名	著者名
教科書2	
出版社名	著者名
教科書3	
出版社名	著者名

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
実務経験: 画家としての絵画制作、発表の経験を活かし指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業ガイダンス 油画実習1について(授業日程など) 油彩画について(歴史、材料、技法など)		
2	色彩研究 ① 透明水彩絵の具を作る ② 自作の透明水彩絵の具による作品の制作		
3	色彩研究 水彩絵の具によるカラーチャートの制作(重色、混色)		
4	表現研究 「風景」 水彩絵の具による		
5	表現研究 「静物」 油絵の具による(モノクローム)		
6	表現研究 「静物」 油絵の具による(モノクローム)		
7	表現研究 「自画像」 油絵の具による		
8	表現研究 「自画像」 油絵の具による		
9	表現研究 「自画像」 油絵の具による		

10	表現研究 「自画像」 分解・再構成(キュビズム的思考・表現) 表現素材、技法(コラージュ、ドローイングなど)、サイズ自由
11	表現研究 「自画像」 分解・再構成(キュビズム的思考・表現) 表現素材、技法(コラージュ、ドローイングなど)、サイズ自由
12	合評・採点 合評は学生相互の作品を鑑賞、批評することでプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を 高める
13	「人物」研究 ① キャンバス張り ② 人物クロッキー
14	「人物」研究 モデル実習 木炭デッサン
15	「人物」研究 モデル実習 油彩
16	「人物」研究 モデル実習 油彩
17	「人物」研究 モデル実習 油彩
18	「人物」研究 モデル実習 油彩
19	「人物」研究 モデル実習 油彩
20	「人物」研究 モデル実習 油彩
21	「人物」研究 モデル実習 油彩
22	合評・採点 作品記録
23	【対面】< 初年次教育 > 初回授業 防犯・防災について(富田林警察)・心身のケアと健康管理(キャンパスサポートルーム) 展示ホール・収蔵庫・学芸員資格について(博物館) 図書館・展示ホール・体育館ギャラリー・インターネットルーム・体育館・トレーニングルーム・キャンパスサポートルーム・保健室・食堂・学生課・教務課等の学内見学 「大学生活の目標と行動計画」を基礎とし前期の目標や大学での学びについてクラスディスカッション。

科目名	油画実習Ⅰ	年次	1	単位数	3
授業期間	2022 年度 後期	形態	実習		
教員名	森 倫章				
クラス名					

授業目的と到達目標

この授業では|① 制作を通して、油絵の具の特性を経験する。|② 制作を通して、対象の持つ「形・色・空間・構造など」を観察、発見し、見取ったもの、感じ取ったものを絵画表現| に結び付ける。|③ 美術の歴史、理論にも触れる。|④ 合評を通して、作品の鑑賞力、批評力を高めるとともにそれらを言葉にする力を養う。||①、②、③、④の経験を2年次以降の授業に生かす。 |

授業概要

【対面授業】|制作を通して絵画表現の要素としての「色彩」「形態」「空間」「構造」などを経験する。|また、描画材料、美術理論、表現技法についても具体的にふれていく。 |

受講上の注意

油彩の技法及び油彩道具に関する知識を事前に学んでおく。|美術史・美術理論にも触れておく、できるだけ実際の作品を観賞する。 |

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
総合評価	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
実務経験: 画家としての絵画制作、発表の経験を活かし指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業ガイダンス 油画実習1について(授業日程など) 油彩画について(歴史、材料、技法など)		
2	色彩研究 ① 透明水彩絵の具を作る ② 自作の透明水彩絵の具による作品の制作		
3	色彩研究 水彩絵の具によるカラーチャートの制作(重色、混色)		
4	表現研究 「風景」 水彩絵の具による		
5	表現研究 「静物」 油絵の具による(モノクローム)		
6	表現研究 「静物」 油絵の具による(モノクローム)		
7	表現研究 「自画像」 油絵の具による		
8	表現研究 「自画像」 油絵の具による		
9	表現研究 「自画像」 油絵の具による		

10	表現研究 「自画像」 分解・再構成(キュビズム的思考・表現) 表現素材、技法(コラージュ、ドローイングなど)、サイズ自由
11	表現研究 「自画像」 分解・再構成(キュビズム的思考・表現) 表現素材、技法(コラージュ、ドローイングなど)、サイズ自由
12	合評・採点 合評は学生相互の作品を鑑賞、批評することでプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を 高める
13	「人物」研究 ① キャンバス張り ② 人物クロッキー
14	「人物」研究 モデル実習 木炭デッサン
15	「人物」研究 モデル実習 油彩
16	「人物」研究 モデル実習 油彩
17	「人物」研究 モデル実習 油彩
18	「人物」研究 モデル実習 油彩
19	「人物」研究 モデル実習 油彩
20	「人物」研究 モデル実習 油彩
21	「人物」研究 モデル実習 油彩
22	合評・採点 作品記録
23	【対面】< 初年次教育 > 初回授業 防犯・防災について(富田林警察)・心身のケアと健康管理(キャンパスサポートルーム) 展示ホール・収蔵庫・学芸員資格について(博物館) 図書館・展示ホール・体育館ギャラリー・インターネットルーム・体育館・トレーニングルーム・キャンパスサポートルーム・保健室・食堂・学生課・教務課等の学内見学 「大学生活の目標と行動計画」を基礎とし前期の目標や大学での学びについてクラスディスカッション。

科目名	油画実習Ⅰ	年次	1	単位数	3
授業期間	2022 年度 後期	形態	実習		
教員名	森 倫章				
クラス名					

授業目的と到達目標

この授業では|① 制作を通して、油絵の具の特性を経験する。|② 制作を通して、対象の持つ「形・色・空間・構造など」を観察、発見し、見取ったもの、感じ取ったものを絵画表現| に結び付ける。|③ 美術の歴史、理論にも触れる。|④ 合評を通して、作品の鑑賞力、批評力を高めるとともにそれらを言葉にする力を養う。||①、②、③、④の経験を2年次以降の授業に生かす。 |

授業概要

【対面授業】|制作を通して絵画表現の要素としての「色彩」「形態」「空間」「構造」などを経験する。|また、描画材料、美術理論、表現技法についても具体的にふれていく。 |

受講上の注意

油彩の技法及び油彩道具に関する知識を事前に学んでおく。|美術史・美術理論にも触れておく、できるだけ実際の作品を観賞する。 |

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
総合評価	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
実務経験: 画家としての絵画制作、発表の経験を活かし指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業ガイダンス 油画実習1について(授業日程など) 油彩画について(歴史、材料、技法など)		
2	色彩研究 ① 透明水彩絵の具を作る ② 自作の透明水彩絵の具による作品の制作		
3	色彩研究 水彩絵の具によるカラーチャートの制作(重色、混色)		
4	表現研究 「風景」 水彩絵の具による		
5	表現研究 「静物」 油絵の具による(モノクローム)		
6	表現研究 「静物」 油絵の具による(モノクローム)		
7	表現研究 「自画像」 油絵の具による		
8	表現研究 「自画像」 油絵の具による		
9	表現研究 「自画像」 油絵の具による		

10	表現研究 「自画像」 分解・再構成(キュビズム的思考・表現) 表現素材、技法(コラージュ、ドローイングなど)、サイズ自由
11	表現研究 「自画像」 分解・再構成(キュビズム的思考・表現) 表現素材、技法(コラージュ、ドローイングなど)、サイズ自由
12	合評・採点 合評は学生相互の作品を鑑賞、批評することでプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を 高める
13	「人物」研究 ① キャンバス張り ② 人物クロッキー
14	「人物」研究 モデル実習 木炭デッサン
15	「人物」研究 モデル実習 油彩
16	「人物」研究 モデル実習 油彩
17	「人物」研究 モデル実習 油彩
18	「人物」研究 モデル実習 油彩
19	「人物」研究 モデル実習 油彩
20	「人物」研究 モデル実習 油彩
21	「人物」研究 モデル実習 油彩
22	合評・採点 作品記録
23	【対面】< 初年次教育 > 初回授業 防犯・防災について(富田林警察)・心身のケアと健康管理(キャンパスサポートルーム) 展示ホール・収蔵庫・学芸員資格について(博物館) 図書館・展示ホール・体育館ギャラリー・インターネットルーム・体育館・トレーニングルーム・キャンパスサポートルーム・保健室・食堂・学生課・教務課等の学内見学 「大学生活の目標と行動計画」を基礎とし前期の目標や大学での学びについてクラスディスカッション。